

令和5年度

見曇山

第30号



高山西高等学校

学習三原則

一、生活を正す

二、目標を持つ

三、継続する

目 次

巻頭言 「Noblesse Oblige」	校長 小林隆徳	1
1. 各校務分掌からの実践報告		
(1) 教務部	総括 横田匡司	3
(2) 進路指導部	総括 山本大輔	8
	卒業生進路状況	11
(3) 生徒指導部	総括 堀尾 譲	14
	教育相談課 池上正巳	27
(4) 保健	山崎須磨子	28
(5) 特別活動部	鈴木慎太郎	31
(6) 広報部	総括 谷口正彦	36
(7) 渉外部	総括 川上千敏	38
(8) 環境教育課	総括 面手 啓	40
(9) 学年部	第1学年の取り組み 岩坂 晋	41
	第2学年の取り組み 鈴木慎太郎	41
	第3学年の取り組み 桂川剛士	42
2. 文 友		
ぎふグローバル人材育成推進モデル事業	小林隆徳	44
私学初任者研修	田中夕貴	50
3. 生徒活動報告		
生徒会活動	生徒会顧問 打江勇太郎	51
部活動（五十音順）		
アーチェリー部	杉浦成利	52
ウインドアンサンブル部	永瀬敬至	53
剣道部	前川矩英	54
硬式野球部	新海亮人	56

茶華道部	元田尚美	57
サッカー部	池上正巳	58
書道部	橋下大介	59
情報ビジネス部	荒井啓太郎	60
ソフトテニス部（女子）	面手 啓	61
ソフトテニス部（男子）	井上正己	63
卓球部	菅沼孝司	64
ディベート部	堀尾 讓	64
ハンドボール部（男子）	山下祐輝	65
バスケットボール部（女子）	下畑耕一	66
バスケットボール部（男子）	打江勇太郎	68
バドミントン部	三川俊哉	70
バレーボール部（女子）	蟹江信介	72
美術部	脇田修宏	72
陸上競技部	廣田孝司	73
レスリング部	木伏智仁	75

4. 国際交流

高山市スピーチコンテスト	B・雅	76
国際交流	井上正己	79

5. その他

令和5年度 職員一覧	83
令和5年度 高山西高等学校 略年誌	84
令和5年度 育友会・学校後援会・同窓会	86

編集後記

題 字 茂住善邨 氏

表紙絵 「いつも君は美しかった」 1 L 岩島百音 岐阜県高等学校総合文化祭 入選

巻頭言

Noblesse Oblige

校長 小林 隆徳



本校は今年度創立60周年を迎えます。幾多の風雪に晒されながらも、ここまで持続できたこと、これもひとえに本校の教育方針を支持し、吸収し、巣立ってくれた一万を越える卒業生たち、そしてその保護者の皆様、本校に幾多の英俊を送り出してくださった地元中学校の先生方、学校後援会をはじめとする学校を取り巻く全ての皆様方のご支援のたまものと感謝いたします。今回は他の私学にも倣い、特別記念式典などは行いませんが、60周年を記念する事業として本校舎の大改装を実施しました。学びの環境を整え、次なる還暦まで本校が発展することを祈り、邁進して参りたいと存じます。引き続き皆様方のご指導ご鞭撻、どうかよろしくお願い申し上げます。

さて、生徒のみんなが夢を叶え、よりよい人生を生きる上で不可欠の力として、事あるごとに「読解力」、「読解力」と、その重要性を唱えてきておりますが、最近うれしいニュースが目にとまりました。それは「高1 読解力 最高3位」という記事です。3年ごとにOECD81カ国を対象に行われるPISA調査で、日本の高校1年が過去最高の3位となったというものです。(科学的応用力が2位、数学的応用力が5位もあわせ、国際的なトップ水準を維持できた形になります)

その要因の分析としては

- ①小中学校での授業改善が進み、複数の文章やデータの読み比べなどPISAが求める資質が磨かれた。
- ②PISAが15年調査からパソコンで回答を入力する方式に変更したのに対し、日本では18年調査まで授業でのICT利用が少なく、入力に手間取る子が目立っていた。今回の調査では中3で端末が行き渡った世代であり、パソコンによる回答が足を引っ張ることはなかった。
- ③日本は(コロナ)休校期間が他国より短く、学習機会が確保された事が影響した可能性。…実際OECDも米欧メディアも数学・読解力のOECD加盟国の平均成績の大幅な低下を「前例のない」「歴史的」と表現し、コロナ禍が教育に及ぼした悪影響を強調しています。

④教育現場で「探究学習」の重要性が認識されつつある。単なる暗記学習から、考えて読解して表現する学習へと、教育現場が変身しつつある。とたたえる有識者もいます。

いずれにしても、小中学校における教育改革で、高めてくださった「読解力」高校教育で、落とすわけにはいきません。実際共通テストは、多くの科目で（それこそ新課程『情報Ⅰ』においても！）「**読解力＝文章をしっかりと読んで理解できる**」生徒が高得点を取れる仕組みになっています。言い換えると、かなりの問題で、**ちゃんと読み取れば、問題文の中に答えがある**。そういう問題が増えてきているのです。

現に、東大に楽勝で合格するレベルの多くの生徒が「共通テストは楽勝。だってしっかりと読めば、問題文の中に答えがあるじゃん。」といます。逆の言い方をすると、少し手厳しいですが、共通テストで高得点をとれない生徒の多くは、実は**問題文の中にある答えがちゃんと見つけられない生徒だ**と言えるのです。

今後とも、本校の生徒諸君には「安定して文章を読む」＝自分の「**読解力を高める**」ことを意識して過ごして欲しいと思います。日々の授業、補習で意識して身につけて欲しい力は、**自力でしっかりと文章を読み取れる力**。

もっと具体的には、

- ・文の構造
- ・代名詞が指す内容
- ・言い換え、二つの文が同じ意味なのか違うのか
- ・問題文を絵にすることが出来る
- ・定義の正確な理解

こういったことを、強く意識しながら、是非「読解力」を高めて欲しいと思います。

こういう力がしっかり身につについて、はじめてSociety5.0でAIに負けない人材になりうるし、高貴なる使命を全うする人材になり得るのです。

Noblesse Oblige

1. 各校務分掌からの実践報告

(1) 教務部

総括

教務部として考える「魅力ある学校づくりと今後の課題」

教務主任 横田 匡司

高山西高校では、「今の授業を最高のものにする → 生徒のやる気が引き出される → 生徒へ教員の本気・学校の本気が伝わる → 保護者へそれらが伝わる → 学校・生徒・保護者が一体となり学校が変わる」という考え方のもと、例年以下のことを行ってきた。

①授業評価アンケートの実施（年1回）

②公開授業週間の実施（年1回・3週間）

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月8日から「5類感染症」になった。ここ3年間新型コロナウイルスの影響で様々な制限があったが、この1年で緩和された。以前の西高祭（文化祭）や体育祭を全く知らない世代ばかりで行われる学校行事は、うまくいくのか非常に懸念された。担当教員の苦労も多かったが、生徒の頑張りもあり、西高祭、体育祭は、無事ほぼ例年通りに行うことができた。生徒の力を改めて感じる機会となった。また、2学年の修学旅行が北海道にて実施された。アクティビティのラフティングでは、北海道ならではの体験を楽しむことができた。徐々に以前の生活を取り戻しつつあるが、新型コロナウイルスは、教育において多くの問題を引き起こした。それと同時に、新しい教育の形を模索するきっかけとなった。学校の閉鎖やオンライン授業の導入により、学生たちは学習において多くの困難に直面した。また、学校が閉鎖されたことにより、学生たちは社会的な交流の機会を失い、孤独感を感じるがあった。一方で、オンライン授業の導入により、学生たちは自分のペースで、地理的な制限なく学習できるようになった。学校においては、ICT環境の整備が一気に加速した。全教室に電子黒板が整備さ

れ、Google MeetやZoomを用いてオンライン授業が難く行われるようになった。今までの授業形態と違うことがあり、オンライン授業をスムーズに行うために、本校の教員は、授業の前に必要な資料や教材を準備することに時間をさかれた。また、授業の進め方や時間配分も対面の授業とは大きく変わるため、対面授業とは異なる工夫が必要であった。以上のように、ICT環境の整備がここ数年で一気に加速し、数年前には考えられないようなオンライン授業等が当然のようにおこなわれるようになった。

教育現場においても、ICT環境の整備が進み、ペーパーレス化が進んでいる。例えば、オンライン授業においては、教材や課題の提出がオンライン上で行われることが多くなり、紙媒体による教材の配布や回収が減少した。また、本校においても、生徒の出席管理や成績管理などがオンライン上で行われるようになり、紙媒体による管理が減少した。これにより、ペーパーレス化が進み、業務効率化やコスト削減、環境保全などのメリットが得られるようになった。「授業評価アンケート」も一人一台端末への配信型で行った。準備は大変ではあったが、従来のマンパワーによる集計作業が無くなり、大きな負担減となったと感じる。この「授業評価アンケート」は、質問項目を精選することにより、今後は、毎時間実施することも可能だと考える。これにより、授業の質の向上も期待できる。

また、昨年度入学生から、観点別評価が導入された。学習指導要領に示された目標や指導事項に照らして、学習状況をいくつかの観点に分けて、その目標や指導事項に対して学習者がどれだけ実現できたかを評価する方法が「観点別評価」である。今回の文部科学省の通知では、①基礎的・基本的な知識・理解は「知識・理解」「技能」において、②これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力は「思考・判断・表現」において、③主体的に学習に取り組む態度は「関心・意欲・態度」の3つの新しい観点にお

いて評価することに整理された。本校では、最初の授業で、全教科担任が、生徒に対して観点別評価の「学習の到達目標」「評価方法（観点別評価）」「学習のやり方やその他学習に関すること、教科担当者からのメッセージなど」を告知した。昨年度から観点別評価の職員研修を数回重ねた。3つの観点で学習状況の評価するとともに、その後の指導や児童・生徒の振り返りにも役立てて、教育活動の質を向上させることを目標に取り組んではいるが、いくつかの課題がみえてきた。来年度以降も良い評価方法を模索し、改良を重ねる必要がある。

また、多様な生徒の学習ニーズに対応するため、資格取得講座の開設および授業とのタイアップを図りながら積極的な資格取得を目指し、生徒が「社会を生き抜く力」をいかに養成していくべきかを考える必要があると考える。生徒数の減少・飛騨地区外への中学生の流出などにより定員の充足が困難となっている現状の中で、私立高校である本校は、この現状に危機感を強めている。正常な経営が成り立つような生徒確保のためにも、進路実績を上げることや部活動などに力を入れることはもちろんであるが、今まで以上に、「生徒に自信と誇りを持たせる」にはどうすべきかを考え、教務部という立場から「魅力ある学校づくり」に努力する必要があると考える。

2. 今後の課題

授業評価アンケートでは、教員側の「ここがポイント」というような教える意図が生徒に伝わっていると感じられる意見が多く、今後の参考としていきたい。しかし、板書の仕方、話し方、授業の進度、ICT利用の教員の格差などに対する改善を求める意見もあった。このような意見にこそ真摯に耳を傾け、大いに授業改善に役立てていく必要があると感じた。授業評価アンケートは生徒からの授業評価であり、自分自身の授業を多面的・多角的に見直す機会となったことは、非常に有意義であったといえる。

さらに、これらの取り組みの後、盛んに教科内外の職員同士の意見交換、受験問題への対応等が話し合われる結果となったことは、教員にとって

良い刺激となったことの表れであろう。

今後は、いかに導入している取り組みを継続させていくのかが大きな課題である。それはつまり、我々教員が、「生徒に対して、魅力的で興味・関心が湧く授業を提供できるか」ということであり、いかに「授業の質向上の継続」を行うかである。来年度に向けて、授業評価アンケートの質の向上として、教科ごとの評価項目の導入を検討している。また、公開授業週間においては、実施時期・回数を検討している。これらを通して、いかに「教員個人の力から、組織力への移行」を図るのか、いかに「良い」と感じたことを積極的に導入する柔軟性と決断・勇気を持ち、「聖域をつくらない改善」を推し進めるのかを学校体制の中で検討する必要がある。生徒にとって最も大切な、学校生活の根幹をなす授業をあつかう教務部が中心となって、これらを発信していかなければならない。今後は今まで以上に「生徒が感動する授業を目指す」取り組みを模索する必要があると感じている。

高校生のための文化講演会

1. 講師 幾田桃子氏 (Momoko Ikuta、デザイナー・社会活動家)
1976年 埼玉県生まれ。南カリフォルニア大学在籍中に起業。
2003年 「ル・シャルム・ド・フィーフィー・エ・ファーファー」を開店、創業時より廃棄物ゼロ、職人を守り抜く姿勢を貫き、ファッションビジネスを展開。現在はファッション・アートブランド「MOMOKO CHIJIMATSU」を手がけ、そのヘッドピースやドレスは国内外のモード誌の表紙や特集を飾る。一方で、さまざまな企業や文化人と手を携え、社会をよくする活動に取り組む。
2013年 性教育絵本を出版し、第33回日本思春期学会で「美術・ファッション要素を取り入れた性教育絵本を通じて性教育を日常化する試み」を発表。
2021年 「りぼんプロジェクト」を始動し、2022年トヨタ自動車(幹の会)と協業。いのちの大切さを学ぶトレーラー「りぼん号」を設計/デザインする。「命の大切さ、ものの大切さ」について埼玉県公立小学校などで課外授業、講演なども行う。
2. 演題 『美しい未来のために「生きる」をデザインする』
3. 日時 令和5年6月13日(火) 10:00~11:30 (講演時間60分)
4. 主催 公益財団法人 一ツ橋文芸教育振興会 岐阜新聞社
5. 後援 文部科学省 岐阜県教育委員会 集英社ほか

6. プログラム

- ・開会挨拶 校長
- ・主催者挨拶 岐阜新聞社 営業局副局長 青木俊文 様
- ・講師紹介 集英社 渡辺於琴 様
- ・講演 講師 幾田桃子 様 (講演時間60分)
- ・質疑応答、生徒謝辞 挨拶 3K 石原小雪、花束贈呈 3F 高野孔明
- ・図書寄贈 受領 2G 中丸いろ葉さん

※講師紹介者から生徒代表に「集英社文庫100冊セット」及び講師著書を贈呈

- ・講師、主催者退場

幾田桃子氏は、2001年にアメリカで古着から子ども服を作るブランドを立ち上げ、ファッションやアートを通じて命の大切さを訴え、性暴力をなくすための活動を展開されている。幼少期から社会の不条理を考える子どもだった幾田氏は、中学時代には不登校になった同級生を教員と共にサポートしたエピソードを披露した。アメリカの大学で国際関係学と女性学を学んでいた幾田氏は、授業を通じ、愛するファッション業界が「環境汚染産業ランキング」の上位だと知った。そして大学在学中の2001年、社会問題をデザインで解決することを目指すべく起業した。起業から20年以上、ずっと持続可能な美しい社会の実現を目指し行動してきた幾田氏だが、その道のりは平坦ではなかった。特にブランド設立は、SDGsという言葉が生まれるよりずっと前のことだった。持続可能性が社会課題として浸透しておらず、「会社の理念を理解してもらうこと自体が難しかった」と当時の苦労を語った。幾田氏は、自身のファッションブランド以外での活動について語った。三菱電機製の携帯電話のデザイン・監修を担当した際には、女性向けの生理周期管理アプリ、性犯罪防止機能を世界で初めて搭載し海外からも注目を集めた。また東京都の女子校の制服をデザインした際には「そのままが可愛い」と学生が着崩すことなく着用し、制服の着こなし指導に頭を悩ませていた教員から感激されたことなどが紹介された。さらに、幾田氏の社会活動は児童への性教育にも及んだ。2013年には、命の大切さを伝え、性被害をなくした

いと、性教育絵本Doctor Peach Sex Educationを出版した。幾田氏は、講演で、美しい未来をデザインしていくのは私たち人間だと訴え、命の尊さを訴えた。また、困っている人がいたら、勇気を出して行動してほしいと呼びかけた。

創立60周年記念講演会

1. 講師 原田隆史氏

大阪市生まれ。奈良教育大学卒業後、大阪市内の公立中学校に20年間勤務。保健体育指導、生徒指導に注力、問題を抱える教育現場を次々と立て直し、「生活指導の神様」と呼ばれる。独自の育成手法「原田メソッド」により、勤務3校目の陸上競技部を7年間で13回の日本一に導く。大阪市教職員退職後、大学講師を経て、2008年に起業。「原田メソッド」に多くの企業経営者が注目し、武田薬品工業、三菱UFJ信託銀行、ユニクロ、カネボウ化粧品、神戸マツダ、住友生命保険、野村証券、キリンビール、損害保険ジャパン、高島屋、ジブラルタ生命、大阪ガス、パナソニックシステムデザイン、イーライリリー、横浜インターコンチネンタルホテルなどの企業研修・人材育成を歴任。これまでに約500社、10万人のビジネスマンを指導した実績を持つ。芸人、プロアスリート、プロスポーツチームやオリンピック選手のコーチング・メンタルトレーニング指導も行う。現在も、家庭教育・学校・企業の人材育成、講演・研修活動、テレビ出演、執筆活動など幅広い分野で活躍中。著書多数。

2. 演題 『夢を必ず実現させるメソッド』

3. 日時 令和5年 9月 22日 (金) 13:00~14:00 (60分) 生徒、教員
14:30~15:30 (60分) 教員

4. 場所 生徒対象：体育館、教員対象：特3教室

5. 生徒感想文

- ・今日の講演を聞いて、まずは日誌をつけることをやってみようと思いました。私は自分に自信を持つことができなくて、マイナス思考になりがちなので明日の自分をイメージして、一日を振り返ることを通して自分を変えていきたいです。
- ・本日は、貴重な講演をありがとうございました。今回の原田さんの話を聴いて、身近な所から自分の夢を実現させるために出来ることがあるという事に気付かされました。いつもスマイル明るく、どんな人も長所50短所50、周りよりまず自分から主体変容していくことで自然と自己肯定感が増し自信がつくこと、今の自分の生活を見直してみようと思う事ができました。原田さんがおっしゃっていた、活動とそのための準備をメモする事を少しずつ実践していこうと思いました。
- ・私は今の自分は誇れる自分ではありません。講演を聞いて、まだまだ努力が足りないのだと思います。原田さんのように、現状に満足せず、常により良い自分をめざしたいです。また、毎日自分の頑張ったことを振り返って、「心のコップ」を上向きにして、ポジティブに自分を考えることができるようにしたいです。
- ・今日、講演を聞いて、自分が夢を叶えるために何が重要なのかすごく意味のある時間を過ごすことができました。原田さんのお話にはすごく説得力があって自分の身に置き換えながら考えて話を聞くことができました。まずは自分にベクトルを向けて、自分が変わること、それを達成するためにも日々の自分を振り返って日々進化、日々成長していきたいです。自分のコップを上に向けて、その行動の意味を自分自身で作上げるからこそ、行動がそこに伴ってきて意味をなすと思うので、自分軸で自己管理できるようになりたいです。この講演を聞いたことに感謝して、自分の人生に活かしていきます。

村尾信尚氏&茂住菁邨氏コラボ企画：「ふるさとの若者と語る2023」

1. 講師 村尾信尚氏・茂住菁邨氏

村尾信尚氏は、日本の経済学者であり、関西学院大学教授、シナネンホールディングス取締役、ジャパン・プラットフォーム顧問。大蔵省主計局総務課課長補佐、三重県総務局長、大蔵省主計局主計官、日本テレビ『NEWS ZERO』メインキャスター等を歴任。岐阜県高山市出身で、一橋大学経済学部卒業後、大蔵省（現財務省）に入省。

茂住菁邨氏は、日本の書家であり、内閣府職員。岐阜県高山市出身で、大東文化大学経済学部を卒業後、総理府（現内閣府）に入庁。国民栄誉賞の賞状や内閣総理大臣表彰の揮毫を担当。また、書家としても活躍しており、日展の公募展に出品するなど、書道を追求し続けている。

2. 演題 村尾信尚氏&茂住菁邨氏コラボ企画：『ふるさとの若者と語る2023』

3. 日時 令和5年10月27日（金）

4. 場所 体育館

5. プログラム

- ・村尾氏・茂住氏「若き後輩達へ」各30分程度の講演
- ・村尾氏・茂住氏と生徒のトーク
- ・村尾氏「あきらめない」の言葉についての説明
- ・茂住氏 村尾氏の言葉を揮毫
- ・生徒代表お礼の言葉・生徒より花束贈呈

6. 生徒感想文

- ・村尾さんのようにいろんな仕事を通して若者に政治への関心を向けるような努力をする人生や、茂住さんのように一つのことを全力で極める人生があり、どちらも人としてカッコいいなと思いました。自分は将来の夢があるので、たとえどんな壁にぶつかろうと自分の信念に耳を傾けて全力で日々を生きていきたいと思いました。
- ・様々な経験をしてきたお二人の話を聞いて、自分はこれから先どのような出会いがあって何をするのか分からないけれど、その瞬間に自分がやりたいことに向かって全力で取り組んでいこうと思いました。私は優柔不断で物事を決めるのに時間がかかってしまうことや、一度決めたことに自信が持てないことがよくあり、それは利益を考えてしまっているからかもしれないと話を聞く中で思ったので、迷ったら何事もやってみることもや、何とかかなるといい意味で楽観的に考えることを頭に置いて過ごしていきたいです。
- ・私は進路を決めるにあたって、趣味の道に行くか資格、安定の道に行くかでとても迷っていました。今回のお話を聞いて、自分のやりたいことは何でもやっとうという気持ちになれました。進路はもう決めましたが、たとえ趣味は趣味でもずっと続けて自分なりに追い求めていきたいと思いました。私は何事も慎重すぎて思い切った行動をとれないことが多いので、チャレンジ精神で失敗してもいい経験になったと笑えるような、そんな人になりたいです。素敵なお話ありがとうございました。
- ・人生の先輩となるお二方のこれまでの人生のお話、人生に対する価値観を聞くことが出来て良かったです。村尾さんの社会は変わっても自分の声を聞き進み続ける生き方は素敵だなと思いました。また、どうすれば良いかは分からないけれども、自分が正しいと考えることが達成出来るために諦めず行動することの大切さを学びました。茂住さんは自分の好きなことをとことん極め、努力していらっやっして素晴らしいと思いました。私も将来があまりよく分からない部分が多いけれども、村尾さんのように自分を曲げず、茂住さんのようにこれと決めたことに向き合い努力できるように頑張ります。この度は素晴らしいお話と、素晴らしい文字を書いていただきありがとうございました。

(2) 進路指導部

総括

山本 大輔

本校の進路状況は、大学・短大進学（約65%）、専門学校進学（約25%）、就職・その他（約10%）となっており、いわゆる「進路多様校」という部類に属する。学校を取り巻く環境の中で、世の中の動きに一番影響を受けやすいのが本校のような「進路多様校」に在籍する生徒である。世の中の動向を見据え、職員が一丸となって生徒の進路指導に関わる必要性が年々高まってきている。

まず、全国の入試動向についてであるが、18歳人口は減少が続き、特に、2024年度入試では大幅な減少傾向が見られる。現高校3年生が受験する2024年度入試では約107万人と予想され、2020年度入試を基準として約9%減少する。そのため、全体的に入試競争は緩和される傾向にあるといえる。

また、新課程入試を控えて安全志向が高まりやすい環境にある。2024年度入試は、翌年の2025年度入試が新課程入試となるため、浪人を避けたいという心理から安全志向が高まると考えられる。共通テストの既卒生の志願状況の推移をみると、これまでも教育課程や入試制度の変わり目では既卒生の減少がみられており、2024年度入試でも新課程を控えた現役志向、安全志向の高まりが予想される。しかしながら、難関校では新課程を控えた安全志向はあまり見られていない。進研模試の進路希望動向によれば、国公立大全体の志望者数は、前年度を100とした際の指数において対前年指数97であるが、大学群別にみると、難関国立10大学の志望者数は対前年指数97、ブロック大学は100、その他の国公立大学は96となっている。やや難関国立10大学の志望者指数が小さくなったが、新課程を前に安全志向が予想される環境においては、強気の志望を貫いている生徒が多いといえる。さらに、難関私立大学の志望動向を見ると、早慶上理、MARCH、関関同立の難関13私立大学の志望者数は対前年指数100と、私立大学全体の志望者数の対前年

指数である96を上回っている。国公立大学と同様に、新課程を前に安全志向が予想される環境においても、強気の志望を貫いている生徒が多く見られる。私立大学全体では一般方式の志望者指数が高くなっているが、難関13私立大学においては、共通テスト方式の志望者指数が高くなっている。

全体的に見れば、国公立大学、私立大学ともに志望者数は受験者数と同程度の指数となっている。先ほども述べたが、国公立大学の志望者数は対前年指数97、私立大学の志望者数は対前年指数96といずれもやや減少している。また、私立大学全体の内訳をみると、一般方式が対前年指数97、共通テスト方式が対前年指数95となっており、難関校の動向とは異なり、共通テスト方式の志望者指数が高い傾向はみられなくなった。教科型別の受験者数をみると、5-8文系では対前年指数93、5-7理系では対前年指数94と、特に5教科型の受験者数の減少が目立つ。また、国公立大学、私立大学の人気に差がみられるエリア別の受験者数・志望者数をみると、北陸や九州・沖縄エリアでは、国公立大学よりも私立大学の志望者数の対前年指数が大きくなっており、北海道や関東、中部・東海、中四国エリアでは私立大学より国公立大学の志望者数の対前年指数が大きくなっている。

さらに、学部系統別の志望動向（指数）では、理系人気の傾向が弱まってきている。国公立大学では、全体の志望者数の対前年指数が97に対して、経済・経営・商学、社会学、医学、歯学、理学、農・水産学系統などは対前年指数を上回っている。一方で、国際関係学、総合科学、生活科学、薬学系統などでは、志望者数の減少が目立つ。近年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、医療系の学部系統で志望者数の増加が続いていたが、現3年生では医学系統の人気は継続しているものの、薬学系統では人気に落ち着きがみられる。私立大学では全体の志望者数の対前年指数96に対して、人文科学、経済・経営・商学、社会学、国際関係学、医学、理学、農・水産学系統などの対前年指数指数が上回っている。一方で、語学、教員養成・教育学、生活科学、保健衛生学、薬学系統などでは志望者数の減少が目立つ。近年は理

系人気の傾向が続いていたが、現3年生では国立大学、私立大学ともに、明確な理系人気の傾向は見られなくなっているといえる。

現在、大学志願者数が大学入学定員を下回る「全入時代の到来」が現実味を帯びている。大学名さえこだわらなければ誰でも大学に入れる時代となっており、各大学は生き残りをかけ、さまざまな教育改革に取り組んでいる。改革の内容は授業内容やカリキュラム、就職支援などさまざまであるが、どの大学も教育サービスの向上を目指し、受験生に大学の魅力や特色をアピールしようと必死である。そのため国立や私立を問わず、大学の個性化が進んでいる。その一方で、大学への「不本意入学」は7割を超えているといわれている。「この学校では何が学べるのか」「この大学では何を身につけられるのか」を調べ、自らに最適な進学先を探ることが大切となっている。進路目標を達成するために、何をすることが最善であるのか、指導する教員側は今まで以上に見極める必要がある。

就職については、求人数が例年以上に多く、急激な少子高齢化を背景とした「人材不足」が大きな問題であることが露呈した。超売り手市場となった今年度の本校の状況としては、全体的には非常に好調であったといえる。しかし、来年度以降も引き続き好調に推移するのかわからない状況がある。物価高や緊迫する世界情勢等の影響もあり、今後の動向を見守る必要がある。また、高卒就職者の就職後3年以内の全国的な離職率は36.9%となっている。再雇用が厳しいといわれる日本の現状の中で、指導する教員側には、慎重な職業選択の指導だけでは無く、離職すること無く企業に勤め、社会に貢献しうる人材育成が求められる。

そこで、本校の進路指導部では、方針・重点目標・具体的活動を以下のように決定し、今年度をスタートした。

<方針>

高校生活は将来の目標を達成するための重要な一過程であることを生徒一人一人に認識させるとともに、多様な価値観をもつ仲間と切磋琢磨する

機会を設け、学力を伸ばし、人格を陶冶することができる環境を整える。また、学校生活全般を通して自身の能力や適性に対する理解を深めさせ、自己実現と社会貢献の双方を目指す生き方を模索する態度を養い、将来的に地域社会を支える人材を育成する。

<重点目標>

1. 個々の能力や適性に応じた進路目標の確立に努める。
2. 望ましい勤労観および職業観の育成を図り、毎日の学校生活に意味を持たせる。
3. 教科指導やLHRにおける生徒との対話を通して、自分自身の生き方を模索する生徒を支援する。また、将来の目標を達成するために必要とされる能力を計画的に身につけさせる。

<具体的活動>

1. 情報収集・提供（ベネッセ、河合塾等の説明会には、該当学年の担任も参加）
 - ・進路ガイダンス、進路の日の運営
 - ・新入試、新学習指導要領等に関する情報の収集
 - ・生徒の自覚を高める進路企画の運営
 - ・補習授業、勉強合宿、推薦入試小論文、各種進路関連資料、タブレット端末などの効果的活用
2. 模擬試験の効果的活用
 - ・進学模試（ベネッセ・河合塾・駿台）、公務員試験、就職模試
 - ・事前指導、結果の分析と指導
3. 企業見学（1年特進Ⅱクラス）、企業実習（2年特進Ⅱクラス）実施、企業説明会（全校）
 - ・事前指導、事後のふり振り返り指導
4. 作文、小論文、面接、履歴書等の早期からの指導、ポートフォリオの利用
 - ・自身の考えを表現する力の醸成
5. 進路決定後の指導
 - ・生徒に自己理解を深めさせる指導
 - ・卒業後の自身の生き方を考えさせる指導
 - ・生徒が抱える課題を解決する手段や方法に関する指導

1. 本校における就職の動向と取り組み

今年度の就職については、例年以上に求人数が多かった。急激な「人材不足」が深刻な問題であることがうかがえた。本校では、就職活動の支援に Google classroom を活用している。就職希望者だけのclassroomを作成し、就職に関する連絡、求人票の閲覧などができるようになっており、利便性を高めている。

しかしながら、本校では就職者数が年々減少しており、3年生蛭雪クラスが1クラスであった今年度は、就職希望者が20名（うち公務員希望者9名）と特に少なかった。多くの地元企業に求人をいただいているものの、その期待に応えられない現状がある。また、高卒就職者の離職率が高い中で、職業や勤務についての意識や知識、それらが人生で果たす意義や役割について指導することが重要となってくる。そのため本校では、2年生特進Ⅱクラスを対象に、6月に4日間の日程で地元企業での「企業実習（インターンシップ）」を、2年生特進Ⅱクラス・3年生蛭雪クラスを対象に、6月には鹿島建設の協力による出前授業および建設現場（サンクチュアリコート高山）見学を、全校を対象に、7月・10月には地元企業体験型ガイダンスを、全校を対象に8月には、高山赤十字病院の協力による出前授業を実施した。また、社会人マナー講座や租税教室なども実施している。

公務員希望者に対しては、公務員補習や面接練習などを通し対策をしているが、今後さらに実績を伸ばすべく、情報の収集や対策の強化を図りたい。本校では、今年度から公務員試験対策に Google classroom を活用している。公務員希望者だけのclassroomを作成し、公務員試験に関する連絡、情報提供などができるようにして利便性を高めている。

2. 本校における進学の動向と取り組み

全国的な傾向として、四年制大学・短期大学ともに二極化の傾向が一層強く現れている。従来からの難関校は依然としてその地位を保っている。その一方、非常に難易度や倍率が低下した学校が増加し、中間層の大学・短大の減少が著しい。また、私立大学の入試定員の厳格化により、一般入

試での合格が厳しくなる現状の中で、総合型選抜（旧A0入試）や、学校推薦型選抜（旧推薦入試）で受験する生徒が非常に増えており、年内入試で合格を得たいという受験生が増加している。

近年本校でも「早く合格を得たい」という傾向が一段と強くなってきており、小論文や面接の対策に早くから取り組む生徒が多かった。これらを生徒の意欲的な取り組みと評価する一方、進路選択において、なるべく苦しい思いをしたくない、最後まで粘りきれない生徒が増加傾向にあるように感じられる。そのため、早い段階からの進路意識の醸成や進路目標の設定、3年間を見据えた進路ガイダンスの設定など、従来行ってきた進路指導の見直しも含めて、生徒にいかにも有益な情報を提供できるか考えていかねばならないと感じている。今後も、生徒たちの進路実現のため、全力を尽くしていきたいと考える。

令和4年度卒業生進路状況

四年制大学

	大学	学部・学科
1	【国】北見工業大学	工・地球環境工
2	【国】岩手大学	教育・学校教育教員養成・特別支援教育
3	【国】新潟大学	法・法
4	【国】富山大学	医・看護
5	【国】富山大学	医・看護
6	【国】富山大学	工・工
7	【国】富山大学	工・工・知能情報工学
8	【国】富山大学	工・生命工
9	【国】金沢大学	人間社会・人文
10	【国】金沢大学	理工・数物科
11	【国】山梨大学	工・先端材料理工
12	【国】信州大学	経法・応用経済
13	【国】岐阜大学	医・医
14	【国】鳥取大学	工・機械物理系
15	【国】鹿屋体育大学	体育・武道
16	【公】釧路公立大学	経済・経済
17	【公】釧路公立大学	経済・経済
18	【公】名寄市立大学	保健福祉・栄養
19	【公】宮城大学	事業構想・事業プランニング
20	【公】前橋工科大学	工・情報生命工
21	【公】高崎経済大学	経済
22	【公】高崎経済大学	地域政策
23	【公】東京都立大学	健康福祉・放射線
24	【公】都留文科大学	教養・学校教育
25	【公】岐阜薬科大学	薬・薬
26	【公】愛知県立大学	外国語・国際関係
27	獨協大学	経済・経営
28	獨協大学	経済・経営
29	江戸川大学	社会・現代社会
30	国際武道大学	体育・武道
31	千葉経済大学	経済
32	帝京平成大学	健康メディカル・理学療法
33	学習院大学	文・フランス語圏文化
34	北里大学	理・化
35	杏林大学	保健・リハビリテーション・理学療法
36	慶應義塾大学	理工・学門A
37	國學院大学	経済・経済
38	國學院大学	神道文化・神道文化
39	駒澤大学	グローバルメディアスタディーズ・グローバルメディア
40	駒澤大学	経営・市場戦略
41	駒澤大学	経済・経済
42	芝浦工業大学	システム理工
43	芝浦工業大学	工・応用化
44	上智大学	総合人間科学・看護
45	専修大学	経営・ビジネスデザイン
46	拓殖大学	政経・法律政治
47	玉川大学	リベラルアーツ・リベラルアーツ
48	玉川大学	観光・観光
49	玉川大学	観光・観光
50	玉川大学	経営・国際経営
51	玉川大学	芸術・アートデザイン
52	東海大学	児童教育・児童教育
53	東海大学	文・歴史
54	東京理科大学	工・建築
55	東洋大学	経済・経済

	大学	学部・学科
56	東洋大学	国際・国際地域
57	東洋大学	国際観光・国際観光
58	日本体育大学	スポーツ文化・武道教育
59	法政大学	文・哲
60	法政大学	法・国際政治
61	武蔵野大学	経営・経営
62	武蔵野大学	経営・経営
63	武蔵野大学	経営・経営
64	武蔵野大学	経済・経済
65	武蔵野大学	経済・経済
66	武蔵野大学	経済・経済
67	明治大学	文・フランス文学
68	明治大学	理工・応用化
69	明治学院大学	経済・経営
70	明治学院大学	経済・国際経営
71	早稲田大学	社会科学・社会科学
72	早稲田大学	文
73	東京医療保健大学	医療保健・医療情報
74	神奈川大学	外国語・中国語
75	神奈川大学	経済・経済・現代経済
76	聖マリアンナ医科大学	医・医
77	洗足学園音楽大学	音楽・音楽
78	金沢医科大学	看護・看護
79	金沢工業大学	バイオ化・応用バイオ
80	金沢工業大学	バイオ化・応用化
81	北陸大学	経済経営・マネジメント
82	北陸大学	薬・薬
83	帝京科学大学	医療科・東京理学療法
84	朝日大学	保健医療・看護
85	岐阜協立大学	経営・スポーツ経営
86	岐阜協立大学	経営・スポーツ経営
87	岐阜協立大学	経営・情報メディア
88	岐阜協立大学	経営・情報メディア
89	岐阜協立大学	経済・経済
90	岐阜協立大学	経済・経済
91	岐阜協立大学	経済・公共政策
92	岐阜協立大学	経済・公共政策
93	岐阜聖徳学園大学	看護・看護
94	岐阜聖徳学園大学	看護・看護
95	岐阜聖徳学園大学	教育・学校教育・国語
96	岐阜聖徳学園大学	教育・学校教育・体育
97	岐阜聖徳学園大学	経済情報・経済情報
98	中京学院大学	看護・看護
99	東海学院大学	健康福祉・総合福祉
100	中部学院大学	スポーツ健康科・スポーツ健康科
101	中部学院大学	看護リハビリテーション・看護
102	中部学院大学	看護リハビリテーション・看護
103	中部学院大学	看護リハビリテーション・看護
104	中部学院大学	看護リハビリテーション・理学療法
105	岐阜医療科学大学	看護・看護
106	岐阜医療科学大学	看護・看護
107	岐阜医療科学大学	保健科・放射線技術
108	岐阜医療科学大学	保健科・臨床検査
109	岐阜医療科学大学	保健科・臨床検査
110	岐阜医療科学大学	保健科・臨床検査

	大 学	学 部 ・ 学 科
111	岐阜保健大学	看護・看護
112	静岡理工科大学	情報・コンピュータシステム
113	愛知大学	経営・経営
114	愛知医科大学	看護・看護
115	愛知学院大学	健康科・健康科
116	愛知学院大学	文・歴史
117	金城学院大学	看護・看護
118	金城学院大学	薬・薬
119	金城学院大学	薬・薬
120	金城学院大学	薬・薬
121	椋山女学園大学	文化情報・メディア情報
122	中京大学	スポーツ科・競技スポーツ科
123	中京大学	経営・経営
124	中京大学	経営・経営
125	中京大学	経営・経営
126	中京大学	現代社会・現代社会・社会学
127	中京大学	工・メディア工
128	中京大学	工・機械システム工
129	中京大学	国際・国際政治
130	中京大学	心理・心理
131	至学館大学	健康科・健康スポーツ科
132	至学館大学	健康科・体育科
133	至学館大学	健康科・体育科
134	中部大学	経営情報・経営総合
135	中部大学	経営情報・経営総合
136	中部大学	工・宇宙航空理工
137	中部大学	工・機械工
138	中部大学	工・機械工
139	中部大学	工・機械工
140	中部大学	工・機械工
141	中部大学	生命健康科・保健看護
142	東海学園大学	健康栄養・健康栄養
143	名古屋外国語大学	外国語・英米語・英語コミュニケーション
144	名古屋外国語大学	現代国際・現代英語
145	名古屋学院大学	経済・経済
146	名古屋学院大学	経済・経済
147	名古屋学院大学	経済・経済
148	名古屋学院大学	経済・経済
149	名古屋学院大学	商・商
150	名古屋経済大学	経営・経営
151	名古屋芸術大学	芸術・芸術・音楽
152	名古屋商科大学	経済
153	南山大学	国際教養・国際教養
154	南山大学	人文・心理人間
155	南山大学	人文・人類文化
156	南山大学	総合政策・総合政策
157	日本福祉大学	スポーツ科・スポーツ科
158	日本福祉大学	健康科・リハビリテーション・理学療法
159	日本福祉大学	健康科・リハビリテーション・理学療法
160	日本福祉大学	健康科・リハビリテーション・理学療法
161	日本福祉大学	健康科・リハビリテーション・理学療法
162	日本福祉大学	健康科・リハビリテーション・理学療法
163	日本福祉大学	健康科・リハビリテーション・理学療法
164	日本福祉大学	健康科・リハビリテーション・理学療法
165	日本福祉大学	健康科・リハビリテーション・理学療法
166	日本福祉大学	社会福祉・社会福祉・医療
167	名城大学	外国語・国際英語
168	名城大学	経営・経営
169	名城大学	経済・経済

	大 学	学 部 ・ 学 科
170	名城大学	農・応用生物化
171	名城大学	法・法
172	名城大学	法・法
173	名城大学	法・法
174	名城大学	法・法
175	名城大学	薬・薬
176	名城大学	薬・薬
177	名城大学	理工・応用化
178	名城大学	理工・数
179	名城大学	理工・数
180	名城大学	理工・数
181	豊橋創造大学	保健医療・看護
182	人間環境大学	環境科・環境データサイエンス
183	人間環境大学	心理・犯罪心理
184	日本赤十字豊田看護大学	看護・看護
185	日本赤十字豊田看護大学	看護・看護
186	修文大学	看護・看護
187	修文大学	看護・看護
188	一宮研伸大学	看護・看護
189	一宮研伸大学	看護・看護
190	皇學館大学	教育・教育
191	皇學館大学	文・国文
192	鈴鹿医療科学大学	看護・看護
193	鈴鹿医療科学大学	保健衛生・臨床検査
194	四日市看護医療大学	看護医療・看護
195	京都橋大学	経営・経営
196	京都橋大学	経済・経済
197	同志社大学	生命医科・医生命システム
198	明治国際医療大学	保健医療・柔道整復
199	立命館大学	経済・経済
200	立命館大学	産業社会・現代社会
201	立命館大学	文・地域研究
202	立命館大学	文・地域研究
203	龍谷大学	経済・経済
204	龍谷大学	経済・経済
205	龍谷大学	経済・経済
206	京都美術工芸大学	建築・建築
207	大阪経済大学	経済・経済
208	関西大学	人間健康・人間健康
209	関西大学	総合情報・総合情報
210	近畿大学	経済・経済
211	近畿大学	経済・経済
212	近畿大学	経済・経済
213	摂南大学	国際・国際
214	関西学院大学	経済・経済
215	関西学院大学	生命環境・生命医科
216	関西学院大学	生命環境・生命医科
217	神戸女子大学	家政・管理栄養士養成
218	別府大学	国際経営・国際経営
219	国 防衛大学校	人文・社会科
220	国 防衛大学校	理工
221	国 防衛大学校	理工
222	国 防衛大学校	理工
223	国 防衛大学校	理工
224	国 防衛大学校	理工
225	国 防衛大学校	理工
226	国 防衛大学校	理工
227	国 防衛大学校	理工
228	国 防衛大学校	理工

短期大学

	学 校 名	学 部 ・ 学 科
1	【公】 岐阜市立女子短期大学	健康栄養
2	愛知文京女子短期大学	幼児教育
3	岡崎女子短期大学	幼児教育
4	岐阜県農業大学校	畜産
5	高山自動車短期大学	自動車工
6	修文大学短期大学部	幼児教育
7	洗足こども短期大学	幼児教育保育
8	大垣女子短期大学	幼児教育
9	中日本自動車短期大学	自動車工
10	中部学院大学短期大学部	社会福祉
11	中部学院大学短期大学部	社会福祉
12	平成医療短期大学	リハビリテーション・理学療法

専門学校

	学 校 名	学 部 ・ 学 科
1	HAL名古屋	ゲーム制作
2	HAL名古屋	ミュージック
3	JA岐阜厚生連看護専門学校	看護
4	トライデントコンピュータ専門学校	Webデザイン
5	ベルフォート美容専門学校	美容
6	岐阜保健大学医療専門学校	スポーツ健康・柔道整備
7	住田美容専門学校	美容師免許メイク&ネイル
8	専門学校トヨタ名古屋自動車大学校	自動車整備
9	早稲田美容専門学校	美容
10	大原簿記情報医療専門学校	税理士企業会計
11	大原法律公務員専門学校	警察官・消防官
12	大原法律公務員専門学校	公務員
13	大原法律公務員専門学校	公務員
14	大原法律公務員専門学校	行政法律
15	大原法律公務員専門学校	資格取得&公務員
16	大原法律公務員専門学校	消防官
17	中日美容専門学校	美容
18	中日美容専門学校	美容
19	東海医療科学専門学校	理学療法
20	東海医療技術専門学校	診療放射線
21	東海工業専門学校	測量
22	東海工業専門学校	土木工
23	日本プロスポーツ専門学校	スポーツ
24	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校	社会福祉
25	保育・介護・ビジネス名古屋専門学校	社会福祉
26	名古屋ウェディング&ブライダル専門学校	ウェディングプランナー
27	名古屋こども専門学校	こども総合
28	名古屋デザイナー学院	インテリアデザイン
29	名古屋ビューティーアート専門学校	美容
30	名古屋ユマニテク調理製菓専門学校	調理師
31	名古屋リゾート&スポーツ専門学校	スポーツトレーナー・野球トレーナー
32	名古屋医健スポーツ専門学校	理学療法

就職内定状況

	就職先企業
1	アイシン軽金属株式会社
2	アルプススチール株式会社
3	金子工業株式会社
4	カネヨシ商事株式会社
5	DNP田村プラスチック株式会社
6	株式会社 全日警
7	株式会社ひだホテルプラザ
8	株式会社ひだホテルプラザ
9	株式会社ひだホテルプラザ
10	株式会社ファミリーストアさとう
11	株式会社大装
12	株式会社飛驒ハム
13	株式会社アクアテック
14	高山信用金庫
15	濃飛乗合自動車株式会社
16	東罐高山株式会社
17	飛驒亭花扇
18	飛驒農業協同組合
19	平和メディック株式会社
20	飛驒産業株式会社

公務員

	業 種
1	一般曹候補生
2	一般曹候補生
3	自衛官候補生
4	自衛官候補生
5	自衛官候補生
6	国家公務員三種
7	裁判所事務官
8	飛驒市役所

(3) 生徒指導部

総括

堀尾 譲

生徒指導主事としての毎日のルーティーンでもある「朝の登校指導」の中で小さな変化に気づかされることが良くある。登校してくる生徒の顔ぶれは変わらないが、彼ら（彼女ら）が徐々に厚手のコートを着込み、マフラーにくるまれたようにして登校する姿を見るにつけ、冬の本格的な到来が間近なことを気づかされるのである。現段階では本格的な降雪がないことは有り難いが、10月初めまでの異常な高温と言い、11月に入ってから急激な気温の下降と言い、まるで四季から二季に変わりつつあるのではないかと不安な気持ちにさせられるほどである。いずれにしても体が芯まで冷えるようになってきたこの時期は、年内の総括をしなければならない時期でもある。ここで改めて今年度の生徒指導部としての活動を振り返ってみたい。

近年の高等学校における生徒指導の様態は大きく変化している。これまでのような刑法犯行為や不良行為・違反行為が減少する一方で、いじめ事案や不登校事案そして情報モラルに関する問題が増加している。特に不登校事案の増加は顕著である。コロナの影響から徐々に日常を取り戻しつつあり、学校行事や部活動の大会等もこれまでの方式に戻そうとしているところではあるが、依然として生徒たちはコロナ禍の影響から抜け出せていないように感じる。本校でも同様の問題を抱えており、不登校事案に関しては、今後も増加する可能性が否定できない。そのためこれまで以上に各職員が生徒一人ひとりとの関わりを大切に、担任だけでなくチームとしてこの事案に対応していくことが重要になってくる。

学校は社会（家庭）の縮図であり、現在の社会全体が抱えている問題が「高校生」という純粋なフィルターを通じて顕在化してくるものである。我々職員も社会の変化に合わせて「生徒指導」を考えていくことが求められているように感じる。

だからこそ前述のようにルーティーンを大切にすることで、生徒の微妙な変化を感じ、それを職員間で共有することで、生徒たちに「安心して学べる環境」を今後も提供し続けていきたい。

2023年度 高山西高等学校 生徒指導部 方針・目標

○生活指導課

【指導方針】

他者を認め、他者と調和、協調できる生徒の育成を指導の基盤とする。そして、その上で自ら進むべき道を探し出し、自力でその道を達成していくような気力溢れた自立心のある生徒の育成に努める。

*自ら決めた道を他者に妨げられることなく進むためには、人に迷惑をかけたり、人の進む道を妨げたり、独りよがりになったりしてはいけない。

*自らが自分を大切に思い、自立していくためには、その前に自分とは考え方や価値観も違う他者も受け入れ、認めることが不可欠。それが人への思いやりでもある。

【重点目標】

1. 教員が一丸となり、生徒への模範を示す。
2. 生徒理解に徹し、生徒との好ましい人間関係を築き、個々の生徒に適した指導の充実をはかる。
3. 生徒が自主的に判断し、行動に移せるように主体的な自己実現へのサポートをする。
4. 高校生らしい生活態度、道徳性、規範意識の育成に努める。
5. 情報モラルの徹底（スマートフォン・タブレット・SNS等の適切な利用）

【具体的活動】

1. 西高生としての自覚を持ち、責任ある行動と社会ルールを遵守するために。
 - (1) 遅刻ゼロやベル席指導の徹底を目指す。
 - (2) 西高生としての正しい服装及び生活指導の徹底をはかる。
 - (3) あいさつ・返事など、基本的な生活姿勢の徹底をはかる。
 - (4) 清掃指導の徹底をはかる。
 - (5) 8時完全下校を徹底する。
2. 問題行動ゼロを目指すために。
 - (1) 生徒との交流に努め、生徒との信頼感を深める。
 - (2) 教育相談の充実をはかり、一人ひとりの生徒理解に努める。
 - (3) 教育相談課と連携をはかり、事後指導の充実をはかる。
 - (4) いじめの積極的認知を確実にを行い、重大事態に陥らないように「いじめ対策組織」を中心に組織的に対応する。また、いじめの未然防止に積極的に努める。
3. 「自分を大切に作る心、他人を大切に思う心」を育てるために。
 - (1) 朝掃除・部活動・学校行事などを通し、互いを尊重し合うように働きかける。
 - (2) ホームルーム活動を通して、仲間を思いやる心の教育を充実させる。
4. 社会の一員であることを自覚させ、生命の安全と事故防止の心を育てるために。
 - (1) 交通ルールの厳守とマナー指導の徹底をはかる。
 - (2) 交通講話の実施やホームルームでの安全指導の徹底をはかる。
 - (3) 当番制登校指導及び一斉指導を実施する。
 - (4) 自転車通学生徒のカップ着用指導の徹底をはかる。

5. その他

- (1) 不必要なお金・嗜好品など、学校生活に関係ないものを持ち込ませない指導を徹底する。
- (2) 校門指導や校外の巡回指導を充実し、生活指導の徹底をはかる。
- (3) 生徒の SNS 利用に関する実態を把握し、適正な態度の育成に努める。

○教育相談課

指 導 方 針

日常の教育活動の中で、生徒理解に努めるとともに、どのように関わることが生徒を育てることになるかを的確に把握し、生徒一人一人が心身ともに成長できるような援助をする。

目 標

教育相談で自立の心を育てる ～生徒理解と支援の充実～

1. 集団の中での心身の発達を支援して育てる。
2. 学習支援・進路支援を通して育てる。
3. HR活動・特別活動を通して育てる。
4. 心理検査等の活用を通して育てる。

具体的活動

1. 各学年と連携して不登校傾向の生徒や支援の必要な生徒の把握と対応を確実に行う。
2. 心理検査等を実施し、生徒個人の特性を知ること、個への指導に役立てる。
1年生・・・SKK式適性検査
2年生・・・セラプラス（よりよい学校生活と友達づくりの為のアンケート）
3. スクールカウンセラーの導入（月1回）
4. 生徒の月別欠席状況調査（各学年との情報の共有・連携）

2023 生徒指導部 役割分担

生活指導課 課長 【江黒】

運営項目【責任者】	運営内容	運営担当
問題行動 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動が発生した場合、事案の調書を正確に作成する。また、対象生徒の事実確認を適切に行い、責任を持って保護者に直接受け渡す。 ・問題行動が起こらないように、積極的な指導を行う。 ・生徒への聞き取りは、2名以上で行う。また待機させる場合には、教員の監視ができる状況をつくること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○江黒・新海・宇都宮・元田（3年） ○菅沼（2年） ○前川・（田口）（1年） ◎池上（教相）
下宿生の指導 【新海】	<ul style="list-style-type: none"> ・予測できる問題の対処案を考え（下宿者ミーティングなども開く）、問題が発生した場合は適切に対処する。 ・下宿生の情報（下宿生一覧票の作成）を取りまとめる。 	前川・江黒・（田口）
JR・濃飛バス 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・JR・濃飛バスの担当者と連携し、利用生徒への各種連絡を行う。 ・利用生徒の情報を取りまとめ、データを管理する（警報への備え）。 ・警報発生時における生徒の帰宅管理を行う（JRから最終便の連絡が入るため、それに間に合うように駅へ送迎する）。 	生徒指導部職員
自転車通学者の登録・管理 【前川・堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学許可願・自転車保険加入の確認・雨カッパの確認に関する職員・生徒への指示。ステッカー番号のデータを管理し（掲示表の作成）、自転車盗難や家出などの対処に役立てる。 ・自転車ステッカーの発注と自転車への貼り付けを指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○江黒 ○菅沼 ○前川
交通安全指導 （自転車通学者をメインに） 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会などを利用して全学年または各学年に注意・喚起を行う。 ・交通講話と防犯講話の企画と運営を行う。 	生徒指導部職員
携帯・スマホ管理 【池上】	<ul style="list-style-type: none"> ・第2職員室での管理ロッカー全般 ・担任に対して、必要に応じて管理体制の指導を行う。 	生徒指導部職員
登下校指導 【菅沼】	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の登校指導の職員割り当て表を作成し、全職員への指示と運営を行う。 	生徒指導部職員 全職員
郊外巡視 【菅沼】	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査中の巡回指導の職員割り当て表（駅周辺、図書館、ショッピングセンターなどを含む）を作成し、全職員への指示と運営を行う。 	生徒指導部職員 全職員
避難訓練 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の計画と実施（必要であれば消防署等への協力を要請）を行う。 	生徒指導部職員
ネクタイ・リボン貸出 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・ネクタイ・リボンを忘れた生徒への貸し出しを行う。 	生徒指導部職員
いじめ防止対策 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会（年2回 4月と3月）、迷惑調査（年2回、7月と12月）、校内いじめ防止研修（年3回 4月と7月と11月）の運営実施を行う。 ・いじめ事案が発覚した場合、速やかに「いじめ対策組織」を招集し、組織で問題に対応する。（会議記録・指導記録の保管） 	生徒指導部職員
欠席者調査 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の欠席調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新海（3年） ・菅沼（2年） ・前川（1年）
データ管理 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・迷惑調査やその他の資料の管理・保存（5年間）を行う。 ・迷惑調査は電子データの形式で保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江黒 ・菅沼 ・前川

制服関連 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・フジヤ洋服、岐阜管公学生服株式会社との連絡などを行う。 ・新入生入学時の制服の販売に関する計画を行う。 ・譲り受け制服などの書類準備、受付、受諾などを行う。 ・クールビズや防寒着に備えた準備(ハンガー掛けの出し入れ)などを行う。 	生徒指導部職員
誓約書・学級日誌・ 生徒手帳・会計 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・誓約書の管理(3年間保存)、学級日誌の注文準備、生徒手帳の注文を行う。 ・生徒指導部の会計(育友会予算の執行)を行う。 	生徒指導部職員
顔写真 【新海】	<ul style="list-style-type: none"> ・顔写真の撮影の計画(挟場さんとの打ち合わせ)を行う。 ・撮影時の頭髪指導を行う。 	生徒指導部職員 (江黒・菅沼・前川)
環境美化指導 【面手】	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の清掃分担表(修学旅行や3年生自由登校などの時には臨時の割り当て表を作成する)と作業体験学習の分担表の作成を行う。 ・掃除用具の整理・管理などに関する指示を出す。 	元田(田口)
自動車学校指導 【江黒】	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車学校と打ち合わせをし、生徒への案内や指示を行う。 ・自動車学校への入校手順や手続きなどの文書を作成する。 ・自動車学校へ入校する生徒名簿の作成。 	3学年生徒指導職員
遺失物と傘の管理 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・遺失物ロッカーの整理、所有者への受け渡しを行う。 ・放置傘の再利用(貸出用傘として)に関して検討を行う。 	元田(田口)
MSリーダーズ 【新海】	<ul style="list-style-type: none"> ・MSリーダーズの活動運営を行う。 ・「あったかい言葉掛け運動」の運営を行う。 	堀尾・江黒・菅沼・前川
高山市補導員 【菅沼】	<ul style="list-style-type: none"> ・年間に数回実施される市内巡回指導(地区担当より指示される)に参加する。 	菅沼
SNS対応 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯・スマホに関する注意喚起、SNSに関する情報の提供など、未然に問題行動を防ぐ取り組みをする。(情報モラル講演会の企画→実施) 	池上
8時完全下校 【堀尾】	<ul style="list-style-type: none"> ・20時完全下校が徹底されるように指導する。 	生徒指導部職員
給食弁当 【宇都宮】	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のSHR後、担任から連絡をもらい、キャンセルによる個数の確認を業者に連絡する。 	元田
女子指導 【元田】	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査期間や年度初めの学年集会等の時間を活用して女子生徒に対して必要な指導や呼びかけ・問題提起をする 	宇都宮・(田口)

教育相談課主任 【池上】

教育相談全般 【池上】	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒への教育相談的な援助を中心となって行う。 ・不登校生徒の状況が分かるようにデータを管理し、状況に応じて発信する。 ・学年会等に積極的に参加し、担任や学年からの情報を得ると共に、改善に向けて対策案や指示を発信する。 	☆各学年主任 保健室(山崎) 生徒指導部職員
人権教育 【池上】	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の会議に参加し、人権に関する情報を得る。また、必要と思われる情報を職員に発信する。 	県から指示された指定教科の職員を指名し、県へ報告

高山西高等学校いじめ防止基本方針

令和5年4月6日

ここに定めるいじめ防止基本方針は、平成25年6月28日公布、平成25年9月28日施行された「いじめ防止対策推進法」（以下法という）第13条を受け、本校におけるいじめ問題等に対する具体的な方針及び対策等を示すものである。

1 いじめの問題に対する基本的な考え方

(1) 「いじめ」の定義

法：第2条（抜粋）

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

※「いじめは、どの生徒にも、どの学校でも、起こりうるもの」という認識の下、危機感をもって未然防止に努め、早期発見・早期対応並びに重大事態の対処を行う。

(2) 具体的ないじめの態様

- ・冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ・仲間はずれ、集団により無視をされる。
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ・ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- ・金品をたかられる。
- ・現金および個人の所有物を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
- ・パソコンや携帯電話（スマートフォン）等で、誹謗中傷や嫌なことをされる 等。

(3) 学校姿勢

- ・学校教育全体を通じて、いじめを人権問題としてとらえ、「いじめは人間として絶対に許されない行為」であるという意識を生徒一人一人に徹底する。
- ・いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進め、生徒一人一人を大切にする教職員の意識や日常的な態度を高める。
- ・いじめ問題には、学校が一丸となって組織的に対応し、未然防止はもとより早期発見・早期対応に努める。
- ・解決したと即断することなく、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行う。
- ・生徒の主体的、積極的ないじめ未然防止活動を推進する。
- ・部活動内における良好な人間関係を築かせ、お互いが高めあえる組織を目指す。
- ・学校は、学校いじめ防止基本方針を年度の開始時に児童生徒、保護者、関係機関等に説明する。
- ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況は学校評価の評価項目に位置づける。

2 いじめの未然防止のための取り組み（予防に向けて）

法：第22条（抜粋）

学校は、当該学校におけるいじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、当該学校の複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめ防止等の対策のための組織を置くものとする。

（1）いじめ防止等の対策のための組織

〔組織の名称〕

『高山西いじめ防止対策委員会（常設）』→『高山西 学校いじめ対策組織（発生時）』

〔組織の構成員〕

- ・学校関係者：校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、各学年主任
- ・第三者：弁護士、臨床心理士、スクールカウンセラー、保護者代表などの参画を必要に応じて導入。

〔組織の目的と運営に関して〕

- ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応等を実効的かつ組織的に行う。
- ・年2回（4月と3月）「高山西いじめ防止対策委員会」を開催し、学校がいじめ防止に対する取組について見直しを図り、必要に応じて第三者からの意見を取り入れる。
- ・重大事態が発生した時は、「特別調査組織」を立ち上げ、対応に当たる。

（2）学校及び各分掌での「いじめ防止」に向けた取組

【学校全体・・・担任・副担任・学年主任・部顧問等】

- ・教育活動全体を通じて、全ての生徒に正しい人権意識を醸成する。
- ・生徒の豊かな情操や道徳心を育てる活動を推進する（地域貢献やボランティア等）。
- ・お互いの人格を尊重し合える態度を育成する。
- ・必要に応じてクラス担任や部活動顧問は担当する生徒との日誌（本校では自主記録という）の交換を行い生徒理解の充実と「いじめの早期発見」に役立たせる。また、日誌に心配される内容があった場合は、基本的には週1回開催される学年会でその対策案を協議し、管理職に相談した上で対応に移す。その為にも、情報の「報告・連絡・相談」体制を整え、管理職を中心としたシステムを構築する。
- ・いじめ対応に関わる教職員の資質能力の向上を図る職員研修等を4月、9月、1月に開催する。
- ・不登校の生徒などが出てきた場合、欠席日数が20日と30日に達した段階で、その原因と改善に向けての対策会議（ケース会議）を随時開催する。
- ・1年生については、学校生活に慣れはじめる5月頃に二者面談を行い、生徒の現状を把握する。
- ・全校生徒対象の三者面談を7月、12月、3月に行い、生徒の現状を把握する。

【生徒指導部】

- ・学校生活の規律を正し、生徒が主体的に授業や行事に参加できるよう指導する。
- ・「いじめ実態調査」(迷惑調査)を7月と12月に実施し、生徒の状況を把握する (Google Formを活用する)。また、その結果によっては必要な対策を協議し対応する (学校いじめ対策組織が主導)。
- ・週1回の生徒指導部部会を開き、学年会とも情報を共有して「いじめや不登校の未然防止」に努める。
- ・教育相談体制を整え、全教員がいじめ相談に対応できるよう職員研修を実施する。
- ・心理検査や性格検査等を有効に活用し全職員が生徒の掌握をできるようにする。
- ・情報モラルに関する指導を定期的に実施する。
- ・外部機関 (警察、子ども相談センター、各市役所の子育て支援課等) との連携を図る。
- ・MSリーダーズ等の社会貢献活動への参加を通して、社会の一員としての自覚を醸成するとともに、自己有用感や自己肯定感を育む。

【教務部】

- ・授業規律を整えるとともに、教科指導においては分かりやすい授業を目指す。
- ・生徒の授業における進捗を評価する上で「観点別評価」を効果的に実施し、個々の生徒の努力を最大限認め、評価できるようなシステムおよび雰囲気を構築する。

【進路指導部】

- ・1年次より進路について考える機会を設けることで、高校3年間における生徒の目的意識を醸成する。
- ・インターンシップや社会体験学習により、社会におけるルール及び規律を習得させる。

【特別活動部】

- ・いじめは人間関係のもつれがきっかけとなり深刻化していくと考えられるため、各担任や部活動顧問は、毎日の生徒との日誌 (自主記録) の交換の中で、早期に人間関係のもつれを発見し、適切な対応を取る (「学校全体」の項目にも記載)。
- ・HR活動の工夫により、生徒間のコミュニケーション力を育成する。
- ・集団活動を通して道徳心や倫理観を育成する。
- ・生徒会活動を通して、「いじめの未然防止」の重要性を周知する。
- ・学校行事を通じて全校及び学年・クラス内の協力・協調を促し、居場所や絆づくりを推進する。
- ・部活動内における良好な人間関係を築かせ、お互いが高めあえる組織を目指す。

【渉外部】

- ・保護者会等でのいじめ撲滅に向けた活動を推進する。
- ・いじめ問題について地域、家庭が連携した対策を推進する。

(3) 年間計画

月	行 事	取 組 内 容
4	始業式・入学式 <u>第1回高山西いじめ防止対策委員会</u> <u>第1回 校内いじめ防止職員研修</u>	・いじめ防止に関する講話 ・いじめ防止の年間の取組について検討 ・学校の方針と具体的対応の確認
5	教育相談 (1年生二者面談)	・生徒の生活状況や問題意識等の確認
6		

7	第1回 校内迷惑調査(全校) 三者面談	・いじめ、迷惑調査(全校) ・家庭生活の状況確認
8		
9	第2回 校内いじめ防止職員研修	・夏季休業明けの生徒情報交換会・教育相談中心
10		
11		
12	第2回 校内迷惑調査(全校) 三者面談	・いじめ、迷惑調査(全校) ・家庭生活の状況確認
1	第3回 校内いじめ防止職員研修	・冬季休業明けの生徒情報交換会
2		・いじめ防止の年間の取組みの検証と課題
3	第2回高山西いじめ防止対策委員会	・今年度の反省と来年度に向けての方針

3 いじめ問題発生時の対処 (発覚時の対応に関して)

(1) いじめ問題発生時 →発見時の初期対応に関して

法：第23条(抜粋)

学校の教職員、地方公共団体の職員その他の児童等からの相談に応じる者及び児童等の保護者は、児童等からいじめに係る相談を受けた場合において、いじめの事実があると思われるときは、いじめを受けたと思われる児童等が在籍する学校への通報その他の適切な措置をとるものとする。

2 学校は、前項の規定による通報を受けたときその他当該学校に在籍する児童等がいじめを受けていると思われるときは、速やかに、当該児童等に係るいじめの事実の有無の確認を行うための措置を講ずるとともに、その結果を当該学校の設置者に報告するものとする。

3 学校は、前項の規定による事実の確認によりいじめがあったことが確認された場合には、いじめをやめさせ、及びその再発を防止するため、当該学校の複数の教職員によって、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者の協力を得つつ、いじめを受けた児童等又はその保護者に対する支援及びいじめを行った児童等に対する指導又はその保護者に対する助言を継続的に行うものとする。

4 学校は、前項の場合において必要があると認めるときは、いじめを行った児童等についていじめを受けた児童等が使用する教室以外の場所において学習を行わせる等いじめを受けた児童等その他の児童等が安心して教育を受けられるようにするために必要な措置を講ずるものとする。

5 学校は、当該学校の教職員が第三項の規定による支援又は指導若しくは助言を行うに当たっては、いじめを受けた児童等の保護者といじめを行った児童等の保護者との間で争いが起きることのないよう、いじめの事案に係る情報をこれらの保護者と共有するための措置その他の必要な措置を講ずるものとする。

6 学校は、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認めるときは所轄警察署と連携してこれに対処するものとし、当該学校に在籍する児童等の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは直ちに所轄警察署に通報し、適切に、援助を求めなければならない。

[組織対応]

- ・「高山西 学校いじめ対策組織」による対応

[対応順序]

- ・学校の教職員がいじめに係わる情報を得た場合、速やかに、「高山西 学校いじめ対策組織」に報告し、組織的な対応につなげなければならない。
- ・被害者、加害者の事実関係の把握（複数の教員が関係生徒から個別に聞き取る）
- ・いじめとして対処すべき事案か否かの判断（人権侵害に当たるかどうか）
- ・判断材料が不足しているときはさらに調査
- ・被害生徒のケア（必要に応じて専門家によるケアを要請する）
- ・加害生徒の指導（成育歴や家庭環境等の背景を十分に考慮する）
- ・保護者への説明（事実確認、支援・指導方針、具体的な支援・指導方策）
- ・私学振興・青少年課及び県教委への連絡と経過説明（学校長が責任を持って報告する）
- ・経過の見守り（当該生徒に関わる複数の教職員による継続的な支援・指導）
- ・報告書の作成（経過、背景、対応、結果等）

※問題の解消とは、単に謝罪や責任を形式的に問うことで達成されるものでないことを理解し、生徒の人格の成長に主眼をおき、問題の再発を防ぐ教育活動を行うことが問題の解消となる。

(2) 「重大事態」と判断された時の対応

法：第28条（抜粋）

学校の設置者又はその設置する学校は、次に掲げる場合には、その事態（以下「重大事態」という。）に対処し、及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止に資するため、速やかに、当該学校の設置者又はその設置する学校の下に組織を設け、質問票の使用その他の適切な方法により当該重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行うものとする。

- 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

2 学校の設置者又はその設置する学校は、前項の規定による調査を行ったときは、当該調査に係るいじめを受けた児童等及びその保護者に対し、当該調査に係る重大事態の事実関係等その他の必要な情報を適切に提供するものとする。

3 第一項の規定により学校が調査を行う場合においては、当該学校の設置者は、同項の規定による調査及び前項の規定による情報の提供について必要な指導及び支援を行うものとする。

[①対応順序]

- ・私学振興・青少年課及び県教委（地域担当生徒指導主事を含む）へ報告し、事実関係を明確にするための詳しい調査を実施する。
- ・生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じた疑いがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。

〔②学校主体による調査組織の編成〕

- ・「高山西 いじめ対策組織」に、さらに必要な第三者を加えることができる。→ **特別調査組織**
※メンバーは重大事態に直接の人間関係又は特別の利害関係を有しないものとし、公平性、中立性の保持に努める。

〔③学校主体による調査における注意事項〕

- ・私学振興・青少年課及び県教委（地域担当生徒指導主事を含む）と連携を取り指示を仰ぐ。
- ・生徒のプライバシー及び関係者の個人情報に対する配慮は必要であるが、個人情報保護を盾に説明を怠ることがないようにする。
- ・因果関係の特定を急がず、客観的な事実関係を速やかに調査し、可能な限り網羅的に明確にする。
- ・学校にとって不都合なことがあったとしても、事実に真摯な姿勢で臨み、事態の解決に取り組む。
- ・生徒への聞き取り調査やアンケート調査を実施する場合は、その対象となる生徒や保護者に説明する等の措置が必要であることに留意する。
- ・調査結果は私学振興・青少年課に報告する（私学振興・青少年課から知事に報告する）。
- ・調査結果より明らかになった重大事態の事実関係等について、学校は私学振興・青少年課による指導及び支援を受けて、いじめを受けた生徒及びその保護者に対して、明らかになった事実関係等の情報を提供する。

4 いじめの解消

いじめは、単に謝罪をもって安易に解消とすることはできない。いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要がある。ただし、これらの要件が満たされている場合であっても、必要に応じ、他の事情も勘案して判断するものとする。

① いじめに係る行為が止んでいること

被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）が止んでいる状態が相当の期間継続していること。この相当の期間とは、少なくとも3か月を目安とする。ただし、いじめの被害の重大性等からさらに長期の期間が必要であると判断される場合は、この目安にかかわらず、学校の設置者又は学校いじめ対策組織の判断により、より長期の期間を設定するものとする。学校の教職員は、相当の期間が経過するまでは、被害・加害児童生徒の様子を含め状況を注視し、期間が経過した段階で判断を行う。行為が止んでいない場合は、改めて、相当の期間を設定して状況を注視する。

② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

いじめに係る行為が止んでいるかどうかを判断する時点において、被害児童生徒がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。被害児童生徒本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等により確認する。この場合において、事案に応じ、外部専門家による面談等により確認するなど適切に対応する。

学校は、いじめが解消に至っていない段階では、被害児童生徒を徹底的に守り通し、その安全・安心を確保する責任を有する。「高山西 学校いじめ対策組織」においては、いじめが解消に至るまで被害児童生徒の支援を継続するため、支援内容、情報共有、教職員の役割分担を含む対処プランを策定し、確実に実行する。

上記のいじめが「解消している」状態とは、あくまで、一つの段階に過ぎず、「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、学校の教職員は、当該いじめの被害児童生徒及び加害児童生徒については、日常的に注意深く観察する必要がある。

5 情報等の取扱い

(1) 個人調査データについて

いじめ問題が重大事態に発展した場合は、被害者やその保護者に経緯や内容等を知らせるための報告書の作成が必要となったり、訴訟等に発展した場合には情報の提示を求められたりすることもあることを想定して、生徒の個人調査データは、生徒の在籍期間内は必ず保管する。また、重大事態の調査組織においても、データが裏付け資料として大変重要であることから、必ず保管するものとする。特に生徒の自殺等が発生した場合は、心理検査、いじめ調査、迷惑調査等は大変重要な資料となる。

※心理検査等、いじめ調査（記名あり）、迷惑調査（記名あり）、進路調査等

(2) 心理検査等の有効活用について

心理検査については、生徒の性格や生活実態などを事前評価（アセスメント）するうえで有効な資料となり得るため、その扱いや活用方法について職員研修等を実施し生徒指導に積極的に利用する。

(3) 書類の保管期間など

- ・アンケートの保存期間は生徒の在籍期間とする。
- ・アンケートを取りまとめた資料（高山西 いじめ防止対策組織の資料）の保存期間は、「高山西 いじめ防止対策組織」の委員会を実施した後5年間とする。

策定日 平成31年4月1日

いじめ防止対策推進法

連携

岐阜県環境生活部
私学振興・青少年課

いじめ防止基本方針

小・中・高・特
学校

いじめ防止基本方針

岐阜県 環境生活部
私学振興・青少年課

【岐阜県】 岐阜県いじめ問題対策検討会
(県方針の検討・関係団体との
情報共有・市町村連携)

【岐阜県】 岐阜県いじめ防止対策審議会
(直接、重大事態の再調査にあたる)

【常設】(年2回程度)

高山西いじめ防止対策委員会
(学校方針の検討・情報共有・反省)



【仮設】(いじめ事案発生時)

高山西 学校いじめ対策組織
(いじめの認定・対応・説明・指導)

(重大事態に発展)

解決
(継続的なケア)

報告書の作成と被害者への提示

解決

再調査

重大事態→特別調査組織

* 必要な外部人材を加えることができる
[詳しい調査の実施]
・アンケート ・聞き取り 等

報告書の作成と被害者への提示

県・私学振興課の判断
(学校での解決が困難)

解決

(継続的なケア)

被害者の不服
再調査の依頼

県

岐阜県いじめによる重大事態再調査委員会
(知事部局によるいじめの再調査)
(構成員は全て第三者による調査)

教育相談課



池上正巳

本校の教育相談は生徒指導部・教育相談課として位置づけられており、昨年同様各学年主任と生徒指導部全員で協力し以下のような活動方針でスタートした。

今年度教育相談の活動方針

指導方針

日常の教育活動の中で、生徒理解に努めるとともに、どのように関わることが生徒を育てることになるかを的確に把握し、生徒一人一人が心身ともに成長できるような援助をする。

目標

教育相談で自立の心を育てる
～生徒理解と支援の充実～

- 集団の中での発達支援を通して育てる
- 学習支援・進路支援を通して育てる
- HR活動・特別活動を通して育てる
- 心理検査等の活用を通して育てる

具体的活動

- 各学年主任との連携を取り不登校傾向の生徒や支援の必要な生徒の把握と対応を確実に行う。
- 心理検査等を実施し、生徒個人の特性を知ること、個への指導に役立てる。
- 1年 SKK式適性検査
- 2年 セラプラス
- 岐阜県サポートステーションの活用
相談員による、月1回の訪問相談の実施

昨年同様、岐阜県若者サポートステーションに月1回の訪問相談を依頼している。内容としては、月1回3時間（一人1時間程度）飛騨地区エリアサポーターの澤谷さんに懇談していただいている。

不登校生徒への対応

①指導の目標

不登校という課題を通して、生徒の人的な成長を目指し、生徒の将来への進路、さらには社会的自立を目標とする。

最終的に他の生徒と同様に、学校生活を送れるようにする。

- ②本人・保護者との面談
- ③スクールカウンセリングの有効利用
- ④医療機関との連携
- ⑤再登校に向けた介入

場合によっては、進路変更も考えなければならない。（引きこもりを避ける）

今年度の状況と今後の課題

今年度、新型コロナウイルス感染症は、5月より5類となり、昨年度に比べれば授業、学校行事、部活動への影響は、少なくなったが、その影響はまだ大きく、生徒の心理状態は、まだまだコロナ前の状況ではない。

このような状況の中、昨年同様不登校傾向になる生徒も多く、特に1年生には最終的には進路変更しなければならない生徒も増えてきました。昨年の状況からある程度は予測されたが、対策を講じることが出来ず残念であった。また、次年度以降入学する生徒にも同様の心配が予想されます。

最近の生徒の特長としては、特別な支援の必要な生徒が増加していることや、過去のトラウマ的な事象を抱えている生徒も多く、いろんな観点から、生徒の現状の見立てを行わなければならない。

中学校から、個別の支援計画等引継ぎがあった生徒や、問題を抱えている生徒は増える一方である。そういった生徒が、引き続き不登校や問題行動につながるケースが多くなっている。

そういった問題を抱える生徒は、学力不足やコミュニケーション能力の欠如など、いろいろな問題が重なり合っているケースが多く、根本的な原因がわかりづらいことも対応の難しさとなっている。今後は、そういった生徒と根気強く接し、指導していくことが大切になってくる。

(4) 保健



総括

養護教諭 山崎 須磨子

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が蔓延して3年以上が経過し、令和5年5月8日から、COVID-19の感染症法上の位置付けが2類から5類感染症となりました。

COVID-19と共に生活することとなり、掃除方法が元にもどり、マスク着用も個人の選択となり、自主的な取組を中心とした対応に変わってきました。マスクの下の笑顔が見えます。

学校保健委員会の取り組みとして、COVID-19とともに暮らすために、今できることは何かを考えながら、生徒保健委員会を中心に、CO2モニターを使用しCO2濃度・PM2.5・PM10・HCHO・TVOCの測定をし、換気の重要性を試みました。データにより可視化することで、理解できるようにしました。また、感染予防の呼びかけは常時行い、睡眠、食事、運動の具体的な見直しに取り組みました。



- ・新型コロナウイルス感染症等予防対策の中、学校生活の場である教室の換気について力を入れて取り組みました。

CO2モニターで、換気効果を実感

<休み時間ごとに教室の窓と教室のドアを全開にする「1分間換気」を行っています。>
教室内の人流密度を測定するためにCO2モニターを使用し、休み時間（10分間）ごとに室内のCO2濃度・PM2.5・PM10・HCHO・TVOCを測定しました。

2K、2G、2Fクラスの測定結果をグラフで表わしました。

休み時間に教室のドアを全開にして「1分間換気」することで、教室内のCO2濃度を1,000PPM以下に抑えることができました。



どんな測定結果になるの？



きれいな空気！気持ちがいいね



換気はとっても大事だよ。よく考えてー♪♪♪

CO2の数値があがってきているよ。窓、全開!!



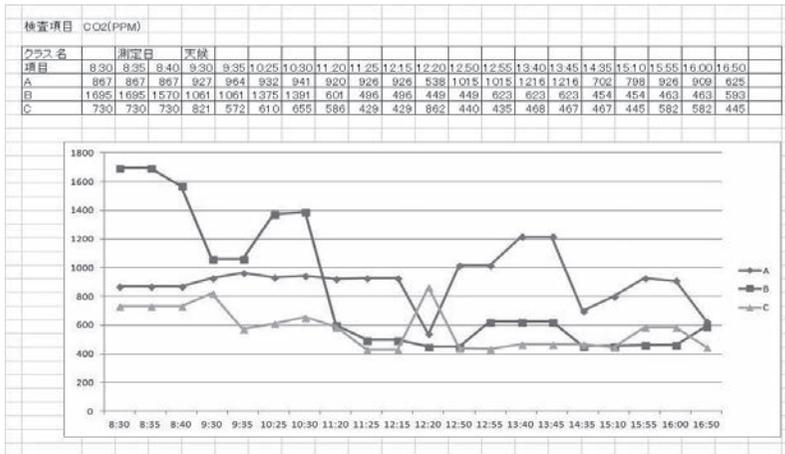
・教室では、人の呼吸、冷暖房により二酸化炭素（CO2）の影響を受けやすく、CO2濃度が1,000PPMになると、思考力・集中力が減少します。

時間帯により上下していることがわかります。CO2が高い時間帯では、人流密度や暖房によるCO2の排出量が多いため部屋の換気が必要となります。

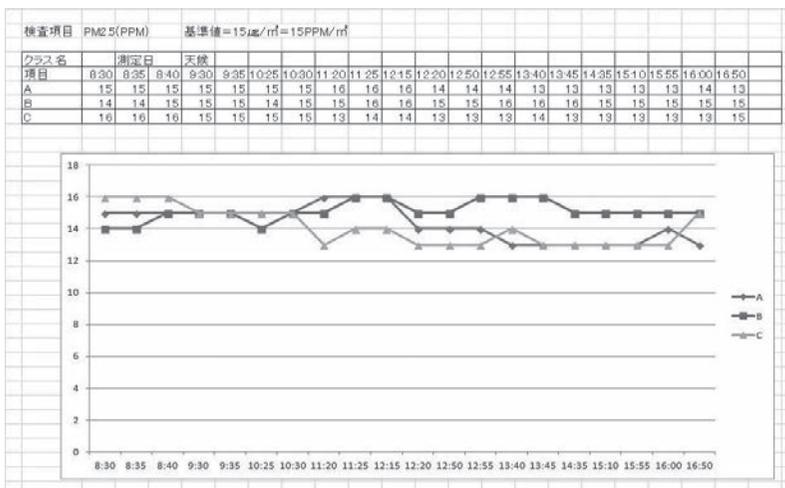
・昼休みに、測定し1,000PPMを超えて警告音（ピーピー）が鳴りだすクラスもありました。

今年度は、本校舎外壁工事があり、窓の全開が制限される期間があり、換気にも難しさがありました。

また保健室では、常時CO2モニターを置いています。保健室のCO2の濃度は、400～650PPMを常にキープしています。



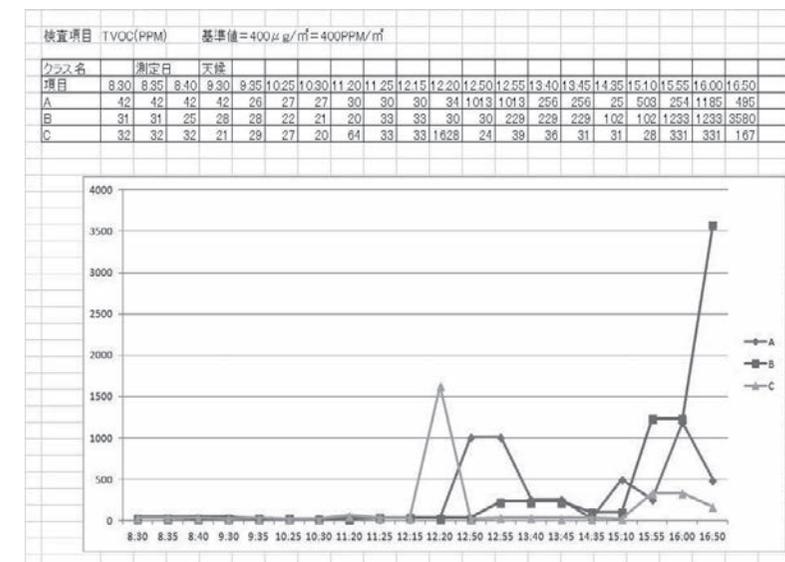
【CO₂ = 二酸化炭素基準は 1000 ppm以下】Bクラスでは、午前中の授業時間に基準値を上回っています。Aクラスは、午後の授業時間帯に上がっています。休み時間には下がっています。CO₂濃度が高くなると息苦しさや頭痛など色々な症状がでてきます。十分な酸素が脳に供給されず、作業効率が低下します。休み時間の換気により、下がっています。Cクラスは、常に換気を意識し、窓を常時開けています。



PM_{2.5}とPM₁₀についてPM (Particulate Matter=粒子状物質) 2.5とPM₁₀は、大気中を浮遊している大気汚染物質です。PM_{2.5}は粒子が小さいため、肺の奥まで到達し、人体に悪影響を与えます。各グラフでは、ほぼ基準値(15PPM)の範囲で変化しています。



TVOC=総揮発性有機化合物の総称です。粘膜を刺激するため、目がチカチカしたり、涙が出る、鼻水が出る、のどの渇き、痛み、咳などの原因となる化学物質です。Bクラスでは、特に15時過ぎから極端に基準値(400PPM)を上回っています。これは、昼休み・下校時に噴霧消毒を実施したことにより、拡散したアルコールが検知器のまわりに滞留していたことが考えられます。グラフは、2023/10/17~2023/10/24に測定したものです。



リフレーミング（今の見方とは違った見方をする）で短所も長所に！



今年度も、保健室の廊下に、リフレーミングを掲示しています。自分では短所だと思っていることも、見方を変えると長所になります、リフレーミングをして自分や友達のいいところをたくさん見つけてほしいです。

個人のマイナス思考は、精神的な病気の原因の一つと、なります。掲示物には、いろいろな場面に応じた長所・短所を表示して、わかりやすくしています。自らリフレーミングをして確認しています。

へえー
うわーっ、なるほど！

☆☆☆ リフレーミング人気ベスト3 ☆☆☆

1位	2位	3位
負けず嫌い っていわれる 向上心がある。 ってことだよ	よく考えない っていわれる 行動的 ことだよ。	周りを気にしすぎ っていわれる 心配りができる。 ってことだよ

保健活動奨励事業の成果より

◇令和5年度 岐阜県青少年赤十字作品コンクール◇ ~受賞おめでとうございます~

書の部 3K 美素 富稀さん 岐阜県議会議長賞
 絵画の部 3K 美素 富稀さん 優秀賞



・本校では青少年赤十字活動参加校として、献血運動の推進に力を入れています。本年度も139名の方が命を救う献血活動に協力してくれました。ありがとうございました。青少年赤十字作品コンクール 書の部・絵画の部の応募に参加し、協力をしています。

・令和6年度 第60回献血運動推進全国大会が岐阜県で開催されます。それに先立ち標語の応募42名、ポスターの応募3名 たくさんの応募をしてくれました。

11月には、インフルエンザ警報が発表されました。1月に入ってから、マイコプラズマ感染症・溶連菌感染症が増えています。日常での基本感染対策、生活環境、学習環境に合わせた一人一人の感染防止対策、感染防止管理が今一層大切になってくると思います。

食事や睡眠などで規則正しい生活習慣を送り、「私には〇〇が必要！（〇〇には栄養・睡眠など）」と意識し、健康で元気に過ごしてください。

(5) 特別活動部

鈴木 慎太郎

生徒会活動は打江先生を課長として、野村先生、池上先生、また体育科の先生方にもお手伝いをいただいた。部活動は上西先生を課長として、池上先生、打江先生に担当して頂き、今年度の特別活動部がスタートした。

[方針]

特別活動の意義を理解させ、諸活動において生徒の自主性、実践的な活動を促し西高生としての帰属意識を高める。

[本年度の重点目標]

1. 部活動の活性化と強化をはかる。
 - ・生徒の個性を伸ばし、向上心・責任感・忍耐力・協調性を培うなかで、たくましい心身を鍛え学校生活の充実をはかる。
2. 生徒会・委員会活動の活性化をはかる。
 - ・集団の一員としての自覚を持ち、互いに信頼・協力し積極的に活動に参加することにより、充実した学校生活をおくる。
3. 信頼され能動的なリーダーの育成をはかる。
 - ・部活動、生徒会、委員会活動及びクラスなど、リーダーとしての自覚を促し、活動的な運営・実践することにより、資質の向上をめざす。

[具体的活動]

1. 部顧問会議を定期的で開催し、顧問の意識の高揚と円滑な部の指導や運営及び連絡を密にする。
2. 生徒会リーダー研修を通じ、リーダーとしての自覚・役割を認識させ、資質の向上をはかる。
3. 「西高祭」・「体育祭」などの行事は、生徒の自主性を促し、全職員が組織的かつ積極的に協力し運営に関わる。

[総括]

約3年にわたった新型コロナウイルスへの対応も落ち着き、それ以前の活動状況に戻ってきた事を実感した1年であった。

今年度の「西高祭」は6月中旬に実施した。暑くなる盛りであり心配をしていたが、換気や空調を利用して生徒の体調管理に十分に注意を払い実施した。今年度よりコロナ前と同じ方法で実施する、ということを目指して打江先生と生徒会メンバーを中心に計画を進めていった。基本はかつての西高祭を踏襲したが、生徒会メンバーから「せっかくなら新しい試みを導入したい」という意見も出て「過去にとらわれない企画」を考えていった。クラス企画としては、2, 3年生はステージ発表、1年生は展示企画とした。クラスTシャツコンテストや有志企画は、これまで通りの実施方法であったが、これは生徒会からは是非、ということで実施した。今年度初めて導入した企画は「キッチンカー」を依頼したことである。高山でキッチンカーを運営する会社に依頼をして、5台のキッチンカーに來校していただき、様々な物品を販売していただいた。メリットとしては、学校で金銭のやり取りが不要になった事、購入できる種類が大幅に増加したこと、終了時刻までいつでも購入できること等があげられる。また、業者の方々からも「キッチンカーの収益は予想がつかない事が多く、準備も難しいが、今回は時間も収益も明確であり、準備もしやすかった。来年も是非、呼んでいただきたい」と好評だった。また今回は、3年生の保護者のみ観覧可能とした。平日の昼間であるにも関わらず、100名近い3年生の保護者の方々にご観覧いただいた。大変ありがたいことであった。

9月5日、体育祭。運営側として一番気をつけたことは、西高祭同様、猛暑対策であった。6月に入って以来、全国各地で真夏日が続き連日30度を超えていた。昨年度はコロナ対策もあり、実施競技はリレーと応援合戦のみとしたが、今年は競技をいくつか取り入れることに決めた。ただし、危険をとまなうものは極力避けるため、リレーと応援合戦に加え、各学年の男女別競技のみとした。また、猛暑対策の一環として「応援合戦は1

また、今年度も陸上部や野球部の躍進がめざましく、陸上部は11月に行われた岐阜県高等学校駅伝競争大会にて男子は5位、女子は昨年度に続き準優勝となり、東海大会に出場した。野球部は夏の大会において2、3回戦をコールドゲームで勝利し、4回戦で県立岐阜商業に破れはしたが善戦する姿を見せ、ベスト16に進出した。

文化系の部活動では、情報ビジネス部が第37回全国パソコン技能競技大会に出場し、団体で2位となった。優勝はならなかったものの、大変優秀な成績である。また、個人では昨年に引き続き船場太一君(2K)が優勝し、個人の部ではこれで本校の4連覇となっている。船場君は文部科学大臣賞も受賞した。

保護者の方々や外部コーチ、応援してくださる人々、部顧問の先生方、そして何より生徒たちの努力の結果、大変素晴らしい成績を残してくれた。

<飛騨地区総合体育大会 団体戦優勝>

優勝旗 9本獲得

バスケットボール部(男子)、バスケットボール部(女子)、ハンドボール部、剣道部(男子)、剣道部(女子)、バドミントン部(男子)、バドミントン部(女子)、陸上部(男子)、サッカー部

<全国総合体育大会(インターハイ)出場>

剣道部 女子団体(県予選1位)
女子個人 若尾樺子(3J)
(県予選1位)→全国大会ベスト16
アーチェリー部 男子個人 長澤祐太郎(3J)
(県予選4位)
女子個人 岩西はるか(3I)
(県予選5位)
レスリング部 男子学校対抗戦(県予選1位)
男子フリー65kg級 直井夢希(3A)(県予選1位)
80kg級 堤大智(1K)(県予選1位)
125kg級 笹俣結陸(3J)(県予選1位)

<各種大会>

- ・レスリングJOCジュニアオリンピックカップ
グレコローマンスタイル80kg級
準優勝 堤大智(1K)
- ・高山市長旗争奪剣道大会 女子団体 準優勝

- ・堤杯岐阜県高校ハンドボール選手権 準優勝
- ・岐阜県高等学校駅伝競走大会
男子の部
第5位 → 東海高等学校駅伝競走大会出場
女子の部 準優勝 → 東海高等学校駅伝競走大会出場
- ・飛騨駅伝競走大会 男子の部 優勝
女子の部 優勝
- ・U18日清食品 バスケットボール東海ブロックリーグ2023 男子 優勝
- ・岐阜県高等学校バスケットボール選手権大会
(ウィンターカップ予選) 男子 第2位
女子 ベスト8
- ・全国パソコン技能競技大会 情報ビジネス部
団体の部 準優勝、個人の部 優勝
- ・全国高校生英語ディベート大会 ディベート部
東海ブロック主催広域大会 優勝 → 全国へ
- ・全日本高等学校吹奏楽大会in横浜 ライブ部門
実行委員長賞
- ・岐阜県吹奏楽コンクール 大編成の部 金賞
- ・岐阜県吹奏楽マーチングコンテスト バレード
コンテストの部 金賞 → 東海へ

<岐阜県新人大会(3位以上)>

- ・剣道 男子団体 優勝
男子個人 5位 井上敬仁(2K)
5位 大瀬瑛亜(2H)
女子団体 ベスト8
女子個人 優勝 小山詩乃(2K)
2位 石原彩伽(1L)
5位 清水恋(2H)
- ・レスリング 男子個人
フリー 60kg 第2位 飯山福斗(1L)
71kg 優勝 堤大智(1K)
- ・アーチェリー 男子団体 優勝
男子個人 優勝 河合朔哉(2I)
第3位 羽根圭祐(2J)

体力測定に見る本校の現状 令和5年度 スポーツテスト 種目別上位者

(1年 男子)

種目	1位	記録	2位	記録	3位	記録
握力	F 垣内蒼太郎 (特I)	59kg	L 西 皓瑛 (野球)	58kg	L 飯山 福斗 (レスリ)	55kg
上体起こし	K 荒町 風斗 (サッカー)	43回	H 小田慎二郎 (野球) L 飯山 福斗 (レスリ)	42回		
長座体前屈	K 大越正一郎 (バスケット)	83cm	K 荻原 悠世 (野球)	79cm	J 白木 朝陽 (陸上)	78cm
反復横とび	J 大野 和真 (陸上) J 白木 朝陽 (陸上)	71点			L 西 皓瑛 (野球) L 藤本 遥斗 (陸上)	68点
シャトルラン	I 鈴木 悠矢 (バスケット)	142回	I 板倉 瑠都 (バスケット)	139回	K 森本 欽也 (陸上)	133回
50m走	J 白木 朝陽 (陸上)	6.3秒	J 清水 大輔 (野球)	6.4秒	H 國島 夢雅 (剣道) K 堤 大智 (レスリ)	6.5秒
立ち幅とび	J 増田 篤豊 (剣道) L 横田 莉玖 (ハンド)	270cm			H 水本 星牙 (野球) I 小笠原悠太 (陸上) K 今井庄一郎 (ハンド) K 佐伯 悠良 (バスケット) K 高岡 巧 (バスケット) L 藤本 遥斗 (陸上)	260cm
ボール投げ	L 今井 直太 (ハンド)	41m	F 垣内蒼太郎 (特I) H 菅沼 奏汰 (野球)	40m		
合計得点	J 増田 篤豊 (剣道)	76点	K 高岡 巧 (バスケット)	74点	I 小笠原 悠太 (陸上)	72点

(2年 男子)

種目	1位	記録	2位	記録	3位	記録
握力	H 戸谷 健人 (野球)	61kg	J 清原 蓮太 (ハンド)	58kg	I Jesse Adel (バスケット)	55kg
上体起こし	H 戸谷 健人 (野球) K 伊藤 峻真 (剣道)	43回			H 井口 隼 (バスケット) J 熊田 瑠斗 (バスケット) J 若田 理央 (陸上)	41回
長座体前屈	I Jesse Adel (バスケット)	90cm	J 坂本 創乙 (サッカー) K 井上 敬仁 (剣道)	76cm		
反復横とび	J 今井太玖馬 (バド)	76点	H 松谷 海志 (バスケット)	74点	H 野々山友哉 (バスケット) J 熊田 瑠斗 (バスケット)	72点
シャトルラン	I 森田怜太郎 (バスケット)	155回	K 成田 響 (バド)	148回	K 阿部 恵三 (バド)	137回
50m走	H 渡辺慶二郎 (陸上)	5.9秒	I 鈴木 瑛太 (剣道)	6.1秒	H 浅羽 亮介 (剣道)	6.3秒
立ち幅とび	J 熊田 瑠斗 (バスケット)	270cm	I 鈴木 瑛太 (陸上)	266cm	F 宮田 桜佑 (特I) G 玉舎 智悠 (特I) G 橋本 徳道 (特I) I Jesse Adel (バスケット)	260cm
ボール投げ	K 清原 瑛太 (ハンド)	48m	I 番場 紳介 (ハンド)	42m	K 角竹 弘多 (バスケット)	41m
合計得点	H 井口 隼 (バスケット)	76点	I 鈴木 瑛太 (陸上)	75点	J 清原 蓮太 (ハンド)	74点

(3年 男子)

種目	1位	記録	2位	記録	3位	記録
握力	A 滝村日々樹 (野球)	62kg	H 今井 悠仁 (野球) H 國見 空 (野球)	60kg		
上体起こし	K 下地 佑直 (野球)	46回	H 足立 聖太 (陸上) K 松林 粹人 (テニス)	45回		
長座体前屈	J 神田 栄貴 (サッカー)	79cm	I 堀之上宗佑 (野球)	75cm	G 青木 聖稜 (特I) I 新名颯汰朗 (野球)	72cm
反復横とび	I 竹下 遥叶 (剣道)	77点	I 高畠 彰悟 (ハンド) J 船坂 心 (バド)	73点		
シャトルラン	A 北澤 史琉 (バスケット)	147回	A 田尻 真三 (バド)	143回	A 野口雄士郎 (サッカー) H 藤井 孝貴 (バスケット)	140回
50m走	I 高殿 涼大 (陸上) K 桂川 慶大 (サッカー)	6.4秒			A 瀧川 雅人 (サッカー) G 青木 聖稜 (特I) H 尾前 徳厚 (野球) H 吉田 和史 (剣道) J 神田 栄貴 (サッカー)	6.5秒
立ち幅とび	G 塩屋 結基 (特I)	290cm	A 成 俊峰 (バスケット) G 金子 源真 (特I)	280cm		
ボール投げ	A 須田 光城 (野球)	45m	A 成 俊峰 (バスケット) G 青木 聖稜 (特I) H 藤井 孝貴 (バスケット)	44m		
合計得点	A 野口幸之亮 (野球)	79点	G 青木 聖稜 (特I) K 松林 粹人 (テニス)	78点		

(1年 女子)

種 目	1 位	記 録	2 位	記 録	3 位	記 録
握 力	I 井之下理美 (ウイン)	43kg	J 市田 旺良 (バスケ)	38kg	H 飯山 結美 (剣道)	37kg
上体起こし	H 飯山 結美 (剣道)	36回	J 市田 旺良 (バスケ)	33回	K 清水ゆりな (卓球) K 下畑 茉央 (バスケ)	32回
長座体前屈	J 足立 麗心 (マネ)	68cm	G 中津まひろ (特I) K 山口 連花 (卓球) L 工藤 杏 (剣道) L 長谷川かん奈 (茶道)	64cm		
反復横とび	J 市田 旺良 (バスケ)	67点	K 山口 連花 (卓球)	65点	K 下畑 茉央 (バスケ)	64点
シャトルラン	J 市田 旺良 (バスケ)	93回	I 三橋 真歩 (アーチェ)	90回	K 下畑 茉央 (バスケ)	89回
50m走	K 下畑 茉央 (バスケ) L 櫻野 双葉 (陸上)	7.5秒			J 市田 旺良 (バスケ)	7.6秒
立ち幅とび	F 中原 彩 (特I)	229cm	K 下畑 茉央 (バスケ) L 工藤 杏 (剣道) L 櫻野 双葉 (陸上)	220cm		
ボール投げ	G 岩堤あす香 (特I) K 山口 連花 (卓球)	25m			G 中津 まひろ (特I)	24m
合計得点	L 工藤 杏 (剣道)	78点	J 市田 旺良 (バスケ)	77点	G 岩堤 あす香 (特I)	73点

(2年 女子)

種 目	1 位	記 録	2 位	記 録	3 位	記 録
握 力	K 小山 詩乃 (剣道)	44kg	H 清水 恋 (剣道)	38kg	K 多和田妃紗 (剣道)	37kg
上体起こし	J 岩佐くる実 (バスケ) K 多和田妃紗 (剣道)	38回			F 廣島 優奈 (特I) F 横川 陽香 (特I)	37回
長座体前屈	J 志多 李葉 (書道)	74cm	I 川上 紗夜 (アーチェ)	68cm	J 桐野 真里花 (茶道) K 多和田 妃紗 (剣道)	67cm
反復横とび	J 志多 李葉 (書道)	68点	J 祐成 咲那 (バレ)	65点	H 山崎ゆりね (剣道) K 東 里美 (バスケ) K 益田 彩良 (陸上)	62点
シャトルラン	K 益田 彩良 (陸上)	97回	J 岩佐くる実 (バスケ)	91回	J 澤田麻莉乃 (陸上)	90回
50m走	K 東 里美 (バスケ)	7.4秒	H 清水 恋 (剣道)	7.5秒	I 垣内 鼓春 (バスケ) K 益田 彩良 (陸上) J 三井 蒼葉 (陸上)	7.6秒
立ち幅とび	H 小林歩乃佳 (マネ)	230cm	K 東 里美 (バスケ)	223cm	H 清水 恋 (剣道) I 垣内 鼓春 (バスケ) I 圓山 (レスリ) J 船坂 彩羽 (書道)	220cm
ボール投げ	J 志多 李葉 (書道)	31m	J 澤田麻莉乃 (陸上) K 小山 詩乃 (剣道)	27m		
合計得点	H 清水 恋 (剣道)	76点	J 志多 李葉 (書道)	75点	J 岩佐くる実 (バスケ) J 澤田麻莉乃 (陸上) J 三井 蒼葉 (陸上) K 小山 詩乃 (剣道)	73点

(3年 女子)

種 目	1 位	記 録	2 位	記 録	3 位	記 録
握 力	K 工藤 凜 (剣道)	43kg	G 岩堤 陽香 (特I)	41kg	J 古田 芽衣 (アーチェ)	39kg
上体起こし	J 若尾 樺子 (剣道)	37回	A 溝際 優依 (バレ) G 田口 和香 (特I)	36回		
長座体前屈	G 岩堤 陽香 (特I) G 田口 和香 (特I)	82cm			J 川原 美緒 (バスケ)	78cm
反復横とび	K 都竹 栞羅 (陸上)	66点	G 岩堤 陽香 (特I) H 下畑 柚月 (バスケ)	65点		
シャトルラン	A 久保 花月 (陸上)	123回	H 下畑 柚月 (バスケ)	112回	K 田口 莉子 (陸上)	110回
50m走	H 下畑 柚月 (バスケ)	7.3秒	J 川原 美緒 (バスケ) K 都竹 栞羅 (陸上)	7.4秒		
立ち幅とび	I 沖島 未咲 (マネ)	237cm	I 間地 芽衣 (バスケ)	223cm	H 下畑 柚月 (バスケ) K 桂川 菜子 (バド) K 桂木 風歌 (陸上) K 蒲 望実 (バスケ) K 都竹 栞羅 (陸上)	220cm
ボール投げ	A 溝際 優依 (バレ) H 西野 友 (マネ)	25m			A 田中 もえ (バスケ) G 平石 愛実 (特I) I 諏訪小百合 (マネ) K 桂川 菜子 (バド)	24m
合計得点	G 岩堤 陽香 (特I) K 桂川 菜子 (バド)	79点			H 下畑 柚月 (バスケ)	78点

(6) 広報部



谷口 正彦

総括

広報部の使命は、私学として優秀な人材を確保することである。そのために、生徒の夢をかなえるためのサポートを全力で行っていくのだという本校の強い思いを、中学生やその保護者の皆様、地域社会の方々に対し、さまざまな形で発信してきた。

少子化の中、本校の生徒募集は様々な工夫を重ね、定員確保に向けて全力で取り組んでいる。生徒募集に向けて新たな取り組みとして、昨年から引き続き購入物品の刷新と精選などを行った。各部活動の顧問にいたっては、飛騨地区外及び岐阜県外にも足を運び、一人でも多くの入学者確保に向けて奔走している。今後も継続して、様々な工夫を凝らして魅力のある高校生活を中学生にアピールしたいと考えている。

本校にとっては厳しい状況が続くが、このような状況であるからこそ、全教職員が本校の目指す高校像を共有し、危機感を持って日々の教育活動に取り組まねばならない。また、教育を取り巻く新しい状況に対応した教育体制を構築し、生徒たちが学業や部活動において着実に成果をあげていけるようにサポートしていかなければならない。

飛騨唯一の私学として我々が目指すところを明確にするとともに、その取り組みについて積極的な広報活動を行うことにより、この難局を乗り切っていきたいと思う。

今年度の広報活動は、昨年度からの継続項目を中心としながら、質の向上を目指している。以下、その内容を記す。

1. 中学校訪問

飛騨地区の各中学校の担当者を決め、6月と11月に本校在校生の様子を報告や入学試験に関するお願いを伝えた。

2. 中学校における高校説明会への参加

中学校からの要請に応えるべく、各中学校で開

催される高校説明会に参加させていただき、受験生やその保護者の皆様に本校の魅力を説明した。

3. オープンスクールや一日体験入学の実施

今年度は感染対策を万全に施した上に、予定通り開催することが出来た。オープンスクールでは本校の生徒が中学生や保護者の皆様を案内し、さまざまな質問に答えていた。また、一日体験入学では、中学生や保護者の皆様に本校の授業を体験してもらい、本校の雰囲気をもより深く感じていただくことができた。

4. 中学生・保護者対象個別入試相談会

高山会場（高山市民文化会館）で3回開催した。どのような質問や相談にも対応できるようにさまざまなブース（学校全般・特進Ⅰ・特進Ⅱ・部活動・奨学金等）を設け、説明させていただいた。

5. 学校案内「夢かなえる！」と、さらに詳細を示した「夢かなえる！増刊号」の作成

「夢かなえる！」の作成においては、生徒に親しみを持ってもらえるようなデザインと本校の魅力を中学生に伝えられるような内容を心掛けて作成し、中学生へ配布した。また、学校案内よりもさらに内容の詳しい「夢かなえる！増刊号」を作成し、各中学校に送付させていただいた。

6. 各種ちらしの作成

オープンスクール、一日体験入学、個別入試相談会、英検合格対策講座、数検合格対策講座などのちらしを作成し、各中学校で配布していただいた。

7. ホームページの充実

ホームページを訪れた方に、学校生活全般、部活動、行事ごとの本校生徒の取り組みの様子の紹介などを行い、本校の魅力を感じていただくために、コンテンツの充実を図っている。

8. 西高校のPRグッズの製作・配布

クリアファイル、えんぴつ、消しゴム、バッグなどのPRグッズを作った。これらはオープンス

クール、一日体験入学、中学生・保護者対象個別入試相談会などの機会に配布した。

9. 報道機関に対する情報の提供

毎月、高山市民時報に本校の広告を出し、ここで本校生徒の声を紹介している。また、様々な分野における生徒の活躍や本校の教育活動に対する取材を報道機関に依頼した。今後も積極的に情報を発信していく予定である。

(役割分担)

学校案内「夢かなえる」の作成

上西・(国語科)

西高ガイド「夢かなえる 増刊号」の作成

上西・(国語科)

岐阜県私学高校ガイドブックの作成

上西・(国語科)

教育関係出版社などの対応全般 上西

新聞記事切り抜きと掲示 荒井

学校行事部活動写真・動画フォルダの管理 荒井

学校行事部活動写真・ビデオ撮影

荒井・(各行事担当者)

ホームページ掲載用原稿作成

荒井・(教務部)

各種ちらし・ポスター作成 上西・(国語科)

学校ノベルティーなどの作成 上西・(教務部)

オープンスクール要項作成 上西・(教務部)

個別入試相談会要項作成および会場手配 上西

中学校訪問 (各中学校担当者)

行事等報道機関への連絡 上西

高山市民時報広告作成(毎月1回) 荒井

各種協賛金申請 上西

※括弧内は広報部以外

(7) 渉外部

川上 千敏

総括

渉外部の役割は、本校を取り巻く3つの団体の窓口となり、互いに連携しながら本校教育活動の更なる発展を目指していくことです。昨年度までコロナ禍で思うような活動を展開できませんでした。が、本年度から徐々にではありますが、本来の取り組みが可能になってきました。本校の後援会、育友会、同窓会の皆様におかれましては、本校の取り組みに対する深い理解と協力、そして暖かな助言など様々な角度からご支援を頂き、感謝しております。以下に、それぞれの活動を紹介します。

●育友会活動

【高山西高等学校育友会】

入会式 (4/7) ※入学式後

- ・育友会活動紹介
- ・学校生活について

第1回役員会 (4/12)

- ・自己紹介
- ・令和5年度事業案、予算案検討
- ・各自(役員)にて総会資料確認
- ・各委員会からの事業案、予算案の検討

育友会総会 (5/11)

- ・令和4年度事業報告、決算報告
- ・令和5年度事業案、予算案
- ・新役員選出

<各委員会の主な活動>

体 育	体育祭団席借用費 体育備品購入
生徒指導	防犯、交通講話講師謝礼 ネットセキュリティー
進路指導	就職希望者模擬面接実施 進路ガイダンス開催 親父ゼミナール開催
教 務	校誌「見量山」発行
文 化	育友会報発行(2回)

図 書	新聞、雑誌購入
厚 生	花いっぱい運動協力 衛生備品購入
母 親	フラワーアレンジメント開催

育友会報 配布 (8/1)

3年生模擬面接 (8/24)

- ・3年生の就職希望者を対象に、企業の人事担当者・育友会役員の方に協力していただき面接指導を行いました。

フラワーアレンジメント (12/1)

親父ゼミナール (2/19) 予定

第2回育友会役員会 (2月下旬予定)

- ・来年度新役員候補について

育友会報発行 (3/1予定)

- ・3年生保護者3名より寄稿
- ・3年生生徒3名より寄稿
- ・卒業生へ、贈る言葉など

育友会役員選考委員会 (3月中旬予定)

- ・退任役員代表1名と学級委員から選出された各学年代表2名の合計6名によって、次年度の育友会役員を選考します

【飛騨地区高等学校育友会連合会】

第1回理事会 (紙面報告)

- ・令和4年度事業、決算報告
- ・令和5年度事業、予算案
- ・指導者研修会計画案
- ・高等学校保護者連合会常任理事会報告
- ・(財)高等学校安全振興会評議員会報告

指導者研修会 (9/26)

- ・飛騨地区の高等学校の育友会(P T A)役員が集まり研修を行う。

本年度の発表は本校が担当になりました。下

畑了三育友会会長が、本校における育友会活動の実践内容を発表して下さいました。

第3回理事会（2月下旬予定）

- ・令和5年度事業会計中間報告
- ・令和6年度連合会組織、役員について
- ・令和6年度新役員選出について
- ・令和6年度指導者研修会計画案

【岐阜県高等学校PTA連合会】

定期総会（5/26オンラインにて）

- ・令和4年度事業、決算報告
- ・令和5年度事業、予算案
- ・新旧役員あいさつ

PTフォーラム（10/30）

【岐阜県私立高等学校保護者連合会】

第1回常任幹事会（5/10）

- ・総会資料の確認と役割分担
- ・新役員選出案
- ・請願署名運動計画案と依頼

通常総会（6/13）

- ・令和4年度事業、決算報告
- ・令和5年度事業、予算案
- ・役員改選
- ・功労者へ感謝状の贈呈

第2回常任幹事会（11/16）

- ・請願署名運動集約結果
- ・来年度の予定

●学校後援会

理事会、総会（6/28）

- ・令和4年度事業、決算報告
- ・令和5年度事業案、予算案

●同窓会

理事会（10/18）

- ・令和4年度事業報告、会計報告
- ・令和5年度事業報告案、会計中間報告

総会（11/15）

- ・令和4年度事業、決算報告
- ・令和5年度事業案、予算案

(8) 環境教育課

面手 啓

◎今年度の活動状況

1 LRQAのサーベランス

今年度より定期審査を年間1回の2日間とし、9月に審査が行われた。世界的な流れとなっているSDGs(持続可能な開発目標)とESD(持続可能な開発のための教育)とを関連付けた中期的EMS計画と学校経営の融合推進が継続されているかを重点的に確認し、以下のように審査が実施された。なお、今年度も対面審査は行わず、リモート審査(Zoom)とした。

①定期審査1 令和5年9月19日(火)

- ・ヒアリング 経営層 小林 隆徳 校長
- ・ヒアリング 事務部門 反中 雅之 事務長
- ・サイトツアー 改修箇所確認

来賓・生徒用トイレ：自動照明、車椅子対応
校舎内外：床面・外壁の全面改修

- ・環境授業 授業参観が不可能なため、事前に授業計画を提出し、実施後のコメントを加えて審査対象とした。

3年FG組 地理 菅沼 孝司 教諭

「食料問題」

地球温暖化、間伐、異常気象等に着目し、世界で発生している食料問題を通じて、今後の行動のあり方に関する授業が展開された。

2年F組 英語 荒井 啓太郎教諭

「Yellow Sand(黄砂)」

黄砂現象をテーマに、日本及び他国への影響や黄砂の由来・成分、発生原因、砂漠化の問題等について、英語の長文読解を通じて、環境に対する認識を醸成させる有効な授業が展開された。

②定期審査2 令和5年9月20日(水)

- ・ヒアリング 生徒会部門 鈴木慎太郎 特活部長

各委員会の取り組みと、学校行事(文化祭・体育祭)における環境に配慮した取り組みが確認された。

2 生徒会各委員会の取り組み

- ①環境美化委員会 ゴミの分別収集及び計量、感染症対策の徹底(手袋・マスク着用、消毒)
- ②文化委員会 西高祭(文化祭)・体育祭における環境教育の推進と換気の徹底
- ③図書委員会 環境関連図書の紹介・管理、図書館清掃、ポスターづくり
- ④LHR委員会 花いっぱい運動の継続
- ⑤風紀委員会 駐輪場の整理整頓、冬場の除雪作業

3 その他

- ①勤労体験学習(4・11月実施)
- ②各教科担任による各授業内での環境教育授業の実施

◎総括

今年度はコロナウイルス感染症が5類に移行し、各種の取り組みもコロナ禍以前に戻りつつある。しかしながら、感染症の脅威が去ったわけではなく、ISO14001への取り組みに対しても、感染対策を継続した。

更新審査では、本校の教育理念と教育方針のもと、法令順守、環境授業、生徒会教育等の活動を通じて、継続して環境に対する有効な運用が展開されているとの評価を得ることができた。また、継続して取り組んでいるSDGsの活動(探求飛騨)では、高山市に関してテーマ別(観光、水、地域包括ケア、災害など)にチーム体制で活動し、高山市や地元企業と連携した大変有効な活動が展開しているとの高評価も頂けた。

今後も引き続き環境教育やSDGsの活動を継続することで、有益な環境影響を一層増大させ、また環境に配慮した取り組みを実践することのできる人材の育成に力を入れていきたいと考える。

(9) 学年部

第1学年の取り組み

1学年主任 岩坂 晋

今年度、第1学年は男子110名、女子85名の計195名でスタートした。本校の生徒は、真面目で素直な生徒が多く、学習や部活動で高い目標を掲げて、日々努力を積み重ねている。また、目標を確実に達成してきたことを自負している生徒も多い。そんな先輩達のように一日も早く西高生として育ててほしいという願いから、『西高生としての自覚を持つ ～けじめのある生活～』を学年目標に定めた。また、クラス目標は以下のようなものである。

《クラス目標》

F組 『～考える輩～』

G組 『まずは一力年皆勤』

H組 『自律』

I組 『素直 謙虚 感謝』

J組 『思いやりの心を持つ』

K組 『整理整頓 -身の周り-と時間-』

L組 『最善を尽くす』

新学年をスタートする際に、いかに早く新入生に西高生としての『自覚』・『誇り』・『自信』を持たせるかが最初の課題となる。例年であれば、入学式を終えてすぐに乗鞍研修が行われるのだが、今年度も新型コロナウイルスの影響のため中止とした。始業式の翌日には、新入生を体育館に集めて校内研修を行った。ここでは乗鞍研修同様、校長をはじめとする多くの先生方に、時には厳しく、時には楽しく直接指導していただいた。2日という短い期間ではあったが、生徒一人ひとりが西高生としての姿が変わっていくことが感じられる有意義な研修となった。本校の学習三原則はもちろん、1学年として『挨拶・返事』『身だしなみ』『時間厳守』の3点も守るべき事項とした。

西高生活のスタートはととても大変である。朝早くから始まる補習、部活動の朝練、各教科からの膨大な宿題や小テストなど、やらなければならないことが沢山ある。この生活が習慣になるまでの

数ヶ月はかなり辛い。しかし今現在、多くの一年生がこの生活に慣れてきている。また、体育祭・西高祭といった学校行事が例年通りの規模で行われるようになった。生徒の生き生きとした姿が多く見られるようになったのは嬉しいことである。

この学年が大切にしていることは、生徒と教師が一緒となって考えて行動していくことである。生徒と教師の枠を越え、学年団として進んでいく姿勢、チームワークを大切にしている。反省により得られた課題はしっかりと解決して、今後に活かしていきたい。良いことも、そうでないことも今後の成長の糧にして、たくましく成長していく学年団でありたい。また、今後も継続的な指導を行っていき、今年度以上に生徒の成長を引き出していきたい。生徒の努力と我々教師側の努力、そんな日々の取り組みの中で、西高生としての『自覚』・『誇り』・『自信』を深めてほしいと願っている。

第2学年の取り組み

2学年主任 鈴木 慎太郎

第2学年の始動にあたり、学年の先生方と時間をかけて方向性を話し合った。2年生という学年が「中だるみ」と呼ばれる所以は、生活への慣れである。ただ、それが良い習慣の定着であると教員、生徒がとらえることが出来れば、中だるみと呼ぶ必要もない。目標を持ち、日々の授業や諸活動に懸命に取り組むこと。先輩と後輩の間に立つ2学年は、いわば全校生徒の屋台骨である。そういう意識を生徒に持たせる事を教員間の共通認識として、令和5年度第2学年をスタートした。

[学年・クラス目標について]

第2学年は、進路決定においても部活動においても高校生活3年間でも大きな決断・変化が必要な時である。そのため、日常生活から将来への意識、また人間関係に対する感性を養っていく必要がある。何をやるにしても意識的な鍛錬が必要と

なろう。ただ、根本にあるのは各生徒の純粋な目標意識であり、支えてくれる周りの人たちに対する感謝の気持ちだと思う。

そういう事を踏まえ、学年スローガンは昨年度に引き続き「百術不如一清」とした。若者らしく純粋に1つ（1人）を想う生徒になって欲しいという願うばかりである。各クラス担任（副担任）・クラス目標は以下の通りである。

F組 山口（下畑）

「自己研鑽」

G組 山本（下畑）

「In dreams begin the responsibilities.

～夢が始まるとき責任が生まれる～」

H組 菅沼（鈴木）

「ルールを守る：やるべきことをやる」

I組 打江（鈴木）

「優しい心 強い心 遊び心」

J組 井上（上西・ジム）

「笑顔を忘れない」

K組 川上（上西・ジム）

「気持ちの良い姿勢と態度をとる」

【総括】

今年度は、文化祭や部活動の大会を含め、様々な行事がコロナ禍以前の状態に戻った。ただ、これは教員の感覚であり、生徒たちにとっては行事があること自体、初めての体験という状態である。そのため、学校行事に対しては我々教員の手助けが不可欠だと考えていたのだが、その心配をよそに、生徒たちは大変活発に、そして手際よく各行事に取り組んでいたように感じた。特に、文化祭や体育祭においては2学年が中心になって運営するため、非常に心配していたのだが、実行委員長を初めとして、他学年の生徒もよくまとめ、大成功に終わったと思う。また、9月には北海道への研修旅行も実施された。ここ数年、中止や規模の縮小下で実施していた研修旅行を、完全に制限なしの状況で実施した。フェリーでの移動から始まり、プロ野球観戦、ラフティング等、初めての経験だった生徒がほとんどであった。どの場においても、問題となる行動は一切無く、全ての生徒が

ルールとマナーをしっかりと守り、楽しく過ごす姿を見せてくれた。そして参加生徒全員、誰1人体調を崩すことなく無事に高山まで帰ることが出来たことが何より喜ばしいことであった。

本校に入学以来、「結果を求めながらも、経過に目を向ける」ことを繰り返し訴えかけてきた。高校生活2年目を終えるにあたり振り返れば、特に人間関係に悩む生徒が非常に多かった（増えた）と感じている。コロナ禍に「人に会うな」「外出するな」と言われ続けてきた影響もあるかも知れないが、これも色々悩み、必死に考えて日々を送ってきた「成長痛」なのかも知れない。来たるべき最終学年に向け今後も教員・生徒一丸となり、有終の美を飾る準備をしていきたい。

第3学年の取り組み

3学年主任 桂川 剛士

比較のおだやかであった昨年度に比べ、今年度は非常にあわただしい日々が続いている。これは、生徒一人一人の進路目標を達成するため、学年団として、進路指導や学習指導はもとより、面接や小論文の指導などに力を入れてきたからだと思われるが、さまざまな問題が発生したことにも起因していると考えられる。多くの反省から学び、今後の教育活動の質を向上させていくためにも、今年度を振り返ってみたい。

【学年目標およびクラス目標】

今年度の学年目標は、「自分の言動に責任をもち、他者の人格を尊重する」と「進路目標を実現する」である。前者は昨年度から掲げてきた目標であり、生徒一人一人が他者の人格を尊重する姿勢や態度を育み、周囲の人々と良好な関係を築ける生徒になって欲しいという願いを込めた。後者は3年生にとって最も重要な目標の一つであり、進路目標の実現に向かって直向きに努力する生徒を、各家庭と連携しながら全力で支えたいという

思いを込めた。また、以下は各クラスの目標であるが、どの目標も、各担任の教育理念や生徒に対する願いが伝わってくるものとなっている。

- A組 「Dreams Come True」
- F組 「超挑戦」
- G組 「仲間と高め合える関係を築き、
自分の生き方を模索する」
- H組 「最高学年として自覚ある行動」
- I組 「夢と努力、仲間を大切にする」
- J組 「クラスの輪を大切にする」
- K組 「初志貫徹」

【今年度の振り返り】

第3学年では、学校生活において下級生の模範になるような姿を示せる上級生であってほしいと考え、ホームルームや学年集会などで最高学年としての自覚を持つよう生徒に呼びかけてきたが、その呼びかけに生徒もよく応え、各人の目標を達成するために学習や部活動に対して意欲的に取り組んだ。模擬試験の成績を伸ばしていく姿や各種大会で見事な結果を出す姿は非常に頼もしく、教科担任や部顧問の先生方による日々の指導に頭が下がる思いであった。

また、文化祭や体育祭における3年生の活躍にも目を見張るものがあった。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事が実施できず、先輩の姿を見て学ぶ機会が少なかったため、当初は生徒たちの企画力や運営力に疑問符がついていた。しかし、生徒たちはこれまでの鬱憤を晴らすかのように生き生きと躍動し、文化祭や体育祭をはじめとする多くの学校行事を成功に導いた。クラスの仲間とともに学校行事を作り上げた経験は、高校時代のかけがえのない思い出となるだろう。

しかし、残念なことに、誤った行動をとって厳しい指導を受ける生徒がいたのも事実である。教員の指導が届かなかった生徒がいるという事実を真摯に受けとめ、今後の指導に生かしていく必要があるだろう。独自の個性を持ち、それぞれ異なる環境で育ってきた生徒たちを理解することは決して簡単なことではないが、教員が一人一人の生

徒に関心を持ち、信頼関係を構築するとともに、その些細な変化にも気づける洞察力を磨かなければならない。

今年度もあと3ヶ月。生徒が無事に卒業の日を迎えるまで、手を抜くことなく生徒と関わっていききたい。

2. 文 友

令和5年度「探究飛驒」＝ ぎふグローバル人材育成推進事業遂行状況 高山西高等学校 テーマ「飛驒から世界へ、世界から飛驒へ」『探究飛驒』10年目

令和5年12月

校長 小林隆徳

慶應義塾大学の皆さんによるサポートも、10年目となる。継続は力なりとは言いが、よくこれまで続いてきたなと、我ながら感心する。ここまで続けてこられたわけは、慶應義塾大の先生方学生さん方が、飛驒・高山そして本校を愛して下さっていること。校内に認知され、担任からも歓迎されるようになってきていること。そしてなにより新学習指導要領の肝となっており、形は様々であるが、何らかの形で探究は実施しなければならない状況にあること、があげられる。



『探究飛驒』を始めて9年目となる。

全国民が、全世界が迎えたコロナへのあしらいにも随分順応した感がある。オンライン授業、オンライン会議が普及し、教育のハイブリッド化へのマインドセットも完了した感がある。今年度は探究活動、研究発表会も対面とOnlineハイブリッド実施が特徴的な学年となった。

昨年度から探究飛驒はK組をも対象に進めることにした。入学時から本校はプラットフォームをGoogle Workspace for Education とし、「一人一台端末」では、Chromebookを貸与し、自宅待機となればすぐに、Google Meetで授業を生配信している。教育機関向けのプラットフォーム (Google Workspace for Education)では全て無償でOnline授業1授業 (会議) あたり100人まで参加可能、時間は無制限。西高ドメイン内1日2テラ



バイトまでのデータのアップロードが可能となった。生徒たちも、データのやりとりは全てクラウド上(Google Drive内)で行っている。殆どすべての担任・部顧問がGoogle Classroomを使って、課題、連絡等行うようになってきている。授業評価アンケート等、全校生徒等へのアンケート調査などもGoogle Formを用いて、かなりスマートに出来るようになってきている。

プレゼンはGoogleSlide、テキスト

トデータ等はGoogle Documentで行い、さらに発表資料となるSlide、Documentをその場で「共同編集」出来ている。感心するのは、多くのグループが、アンケート調査にGoogle Formを活用できるようになっていること。予想外の生徒たちの成長である。

海外研修旅行、海外語学研修派遣もまったく実施できない状況下で4年目を迎え、それでも高山市からチャンスを頂いた韓国的高校生と2Fとの交流もオンライン(Zoom)で実施、更には韓国から



の来訪を迎えることも出来た。韓国高校生へのプレゼンは当然英語でのやりとりになる。今回の探究飛驒の成果を2Fの諸君は全て英語に変え、韓国高校生達に堂々と発表してくれている。

この子達を待ち受ける社会はどうなっており、それに備えて我々教員はどんな力を身につけさせるべきなのか。上記のようにICTを文房具のように使いこなし、プログラムに慣れることがSociety5.0をよりよく生きる力なのだろうか。確かに、ICT機器は使いこなせるようにして卒業せねば、大学・職場に入って気後れしてしまう事態を招く。それどころか出願・受験にすら支障を来してしまう。これは絶対避けねばならないところである。しかし、どうも「ICTを使いこなす人材=Society5.0でよりよく生きることの出来る人材」ではないように思う。つまり

目に見える力=ICT活用能力・知識技能・読解力・STEAM力 は最低限のベースとして備え、その上で

目に見えない力=洞察力があり、(この人と一緒に仕事をしたいと人に思ってもらえるような)人間的な魅力にあふれ、使命感が高い、やむにやまれぬ大和魂…そういったものを兼ね備えた人材を育てる必要をここのところ、とみに感じている

それまでに身につけた知識を総動員し、身のまわりにある課題を発見し、仲間と共にそれを解決してゆくプロセスを高校時代から経させる必要性から、新教育課程は「探究」を必須化してきた。いまや、探究活動無しでそれなりの大学への進学はほぼ不可能となっている現状がある。難関大学・学部になればなるほど、この経験が試されるのだ。



この現状を鑑み、昨年度2年生からは特進Iクラスに加え、特進IIのIクラスをもこの「探究飛驒」に加えることに決めた。特進IIクラスが加わり、探究飛驒はまた一段と幹が太くなった感がある。

以下は、6月時点での各班における研究の振り返りをまとめたものである。

年	組	番	氏名	班	テーマ	今回の活動内容を具体的に記入してください。
2	F	1	荒家 匠杜	1	方言	方言
2	F	2	大窪 壮二郎	1	方言	最終的な目標ぎめ ある程度調べた
2	F	3	川上 市路	5	観光（外国人：困っている人を助け隊）	ネットで調べたり自分で想像したりして海外の方が日本に来て不便だと思うことを書き出しそれに対する解決案を考えまとめた
2	F	4	西下 暖真	7	高山祭（歴史）	高山祭の歴史についてや、何をアンケートするかや、何を現地の人に聞かかなど
2	F	5	牧野 慎太郎	1	方言	方言についてインターネットを使って飛騨弁と他の方言の共通点について調べました。またグループの中で地形と方言の区分に関係性があるのではないかと仮説を立てた。
2	F	6	宮田 桜佑	5	観光（外国人：困っている人を助け隊）	今回は、外国人観光客向けに観光客が困ってる困ってる問題点を調べてその解決策を高山ではしているのかや他の事例で同じことはないかを探した。また、外国人の観光サイトから高山についてのレビューを見た
2	F	7	吉田 悠人	7	高山祭（歴史）	高山祭りの歴史についてとアンケート調査
2	F	8	奥田 愛璃	10	教育	地域教育に関して、細かく調べた。各学校ごとで特徴のある活動をしていることも分かり、まとめることもできた。
2	F	9	八野 結愛	1	方言	テーマ飛騨弁はその周りの県、地域から影響をうけているのか 結果は、富山は歴史的にも高山との交流が昔からあり、同じ方言が多い。他にも飛騨地域に隣接している地域では同じ方言が多く歴史的な影響や、地理的な影響を大きく受けて方言はあるのだと仮説をたてた。
2	F	10	廣島 優奈	1	方言	方言の違いをまとめて由来を調べる。
2	F	11	船坂 優華	1	方言	飛騨の方言とその周りにある県で飛騨弁とおんなじ言葉の言い方を調べどうして方言の違いがあるのかどのようなことがありどのようにつたわったのかをしらべました。
2	F	12	松坂 りた	1	方言	・テーマ決め ・アンケートの内容決め ・仮説を考える ・仮説のための資料集め 飛騨弁の歴史 飛騨の周りの地域の方言との関連性 など
2	F	13	山田 芽生	15	医療（地域医療）	医療というテーマの中でも医師不足をテーマに決めました。 参考になりそうなサイトをドライブにまとめました。それぞれの市の病院の数や医師の数、病院の分布を調べました。

2	F	14	横川 陽香	11	精神疾患	<p>①精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム（にも包括）について知ることができた。 ↑を飛騨市、高山市でもシステムの構築に取り組んでいる。</p> <p>*にも包括とは（現時点でわかること） 精神医療や精神保健が社会福祉法や医療法などと一体となっていなかったため、精神障害者“にも”対応した地域包括ケアシステムとなった。</p> <p>②飛騨市は発達障がいの理解促進事業にも取り組んでいる。</p> <p>③高山市、飛騨市における精神障がい者の数、民生費の割合に大差はない。</p> <p>④日照時間とうつ病の関係は高山市と長野県佐久市では大差はなかった。 論文からも関係性はないことがわかった。</p> <p>⑤飛騨地区の中で精神科医同士で協力していることがわかった。</p> <p>⑥高山市「こころの健康相談所」 飛騨市「こどものこころクリニック」</p>
2	G	1	荒木 健太	8	高山祭（課題）	高山祭の現状や問題点を考え、8月にインタビューやアンケートができるように話し合った。
2	G	2	稲葉 康浩	3	医療（在宅医療）	飛騨地方の医療体制がどんなものなのかをまとめて、それぞれの特徴や課題を明らかにして、そのためにどのような取り組みをしているのか調べて自分たちで考えるために、医療構想や図や表を集めた。
2	G	3	玉舎 智悠	3	医療（在宅医療）	地域医療の厚生労働省が示す課題の確認方針の確認
2	G	4	直井 啓汰	8	高山祭（課題）	高山祭の問題を考えた
2	G	5	橋本 徳道	4	観光（外国人：行政の観光戦略）	高山市が外国人に対して行っている政策を調べ、概要をまとめた
2	G	6	堀尾 亮介	13	歴史（名字など）	飛騨地域の珍しい名字の由来を調べて、歴史と関連づけた。
2	G	7	松山 拓生	8	高山祭（課題）	高山祭について調べるということを決めて、これから調べていく方針や内容を考えた。
2	G	8	山下 煌陽	6	観光（アニメ）	テーマを決めて大まかな内容を調べて聞きたいことなどをまとめた
2	G	9	上見 遙	8	高山祭（課題）	高山祭の課題を担い手不足と経済面に分けて考えてそれをまとめた。また、次やるときはインタビューしたりするので、誰に聞いて何を聞きたいかまとめた。
2	G	10	臼井 仁香	5	観光（外国人：困っている人を助け隊）	外国人観光客の不満や困っていることを調べ、それに対する簡単な解決策を考えた。
2	G	11	佐藤 杏珠	5	観光（外国人：困っている人を助け隊）	市のサイトなどを見て外国人観光客が抱える問題をたくさん挙げ、それに対する具体的な対策があるかも調べました。
2	G	12	清水 菜月	14	若者	テーマとこれからの流れを考えた
2	G	13	清水優那	2	医療（小児科医療）	これからの方向性を決めた

2	G	14	建石 明日香	12	自然・森林	放置林について 日本や高山市の放置林の課題・対策と林業の実態 (従事者数の変化など) 高山市と他の市町村の取り組みの比較 世界の森林課題について など、森林について様々な視点から知ることができました
2	G	15	田中 みのり	9	漬物ステーキ	自分の調べたい「食」に関するテーマでチームを作って漬物ステーキに注目して調べる、という見通しをたてた。
2	G	16	近山 歩美	2	医療(在宅医療)	チーム分け テーマ決め 資料集め
2	G	17	中丸 いろ葉	2	医療(小児科医療)	今回は1, 2日目と活動期間があり、最初は、K組の子と飛騨における訪日外国人への医療体制について取り組んでいましたが、活動を進めるにつれ、小児医療の方に興味を持ち始め たため、2日目にテーマ変更を行い、小児科医の数に着目して取り組むことにしました。
2	G	18	野首 知里	9	漬物ステーキ	漬物ステーキの知名度や歴史などを調査するための調べ学習、アンケート作り。
2	G	19	野中 陽葵	2	医療(在宅医療)	国の小児科医についての現状と各地域の小児科医育成・確保のための取り組みの調査
2	G	20	平野 由依	13	歴史(名字など)	歴史から苗字の話になり、県外から来た2人の意見をもとに高山市にある珍しい苗字のルーツを歴史と関連づけて調べた。
2	G	21	松森 瑞帆	12	自然・森林	森林について探求することにした。特に放置林についての日本の現状、高山市の現状を調べ、問題についての理解を深めた。そして、高山で行っている対策と同じような環境の地域で行っている対策を調べた。
2	K	1	阿部 恵三	8	高山祭(課題)	・高山祭について知る ・高山祭りの問題点を考える ・高山祭りに類似するようなまつりの検索 ・参考文献などの検索
2	K	2	伊藤 峻真	9	漬物ステーキ	調べ学習 文献の確認
2	K	3	井上 敬仁	13	歴史(名字など)	調べられる範囲までネットを使って名字について調べた。
2	K	4	宇佐美 颯人	4	観光(外国人:行政の観光戦略)	大まかなテーマを決め、そこを目指して何をすれば良いかの道筋をある程度確認した。 今調べられることを調べた。
2	K	5	清原 瑛太	7	高山祭(歴史)	クロムなどを活用して、調べ学習をした。
2	K	6	角竹 弘多	4	観光(外国人:行政の観光戦略)	インバウンド対策についての高山市の取り組みについて調べる
2	K	7	高羽凜人	6	観光(アニメ)	観光についてのテーマを決めて観光客数とその年の出来事の関係性を調べた
2	K	8	高橋 俊二	7	高山祭(歴史)	調べ学習をして、質問の内容を考えた
2	K	9	谷口 斗哉	13	歴史(名字など)	名字について調べられる範囲まで調べた

2	K	10	中村 煌貴	13	歴史（名字など）	飛騨高山にある珍しい名字を調べて、その歴史と地理を関連付けて調べる
2	K	11	成田 響	3	医療（在宅医療）	医療の中でも2チームに分かれてそれぞれでこれから完成までにどう勤めていくかの方針を決めてインターネットから資料を集めているところ
2	K	12	畑中 優作	8	高山祭（課題）	高山祭りに関しての問題点をあげ、担い手不足、補助金について話せた
2	K	13	奥田 結	14	若者	ひだに住む若者たちがどうしたら高山で楽しく過ごせるか テーマを立て、何をしたらいいのか見通しを持った
2	K	14	鎌村 美結	13	歴史（名字など）	名字中心に由来や歴史をインターネットや図書館の本を使って調べることができた。
2	K	15	小山 詩乃	4	観光（外国人：行政の観光戦略）	チームの親睦を深め、テーマとこれからの活動の方向性を決めました。また、必要な資料を集めたりまとめたりしました。
2	K	16	清水ももか	14	若者	テーマを決めて、次回の活動予定を立てた
2	K	17	杉野 悠風	4	観光（外国人：行政の観光戦略）	同じテーマの人と、親睦を深め大まかな方針と研究テーマを固めた。
2	K	18	多和田 妃紗	4	観光（外国人：行政の観光戦略）	外国人観光客について調べていくうえで、どのような順序で何を調べていくのかをグループの人と話し合いながら決めることができた。また、ウェブサイトで高山市として、どのようなインバウンド対策をしているのかを調べることができた。
2	K	19	東 里美	9	漬物ステーキ	調べ学習、アンケート作成
2	K	20	東 星来	10	教育	地域教育「郷土教育」について中学校を対象に調べました。
2	K	21	古谷 桜咲	9	漬物ステーキ	調べ学習とアンケートの質問作成
2	K	22	蒔田 衣望	2	医療（小児科医療）	全国と飛騨地域の小児医療の現状を調べ、纏めてみた。
2	K	23	益田 彩良	14	若者	テーマに沿って調べ学習をし、今後の流れの見通しを立てた

令和5年度初任者研修を通して

田中 夕貴

高山西高校の教諭として3年目を迎え、私立学校初任者研修会に参加させていただいた。研修を通して実践的指導力と幅広い見識を養うことができた。また、研修に参加した若手教員の悩みや実践例について知ることができた。常に最新の情報を手に入れるように考えを巡らせて、実践できないか思索した。このような研修に参加する機会をいただいたことに感謝申し上げる。

実践的指導力を育成するために、ラボラトリー方式の体験学習を実際に受講し、体験学習を行う生徒の視点と指導する際の教員の視点の双方から本学習活動の活かし方を学んだ。本学習活動は学習内容そのものよりも、グループで課題を達成する際に起こる様々な出来事（チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション、個人の動きや気持ちなど）に目を向け、気づくことを目的としている。学習活動が終了したら、生徒に自分の意見を説明できたか、人の話を聴けたか、グループはどの程度協力でできていたか、自身や他のメンバーのどのような言動がグループ活動に影響をもたらしたかを考えさせる。本学習活動は新クラスになった直後や部活動発足時のアイスブレイクとして活用できると考えられる。留意する点として、話しやすい雰囲気づくりが肝要だと感じた。グループ活動に移る前に教員が、相手の発言を否定しないことや他者を威圧するような言葉を使わないことを指示することで、発言しやすい雰囲気を形成できると思われる。また、本学習活動でどのような人間関係を作りたいかに応じてグループメンバーを選ぶことも重要である。このような点に注意しつつ、実践したいと思う。

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスおよびSNSなどのネット利用に関する最新情報とAIをめぐる情勢についての講演がなされた。中高校生のスマートデバイスやSNSの使用に関するリスクについて、いじめやトラブル、ルール・法律違反などの様々な観点から講演がなされた。スマートデバイスの利用に伴う新たな健康問題として急性内斜視などの眼や耳、さらにはゲーム障害といった脳に及ぶものまで発生しており、その利用法について家庭内でルールを決めるなど、どのように使うのが良いのかという点までご講演頂いた。また、AI利用に関する一般社会の情勢が劇的に変化し、ChatGPTを始めとする生成系AIが積極的に活用されつつある現状を知ることができた。その活用法や使用の際の留意点については常に最新の情報に触れていく重要性を感じた。講演を通して、現在の生徒が大人になったときに当然のように存在するツールをどのように利用するのか、その留意点やルールについて考えさせなければならないと感じた。

班別研修では研修に参加した教員を複数のグループに分け、グループごとで教科・生徒指導上の悩みや各学校で行っている指導の特色、保護者対応などについて討議し、班ごとの発表を実施した。多くの班で生徒指導に関する悩みや事例がテーマとして挙げられ、研修に参加した教員が同じような悩みを抱えていることが判明した。また、比較的若い教員と高校生徒の間で既に常識のズレが生じていることも確認された。なぜ、そのような常識やマナー、ルールがあるのかを理由をもって伝える必要があると感じた。

他にもここで述べていない研修や他校の先生方との交流を通して、教員の使命感を新たにすることができた。よりよい教育を実践するために精進したい。

3. 生徒活動報告

生徒会活動

高山西高校生徒会活動の1年

打江 勇太郎

高山西高校の活動は1年を通して大きく2つの行事で構成されている。それは6月の西高祭と9月の体育祭である。今年は新型コロナウイルス感染症が第5類へ引き下げられたこともあり、制限を設けつつもコロナ禍前に行っていた文化祭や体育祭に近づいた状態で実施をすることができた。生徒会の生徒も通常の行事を経験したものは誰もいない状況となり、西高祭や体育祭を以前のように活気あるものにするには、どうしたらいいのかと、生徒会執行部も悩むことが多くあった。今年度は例年以上に生徒会の生徒が試行錯誤し、新しい西高祭、体育祭を創っていくことへの、思いが込められた学校行事を展開することができた。

西高祭では、「西高生の西高生による西高生のための文化祭」というスローガンの下、西高祭実行委員長である2年G組の稲葉康浩くんを中心に、生徒会執行部が企画・運営を行った。中でも大切にしてきたのは、3年生の思い出に残る文化祭にしようであった。企画内容は、2、3年生はステージ企画、1年生は展示企画とした。また今まで行ってきた西コレを基にクラスTシャツコンテストと題し、クラスでデザインしたTシャツを着てランウェイを歩き披露した。午後には有志企画を行った。3年ぶりに全校生徒が見守る中で、のステージ発表で、緊張した面持ちで発表する姿や、堂々と人前で発表する姿など、普段では見ることのできない姿を見ることができた。またこのような場を心待ちにしていた生徒たちの空気感が、ステージで発表する生徒達への後押しとなり、大いに盛り上がる発表となった。また、外部団体からのバザーも3年ぶりに行い、唐揚げや、だんごなどを仲間と共に食べることもでき、3年生の思い出に残る西高祭を目標にしていた生徒会にとって、全校生徒の準備に取り組む姿勢を含め、手応えと達成感を感じる西高祭となった。

体育祭では、「瞬」というスローガンを掲げ、3年ぶりの保護者観戦あり、応援合戦ありの体育祭を一瞬一

瞬大切に取り組み、見逃さないようにとの願いを込めた。体育祭実行委員長の2年K組阿部恵三くんを中心とした生徒会執行部は、コロナ禍前の体育祭のDVDを見直し、感染対策をした上で、全校生徒が安全で楽しく思い出に残る体育祭とするためにどうしたら良いか、体育科の先生方とも協議を重ね、プログラムを検討した。また各団団長とも連携し、練習の行い方を含め夏休み前から活動を行った。3年ぶりの以前同様の体育祭ということで、コロナ前を知らない在校生にとって例年のように運営や進行をリードしていくのは、至難の業であり、教員とも連携しながら準備を進めていった。今年はい層教員と生徒の意思疎通が円滑に進むようになり準備段階から充実した時間を過ごすことができた。また今年度は保護者の観覧も可能となり、開会式における行進の練習にも力が入り、今年の姿を来年度の生徒会に引き継げるよう、準備を怠らず1つ1つ確認作業を行った。

絶好の体育祭日和となった体育祭当日、3年ぶりに保護者が見守る中、堂々たる行進を披露し始まった。各競技に全力で取り組む選手、その中で必死に応援する団幹部を中心としたサブリーダー、そしてその裏で円滑な運営を行う生徒会メンバーや体育祭実行委員会の支えがあった。この日に至るまでに重ねたりハーサル練習の成果もあり、大きなトラブルもなく無事終えることができた。閉会式では、選手たちのやりきった顔や笑顔であふれる顔が見て取れ、素晴らしい体育祭であった。

新型コロナにより規制があった西高祭や体育祭から3年、何も知らないところから始まった生徒会メンバーが2つの大きな行事を無事終えることができました。この行事ができたのも、生徒会執行部、団幹部、全校の一人一人の生徒たち、学校の協力やご家族の方々の支援のおかげだと感じております。今後も学校の生徒一人一人が参加し、苦しいことや楽しいことを共有し、また協力し合いながら生徒たちが行事を通じて多くのことを学んでいけるようにと感じております。もちろん教員においても、その中で学ぶことが多くあり、学校全体で取り組んでいける行事を大切にしていきたいと思っております。

部活動（五十音順）



アーチェリー部

杉浦 成利
宇都宮宏美

令和5年度は、男子3年生3名、2年生5名、1年生7名、女子3年生4名、2年生2名、1年生3名の24名でスタートをいたしました。

今年度は、感染症もほぼ問題なくなり、多くの大会に出場する機会に恵まれました。

県総体での成績により、東海総体に男子団体、女子個人が出場しました。北海道帯広市にて開催される全国高校総体には、3年男女各1名が個人出場を果たしました。

新人戦・秋季大会には、1・2年生が参加をしました。2年男子1名が全国選抜大会の出場権を獲得しました。冬の期間を大切に春に大きく羽ばたけるよう、貴重な時間を無駄にしないよう活動していきます。

また、日頃の活動に保護者の皆様、学校関係者の皆様のご理解、ご協力に感謝し、期待にこたえられるよう、生徒ともども、一層の努力をいたします。

[令和5年度の主な成績]

・岐阜県高等学校総合体育大会

(中池公園アーチェリー場)

個人 女子	5位	岩西	はるか (3 J)
	13位	古田	芽衣 (3 J)
	15位	大森	結 (3 I)
	17位	町川	愛絆 (3 I)
	19位	田上	千紘 (2 I)
	21位	川上	紗夜 (2 I)
男子	4位	長澤	祐太郎 (3 J)
	12位	河合	朔哉 (2 I)
	16位	羽根	圭祐 (2 J)
	18位	筒井	利弥 (3 J)
	19位	舛井	蓮 (2 H)
	20位	笠下	誇稀 (2 I)
	21位	堀内	悠汰 (2 I)
	22位	野村俊太郎	(3 A)

・東海高等学校総合体育大会

(小笠山総合運動公園)

個人 女子	15位	岩西	はるか (3 J)
男子	33位	長澤	祐太郎 (3 J)
	45位	羽根	圭祐 (2 J)
	51位	河合	朔哉 (2 I)
	52位	筒井	利弥 (3 J)

団体 男子9位

・全国高等学校総合体育大会

(帯広の森運動公園陸上競技場)

個人 女子	71位	岩西	はるか (3 J)
男子	157位	長澤	祐太郎 (3 J)

・岐阜県高等学校秋季アーチェリー大会兼

選抜予選会 (大垣市アーチェリー場)

女子 個人	10位	川上	紗夜 (2 I)
	11位	田上	千紘 (2 I)
男子 個人	1位	河合	朔哉 (2 I)
	4位	舛井	蓮 (2 H)
	5位	羽根	圭祐 (2 J)
	8位	堀内	悠汰 (2 I)
	11位	笠下	誇稀 (2 I)

・岐阜県アーチェリー新人大会

(大垣市アーチェリー場)

70m個人 女子	9位	川上	紗夜 (2 I)
	10位	田上	千紘 (2 I)
個人 男子	1位	河合	朔哉 (2 I)
	3位	羽根	圭祐 (2 J)
	7位	舛井	蓮 (2 H)
	10位	堀内	悠汰 (2 I)
	11位	笠下	誇稀 (2 I)
30m個人 女子	2位	岩畑	綾花 (1 J)
	3位	吉嶋	葵 (1 H)
	4位	三橋	真歩 (1 I)
個人 男子	1位	長瀬	楓 (1 K)
	2位	浅尾	拓泉 (1 K)
	3位	船渡	春希 (1 K)
	4位	三島	厘句 (1 L)
	5位	渡辺	琳久 (1 I)
	6位	坂尻	圭 (1 H)

ウインドアンサンブル部

永瀬 敬至

3月11日に創部35周年記念演奏会&卒業生お別れコンサート2023を開催した。卒業生お別れコンサートは実に4年ぶりの開催となった。コロナの扱いはまだ2類、お客様は来てくださるのであるかという心配があったが、蓋を開けてみれば立ち見ができる超満員。私たちだけでなく、皆さんがこの時を待っていてくれたのだという、熱い想いが込み上げてきた。

発表機会が活動のすべてである音楽・演劇系の文化部活動にとっては、待ちに待った時間であった。

久しぶりにステージ上で、演奏で卒業の門出を祝うことが出来た。本当に良かった。

新年度は、20名の1年生新入部員を迎え、2年生9名、3年生16名の総勢45名での活動がスタートした。

8月に第36回定期演奏会を開催した。コロナは5類になったものの第9波と呼ばれる流行が。またもや様々な困難が待ち受けていた。

吹奏楽コンクールは県大会で金賞を受賞。昨年はスケジュールの都合で参加出来なかった岐阜県マーチングコンテストに出場し、東海大会出場を決めた。

まだコロナ禍の影響が残る中ではあるが、極力地域との交流に力を入れた。中学校との合同練習等、少子化が進む中、本校ウインドアンサンブル部が地域の中で果たす役割がさらに大きくなるものと思える。

保護者の方々が中心となって、ウインドアンサンブル部の後援会を発足させてから12年。卒業生や卒業生の保護者、地域の方々との連携による活動がより活発になった。保護者会の方々には、部員たちを安心した環境で活動に取り組めるようご支援いただいている。感謝の一言に尽きる思い

である。また、部員や保護者の方々を通じ、今後も積極的に地域と交流する活動を進めていきたい。

最後に、日頃の活動にご理解、ご協力くださる保護者の皆様をはじめ、学校関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

令和5年の活動記録

- 1月 アンサンブルコンテスト岐阜県大会
F14 C14 打楽器5・金賞 金管6・銅賞
- 2月 中部日本個人重奏コンテスト岐阜県大会
宮前果歩（フルート）・金賞
戸島瑠風（ユーフォニアム）・銀賞
- 3月 創部35周年記念演奏会&卒業生お別れコンサート2023
中部日本個人重奏コンテスト本大会
宮前果歩（フルート）・銀賞
- 4月 岐阜県バンドフェスティバル2023
- 5月 新穂高ロープウェイ春の高原演奏会
岐阜県高等学校文化連盟課題曲講習会
岐阜私学吹奏楽発表会
- 7月 吹奏楽コンクール 飛騨地区大会 市長賞
岐阜県吹奏楽コンクール東部地区大会・金賞



定期演奏会で観客魅了
高山西高・ウインドアンサンブル部
高山西高ウインドアンサンブル部定期演奏会が十九日、高山市サンブル部の第26回定一昭和町の市民文化会館ホール
迫力ある演奏を繰り広げる部員ら＝高山市昭和町で

「観客はペラペラと涙を流しながら一体となって聴き入った。その他、コンサートの課題曲や二〇二三年のヒットメドレーなどを演奏した。」
(北川鈴乃)

「ホールであった。一般市民の観客約八百人が、息の合った任務の演奏を楽しんだ。部員は一二年の四十四人。地域の人に聴いてもらうと毎年夏に定期演奏会を開いている。今回は、コロナ禍前は毎年行っていた会場が四年ぶりに復活した。ピアノ伴奏に合わせて澄んだ歌声が響く。観客はペラペラと涙を流しながら一体となって聴き入った。その他、コンサートの課題曲や二〇二三年のヒットメドレーなどを演奏した。」
(北川鈴乃)

- 8月 全日本吹奏楽コンクール 岐阜県大会・金賞
第36回定期演奏会
- 9月 全飛吹奏楽祭（辞退）
岐阜県マーチングコンテスト・金賞
- 10月 東海マーチングコンテスト・銅賞
清流の国ぎふ総文2024プレ大会開会行事
パレード参加
- 11月 第25回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜
実行委員長賞
- 12月 やまゆり学園クリスマス交歓会

剣道部

顧問 前川 矩英

今年度の剣道部は男子23名（3年生7名、2年生9名、1年生7名）、女子15名（3年生5名、2年生4名、1年生6名）マネージャー2名の計40名で活動をスタートしました。今年の剣道部は、11月の新人戦で男子個人、吉田（3H）2位。女子個人優勝塩田（3I）・2位若尾（3J）という成績からスタートしましたが、新人戦は男女ともに団体戦で勝てませんでした。男女ともに「力があるのに本番で発揮できない・・・」これがこの代のテーマでした。年末・年始全国の強豪校と切磋琢磨させていただき着々と力をつけてきた選手たちでしたが、まだこの代のテーマを払拭できるところまではいけませんでした。そして迎えた全国選抜予選。当日の選手たちの状態は良く、アップを見た段階である程度の手応えがありました。その手応え通り女子は全国選抜への出場権を獲得する事ができました。逆に男子はここ一番で引いてしまう所が出てしまい、出場権を逃してしまいました。勝てた女子の試合内容は練習してきたことをそのまま出せたことに尽きました。女子はその勢いそのまま全国選抜大会に入りました。東海大会でも優勝していたことも

あり、一つ一つ勝ち上がっていき本校女子剣道部初全国ベスト8という成績を残すことができました。しかし日本一を目標としている選手達の胸中には喜びではなく「もう一步足りなかった」という悔しさが残っていたことを今でも覚えています。4月に入り、男女ともに「夏こそは」という気持ちでスタートいたしました。例年通り、ゴールデンウィークは島原遠征で鍛えていただき、5月に行われたインターハイ予選では男・女団体、男・女個人で優勝を目指しインターハイへの出場権を獲得するべく、部員・保護者総動員で大会に臨みました。しかし男子は決勝で済美高校に惜敗しました。女子は全国選抜大会以降選手達に自信が付き、「力をそのまま出してくれば・・・」と思っていました。そんな中、決勝相手は男子同様済美高校でした。緊張感が高まる中、選手達が頑張ってくれました。女子団体3連覇でした。監督席に座って試合を見ていましたが、男女とも、教え子たちの力強い試合内容と、相手を飲み込むような気迫、また総合的な人間的成長を見ることができ、目頭が熱くなったのを覚えています。また、個人戦では若尾樺子（3J）が優勝という成績を残してくれました。新チーム発足から悔しい思いを経験していた生徒達がこの半年間自分とチームの課題に必死に取り組んできた結果であると思いますし、なにより3年生がしっかり責任を果たした結果であったと強く感じました。

8月に行われた北海道インターハイでは女子団体では予選リーグ敗退という結果に終わりましたが、内容的には大変頑張った内容でした。女子個人では団体の悔しさを晴らすべく、若尾樺子（3J）が自分の長所を生かしながら戦った結果、インターハイベスト16という成績を残してくれました。

今年の3年生は私が赴任して6回目に声を掛けさせてもらった生徒達です。男女共入学当初、実力は足りませんでした。目標がしっかりしていた分、地道にコツコツ努力を重ねてくれて実力をつけてきたように思います。さらに今の3年生がしっかりしていた分、後輩達もその雰囲気に乗っていき力をつけてきていると強く感じます。10月に行われた県新人戦では男子団体優勝・女子個

人で小山詩乃(2K)が優勝・石原彩伽(1L)が2位という成績を残してくれました。しかし1・2年生はこの結果に満足する事無く、日々弱い自分と向き合い、1月に控えている全国選抜予選に向けて着々と自分磨きを必死に行っています。今年から新たに取り組みを始めたこともあります。この代の保護者の中で原田メソッドを指導してくれる方がみえ、生徒達の自立を促すために、定期的に指導にきていただいています。また、地元高山で針治療を行っている方からもフィジカル面の強化と言うことで、無償で本校剣道部のトレーナーをしてくれる支援者もできました。あらためて本校剣道部は保護者を含め、たくさんの方々に支えられて成り立っていると強く感じる事ができた1年間でした。本校剣道部に関わっていただいているすべての方に感謝申し上げます。

今年は暖冬と言われている中ではありますが、冬を迎え、寒くなってきました。部は新チームとなり部員たちは自分達の甘さと日々向き合いながら、目標に向かい必死で稽古に励んでいます。「守破離」の部訓のもと、「志ある処に、必ず道あり」という精神で日々稽古に励んでいます。冬に力を蓄え、春に皆さんに恩返しのお届けできるよう、精一杯稽古に励んでくれることと希望します。

主な戦績

岐阜県高等学校総合体育大会

男子団体				
決勝	高山西	0-3	済美	準優勝
女子団体				
決勝	高山西	1-0	済美	優勝
女子個人				
	若尾樺子 (3J)			優勝

東海総合体育大会

男子団体	3位
女子団体	優勝

全国高等学校総合体育大会剣道大会

女子団体	予選敗退
女子個人	若尾樺子 ベスト16

飛騨地区新人体育大会

男子団体	優勝
女子団体	優勝
男子個人	
優勝	大瀬 瑛亜 (2H)
準優勝	松谷 海志 (2H)
三位	羽賀 唐馬 (2H)
5位	井上 敬仁 (2K)
女子個人	
優勝	小山 詩乃 (2K)
準優勝	多和田 妃紗 (2K)
三位	清水 恋 (2H)
四位	山崎 ゆりね (2H)

第61回岐阜県高等学校剣道新人大会

男子団体				
決勝	高山西	3-0	済美	優勝
女子団体				
準々決勝	高山西	0-1	済美	ベスト8
女子個人	小山 詩乃 (2K)			優勝
	石原 彩伽 (1K)			2位



第70回国民体育大会東海ブロック予選

少年男子の部 岐阜県チーム

(選手：竹下遙斗)

岐阜県 2 - 3 愛知県

岐阜県 0 - 2 静岡県

岐阜県 2 - 3 三重県

0勝3負で、4位、ブロック敗退

少年女子の部 岐阜県チーム

(監督：前川矩英・若尾樺子・塩田円佳・

小山詩乃・多和田妃紗)

岐阜県 3 - 1 愛知県

岐阜県 3 - 0 静岡県

岐阜県 2 - 2 三重県 (本数負け)

2勝1負で、2位、ブロック敗退

第11回全国高校選抜剣道大会

女子団体 3位

(小山・多和田・清水・山崎・石原)

硬式野球部

硬式野球部 監督 新海 亮人

高山西高校 硬式野球部 令和5年度の振り返り

硬式野球部設立9年目となる令和5年度の硬式野球部の活動も、大変に実りあるものとなりました。これも応援して下さる方々とこれまでのOB達、保護者、学校の関係者のお陰であります。

今年度最初の大会であった春季岐阜県大会では、数年ぶりに地区予選を突破し、県大会に出場することが出来ました。しかし、県大会では、初戦の海津明誠高校との試合に敗れ、初戦敗退となりました。そんな中、5月に行われた飛騨地区高等学校野球優勝大会では、秋、春と敗れた益田清風高校と決勝戦を戦い、無事に勝利。昨年に続き優勝し、目標としていた二連覇を達成しました。夏の選手権大会では初戦、麗澤瑞浪高校と対戦し、投打が噛み合い、10-0で勝利しました。次戦は、可児工業高校と対戦。先発國見が5回参考ながら、ノーヒットノーランを達成し、11-0で勝利しま

した。4回戦は、県内で圧倒的な力を持つ、県立岐阜商業高校との対戦でした。守りでは大会初登板の新名、そしてエース野口が打者を翻弄し、相手打線を4失点で抑えました。しかし、打線が相手の強力投手陣を打ち崩せず0-4で惜敗しました。非常に悔しい敗戦となりましたが、夏の大会で勝ち進むためにはまだまだやらないといけないことが沢山あると、改めて勉強させられました。

今年も飛騨から夏の甲子園出場という悲願は達成することはできませんでした。しかし、本気で甲子園に向かい、費やした多くの時間と経験、作り上げた伝統は必ず今後の高山西高校硬式野球部にとって、また3年生一人一人の人生において活かされる事でしょう。

さて8月からは新チームが発足しました。新チーム最初の秋季大会では、地区シード権を逃しました。9月に行われた県大会でも岐阜聖徳学園高校と対戦し、初戦敗退という結果に終わりました。頼もしかった3年生はもういません。技術はもちろん、人として、野球人として非常に未熟なこの1,2年生がどこまで成長してくれるのか楽しみです。

また、寒い冬を乗り越えたくましく成長した姿を見せられるように精進していきたいと思います。最後になりますが、今年も西高校野球部の活動にご支援、ご協力いただきました多くの方々に感謝申し上げます。有難うございました。

大会名 第70回春季岐阜県高等学校野球大会						
回戦	自	得点	—	得点	対戦校	最終結果 大会期日
1回戦	高山西	2	—	4	海津明誠	1回戦敗退 R5. 4. 16
大会名 第38回 飛騨地区高等学校野球優勝大会						
回戦	自	得点	—	得点	対戦校	最終結果 大会期日
1回戦	高山西	6	—	4	飛騨神岡	優勝 R5. 5. 13
準決勝	高山西	10	—	3	斐太	
決勝	高山西	5	—	3	益田清風	
大会名 第105回全国高等学校野球選手権記念岐阜大会						
回戦	自	得点	—	得点	対戦校	最終結果 大会期日
2回戦	高山西	10	—	0	麗澤瑞浪	ベスト16 R5. 7. 15
3回戦	高山西	11	—	0	可児工業	
4回戦	高山西	0	—	4	県立岐阜商業	

大会名	第76回秋季岐阜県高等学校野球大会 中濃・飛騨地区シード決定戦						
回戦	自	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
2回戦	高山西	7	—	3	高山工業	2回戦敗退	R5. 8. 11
3回戦	高山西	6	—	13	関商工		R5. 8. 12
大会名	第76回秋季岐阜県高等学校野球大会						
回戦	自	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
2回戦	高山西	2	—	8	岐阜聖徳	2回戦敗退	R5. 9. 2
大会名	第58回県下選抜高等学校野球大会						
回戦	自	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
1回戦	高山西	4	—	5	大垣養老	1回戦敗退	R5. 10. 14
大会名	第31回岐阜県私立高等学校親善野球大会						
回戦	自	得点	—	得点	対戦校	最終結果	大会期日
2回戦	高山西	2	—	3	中京	2回戦敗退	R5. 11. 11

以上

高山西が連覇飾る

飛騨地区高校野球優勝大会

第38回飛騨地区高校野球優勝大会が日までの2日間、高山市山田町の高山公園野球場にて行われ、高山西高校が連覇した。

夏季大会前に飛騨地域の高校のベルアップを促すべく、県高校野球連盟飛騨支部が毎年開いている飛騨高山、高山工業、益田清風、高山西、飛騨神岡、斐太の6校がトーナメントで覇を競った。

決勝は高山西と益田清風が対戦。高山西は1-1で迎えた八回、滝村日々樹選手が遊撃本塁打を放ち、勝負を決めた。高山西の堀山和真主将は、「益田清風高校には、新チームになって公式戦では初めて

勝てたのでうれしい。甲子園を目指して頑張っていた」と話した。(安井真由子)

成績は次の通り。

▽決勝 0010000005
高山西 0000000003
益田清風 0000000003
▽準決勝 0000000003
高山西 0000000003
益田清風 0000000003
▽準々決勝 0000000003
高山西 0000000003
益田清風 0000000003



決勝の益田清風戦で、遊撃本塁打を放つ高山西の滝村日々樹選手—高山市山田町、中山公園野球場

茶華道部

元田 尚美

茶道（裏千家） 水木 中山 令子先生
 華道（池坊） 金 花木 教子先生
 部長 石原 小雪（3K）
 茶道副部長 飛弾 彩瑚（3H）
 華道副部長 井関 好美（3H）

6月 茶道裏千家許状初級取得（3年生）
 6/19 西高祭にて壁掛け花の展示
 8/17、18 オープンキャンパスにて、ささやかなお菓子でおもてなし
 9月下旬 第26回学校華道インターネッ

ト花展への応募（3年生）

10/22 中学生一日体験入学にて呈茶
 11月 華道池坊職位申請（1年生）
 11/30 シンガポール留学生が茶道を見学、体験

今年度は3年生9名、2年生5名、1年生5名の計19名で活動しています。講師の先生方には毎週、温かくご指導頂けることに感謝いたします。コロナウィルスの流行が始まった令和2年からの約3年間は部活動においても、感染予防対策を講じながら制限がある中での活動を行ってきました。今年5月によやく新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受け、感染状況を考慮しながら、徐々に通常通りの活動が行えるようになりました。入部以来、空点前ばかりで、仲間同士、点てたお茶を飲むことができなかった生徒たちでしたので、マスクを外し、互いに点てたお茶を味わえるようになった時の表情は大変印象的でした。8月のオープンキャンパスには見学者にお菓子をお出しし、10月の中学生一日体験入学にはささやかな呈茶をしました。小さな一歩ですが、校内外でのお茶会に一度も参加することができなかった生徒たちにとって貴重な経験となりました。以下には中学生一日体験入学での呈茶を終えての感想を掲載します。

- ・初めての経験だったけど、みんなで協力し、スムーズに場を回せたので良かった。
- ・周囲の状況を見て、しっかり行動することができました。自分の点てたお茶を「おいしい。」と言ってもらえ、うれしかった。
- ・お茶を出すことが初めてだったので、慣れないところもあったけど、楽しくできた。
- ・後半、だんだん周りが見えるようになり、臨機応変な対応ができるようになった。
- ・中学生にお菓子の食べ方やお茶の飲み方をわかりやすく説明することは難しかった。
- ・中学生と保護者の方にお菓子とお茶を出す時にしっかり説明できた。お茶碗を下げる時に教えてもらった通りにできた。次の機会に今回の経験を活かしたい。

11月にはシンガポール留学生10名が茶道を

見学、体験する機会に恵まれました。最初はお互いに緊張した様子でしたが、お茶を点てる体験をきっかけに和やかな雰囲気になり、交流を深めることができました。

華道では12月上旬にお菓子などの空き箱を利用したクリスマス飾りを制作しました。一人ひとりが工夫を凝らし、個性溢れる作品に仕上がりました。

今後は校外での活動も行えるようになっていくことが予想されます。それに向けて日々のお稽古に精進して参りたいと思います。3年生の皆さん、時には高校生活を思い出して花を生けて下さい。またお抹茶を点てて下さい。卒業後も花やお茶を楽しむ時間を作ってもらえたら幸いです。



サッカー部

池上 正巳

サッカー部は、今年度3年生が12人、2年生2人、1年生7人、マネージャー5人の21人で活動してきた。今年度は、3年生が中心のチーム作りができ、IH予選では、ベスト8にもう少しで手の届くところまで行けた。また、地区総体では、5年ぶりの優勝ができたが1・2年生の人数が少なく、地区総体以降、思うような活動が出来ず、結果も出なかった。

IH予選では、地区1位で県大会に出場、1回戦で加茂高校に1-0で勝ち、昨年度選手権大会に続きベスト16に入ったが、ベスト8をかけた関商工戦で、前半3-0とリードしたが、後半

手の猛攻撃に耐え切れず、3-6で敗退した。地区総体では、5年ぶりの優勝ができた。Gリーグでは、3年生がほとんど引退して、1・2年生中心のチームとなり、1勝4敗1引き分けの6位で、来年度もG3リーグとなった。

新人大会地区予選は、部員が9人で、高山工業高校と合同チームで参加したが、インフルエンザの感染により、メンバーがそろわない状況で、3戦全敗となった。

来年度は、G3リーグ、IH・選手権を戦っていき、G2昇格、IH・選手権県ベスト4を目標に良い成績を残したい。

本年度の大会結果

◇インターハイ地区予選	優 勝
第1節	2-1 斐 太
第2節	4-0 飛驒高山
第3節	2-1 吉 城
第4節	2-0 工業・神岡

◇インターハイ県予選	ベスト16
1回戦	1-0 加 茂
2回戦	3-6 関 商 工

◇地区総体	優 勝
準決勝	3-3 斐 太
	5PK3
決 勝	0-0 吉 城
	4PK3

◇岐阜県ユースリーグ (G3リーグ)	6 位
第1節	0-4 帝京大可児
第2節	0-1 富 田
第3節	0-6 クラーク
第4節	7-0 県 岐 商
第5節	1-1 東農実業
第6節	2-0 羽 島 北

◇全国選手権大会県予選	2回戦
2回戦	2-2 関 有 知

◇新人大会地区予選	4位	
第1節	0-4	吉 城
第2節	0-3	斐 太
第3節	1-6	飛驒高山

※高山工業との合同チームで参加

書道部

橋下 大介
神谷 耕一

三年生6名、二年生7名、一年生4名の計17名が在籍している。本年度より書道部の顧問をさせていただくことになったが、私自身、書道の経験は浅く、書道の指導経験は皆無であったため、技術指導や出品の準備などは神谷先生をお願いする一年であった。長年、書道部を指導してこられた川上喜八郎先生が昨年度いっばいで退任（令和5年度は書道の授業のみ担当）された。これまで出品する展覧会の決定や出品手続きなどのほとんどを川上先生が担ってこられたこともあり、代わった我々だけでなく、生徒たち自身も戸惑う部分があった。

今年度は、令和6年度に岐阜県が開催県となる全国高等学校総合文化祭を控え、プレ大会が開催された。各校の書道部が共同作品と代表者数名の作品を出品した。来年の本大会は下呂市で開催されることもあり、補助員として参加する予定になっている。レベルの高い作品を間近で見られる貴重な機会となるので、良い勉強になればと願う。

また、創立60周年記念講演にお越しくくださった書家の茂住菁邨先生が、作品制作のご指導をしてくださった。飛驒市出身というご縁もあり、故郷に帰省された際などにご指導いただけることと



なった。来年の全国高等学校総合文化祭までの短い期間ではあるが、部員たちにとっては貴重な経験となるので、多くを学んでくれることを期待している。



【令和5年度 書道部活動実績】

岐阜県青少年赤十字作品コンクール

書の部

岐阜県議会議長賞 美素 富稀（3K）

絵画の部

優秀賞 美素 富稀（3K）

美素さんは絵画の部にも出品し優秀賞をいただいたため、書の部・絵画の部のダブル受賞となった。

高山市展覧会

青年の部 書部門

市展賞 美素 富稀（3K）

優秀賞 三枝 菜月（3H）

佳作

小林 歩乃佳（2H） 船坂 彩羽（2J）

入選

村田 愛美（3A） 石ヶ谷 連（3H）

島田 空諾（3H） 川上 千晴（3I）

住田 あこ（2H） 田口 花奈（2H）



野尻 夕珠 (2H) 片岡 未来羽 (2I)
 今井 咲 (2J) 志多 李葉 (2J)
 出品した全作品が入選以上の賞をいただくことが
 できた。

全国高校総合文化祭書道部門プレ大会

奨励賞 小林 歩乃佳 (2H)

プレ大会には企画展として共同で制作したポスター作品も出品した。

西高祭で書道パフォーマンス披露

西高祭で書道パフォーマンスを披露した。新型コロナの5類移行後、初めての文化祭で、有志企画の会場となった体育館は人数制限も無く多くの観客が集まった。大きな用紙に迫力のある大字を書き上げ、見事な作品を完成させた。観客からも歓声と大きな拍手をいただき、3年生部員にとっても思い出に残るパフォーマンスとなった。



「9.21世界平和の祈り」にて全国一斉揮毫に参加

飛騨護国神社で開催されたイベントに参加し、揮毫奉納をおこなった。本番に先立ち、高山善光寺での写経体験や事前学習などにも参加した。



部活動の目標は、「日本情報処理検定協会の検定8種目すべてにおいて1級以上の取得」そして、夏に行われる「全国パソコン技能競技大会全国制覇」の2つである。

日々の努力の積み重ねによって技術は向上しており、休日の強化練習では心身ともに成長することができていると感じられる。今年度も全国制覇をするという高い目標を掲げて平日や休日の活動にも力をいれている。

大会直前には、乗鞍青少年交流の家にて2日間の合宿を行った。精神的にきついときもあったが、「ライバル校よりも多くの練習をしているのだ」という気持ちを持ち、互いに切磋琢磨し練習を行うことができた。その中で生徒一人一人の意識も向上し、「優勝する!」という強い気持ちが芽生え、速さと正確性を兼ねそろえた技術を追求するようになった。

全国大会では日本語ワープロの部に、3年生3名と、2年生1名、1年生1名の5名で出場した。特に昨年2年生ながら個人優勝を果たした3K船場太一は連覇にむけて意気込んでいた。前年度の12月に行われた新人大会ではライバルに負け悔しい思いをしていたため、この大会には人並み以上に気持ちが入っていた。

大会では、初出場の1、2年生は場の雰囲気のにまれてしまい、いつも通りの力を出すことができなかったが、一方で3年生の3人はベストを尽くせた。結果は、日本語ワープロ競技団体2位、個人の部は部長であり、エースの船場が連覇を果たした。

また、一年を通してボランティア活動にも積極的に参加した。幼児児童やその保護者、大学生。時には会社経営の方々など、学校関係者以外の人々と交流する中で、多くのことを学ぶことができた。老若男女問わず、様々な世代の人々と交流し、コミュニケーション能力も高めることもできた。

今後も、「凡事徹底」という情報ビジネス部のモットーを胸に、日々の生活態度を良くし、コッ

コツと努力することを大切にしていきたい。そしてなにより、毎日支えてくれる家族、応援してくれるOB・OGや関係者。そして地域の方々に支えてもらっていることに感謝し、今後も練習に励んでいきたい。



<大会成績等>

◎第37回全国パソコン技能競技大会

8月10日(木) 名古屋市中小企業振興会館 (吹上ホール)

日本語ワープロ競技 団体第2位

- 船場 太一 (3K) 上田 紗永 (3J)
- 坂口 昂輝 (3I) 谷本 有紀 (2I)
- 長瀬 智煌 (1J)

日本語ワープロ競技 個人優勝・文部科学大臣賞

船場 太一 (3K)

<表彰>

◎日本情報処理検定協会会長特別賞

船場 太一 (3K) 上田 紗永 (3J)

◎岐阜県教育長賞 船場 太一 (3K)

◎高山市栄誉功勞賞 船場 太一 (3K)



<ボランティア活動等>

◎ボランティアリーダー養成セミナー

5月27日(土) 28日(日)

◎上一ノ市ボランティア 9月2日(土)

◎あそびの祭典in乗鞍ボランティア

10月14日(土) 15日(日)

◎児商童館フェスタボランティア

11月3日(金)

ソフトテニス部 (女子) //////////////

面手 啓

今年度は2年生5名、3年生5名の合計10名でのスタートとなった。県総体では団体・個人戦に出場し、団体戦では初戦で敗退したが、個人戦では一回戦を突破し二回戦に進出することができた。二回戦はストレート負けであったが、強豪チームとの対戦ということで、よい経験ができた。その後の国体予選では5ペアが出場し、ベスト8に入り県予選に出場することを目標とし、1ペアではあったが、その目標を達成することができた。また、地区総体においては、この大会が最後の大会となる3年生を2年生がよくバックアップし、予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメントに進出することができた。3年生のほとんどが初心者であったが、その成長を強く感じた。

夏休みからは新チームとなり、5名という少人数ではあるが、新部長・副部長を中心に意欲的に練習を重ねた。7月下旬に飛騨カップ岐阜県高校女子研修大会が開催され、県内外の強豪校との対戦や多くのゲームを組んでいただき、大変有意義な研修大会となった。8月上旬には岐阜県新進大会に2ペアが出場し、新チームとして初めての県大会となった。1ペアが予選を通過し、決勝リーグに進出したが、惜しくも敗退した。県大会でも予選は何とか通過できたが、決勝ともなるとなかなか勝てない。県のレベルの高さや美濃地区の選手との実力の差を、改めて痛感した。その後は次の公式戦、9月の新人戦に向けて練習に励んだ。

飛騨地区の新人大会では、1ペアがベスト12

に入り、県大会進出を決めた。岐阜県新人大会では団体・個人戦に出場し、団体・個人ともに初戦で敗退した。ここでも県の壁の厚さを実感することとなった。しかしながら、新チームにとっては初めての県の団体戦ということで、良い勉強、経験となったと思う。

今後は、冬の飛騨地区室内大会に向けて、特に基本練習を積み重ねていきたい。また、冬場のトレーニングでは、特にフットワークを中心に強化していきたい。下半身を地道に鍛え、パワー不足、ストロークの精度不足などといった課題を、確実にクリアしていきたい。

【本年度の大会結果】

◇インターハイ飛騨地区予選（個人）

4 / 2 2 中山公園テニスコート

1 回戦

大溝（3 J）・齋藤（3 J） 4 - 1 飛騨高山

佐藤（2 I）・高田（3 J） 4 - 1 斐太

船坂（3 H）・稲垣（3 J） 0 - 4 飛騨高山

高田（2 I）・下島（2 H） 2 - 4 飛騨高山

牧野（2 J）・清水（2 I） 1 - 4 飛騨高山

2 回戦

大溝（3 J）・齋藤（3 J） 2 - 4 益田清風

ベスト 1 2 県大会出場

佐藤（2 I）・高田（3 J） 1 - 4 飛騨高山

ベスト 1 2 決定戦敗退

◇インターハイ岐阜県予選（団体） 5 / 1 3

関市中池公園テニスコート

2 回戦 高山西 0 - 3 土岐商

◇インターハイ岐阜県予選（団体） 5 / 1 4

関市中池公園テニスコート

1 回戦

大溝（3 J）・齋藤（3 J） 4 - 3 大垣商

2 回戦

大溝（3 J）・齋藤（3 J） 0 - 4 美濃加茂

◇国体一次予選（飛騨地区予選）（個人） 6 / 3

中山公園テニスコート

1 回戦 大溝（3 J）・齋藤（3 J） 4 - 0

飛騨神岡

船坂（3 H）・稲垣（3 J） 4 - 0 飛騨神岡

佐藤（2 I）・高田（3 J） 4 - 1 飛騨高山

高田（2 I）・下島（2 H） 4 - 1 飛騨神岡

牧野（2 J）・清水（2 I） 0 - 4 益田清風

2 回戦

大溝（3 J）・齋藤（3 J） 4 - 1 飛騨高山

船坂（3 H）・稲垣（3 J） 0 - 4 飛騨高山

ベスト 1 6

佐藤（2 I）・高田（3 J） 1 - 4 益田清風

ベスト 1 6

高田（2 I）・下島（2 H） 2 - 4 飛騨高山

ベスト 1 6

準々決勝

大溝（3 J）・齋藤（3 J） 0 - 4 益田清風

ベスト 8 県大会出場

◇国体二次予選（岐阜県予選）（個人） 7 / 8

中津川公園テニスコート

1 回戦

大溝（3 J）・齋藤（3 J） 2 - 4 大垣商

◇飛騨地区総体（団体） 7 / 2 2

中山公園テニスコート

予選リーグ戦 1 位

（2 - 1 飛騨高山 B 3 - 0 斐太）予選通過

決勝トーナメント 5 位（1 - 2 益田清風 B）

◇岐阜県高校新進大会（個人） 8 / 8 ・ 9

各務原スポーツ広場テニスコート

予選リーグ

高田（2 I）・下島（2 H） 4 - 3 岐阜各務野

4 - 0 本巣松陽 ブロック 1 位

佐藤（2 I）・牧野（2 J） 1 - 4 岐阜

4 - 0 大垣養老 ブロック 2 位

決勝リーグ

高田（2 I）・下島（2 H） 2 - 4 大垣桜

3 - 4 岐山

◇新人戦飛騨地区予選（個人） 9 / 9

中山公園テニスコート

1 回戦

佐藤（2 I）・牧野（2 J） 4 - 0 斐太

2回戦
佐藤（2 I）・牧野（2 J）2-4 飛騨高山
ベスト12 県大会出場

◇飛騨地区シングルス大会 9/10
中山公園テニスコート

1回戦
佐藤（2 I） 3-0 斐太
牧野（2 J） 2-3 飛騨神岡

2回戦
佐藤（2 I） 3-0 飛騨高山

準々決勝
佐藤（2 I） 1-3 益田清風 ベスト16

◇岐阜県高校新人大会（団体） 10/21
各務原スポーツ広場テニスコート

1回戦 高山西 0-2 本巣松陽

◇岐阜県高校新人大会（個人） 10/22
岐阜ファミリーパークテニスコート

2回戦
佐藤（2 I）・牧野（2 J）0-4 多治見西

ソフトテニス部（男子）

顧問 井上 正己

今年度は通常通り大会が開催されました。今年度からソフトテニス部の顧問になり、戸惑いながらではありましたが、部員たちと話し合い取り組んできた1年間だったように思います。学年の人数構成は3年生7名、2年生1名、1年生5名となりました、4月当初は3年生に助けられながら部活動を行っていました。練習メニューや指示に関しても、積極的に3年生が動き、1・2年生を牽引してくれたと思います。3年生が引退したのち新体制となり大会に率先して取り組んできました。また、今年度は夏季合宿に行き、全員で練習を取り組めたことは良い経験になりました。その後の試合では納得できる試合もあれば、悔しい思いをした試合もありますが、今後は各々の課題を

克服し、来年のさらなる成長に繋げていきたいと考えています。

<インターハイ飛騨地区予選（ダブルス戦）

4月22日>

畑中・今井 ベスト16

松林・滑川 1回戦敗退

岩井・中屋 1回戦敗退

<インターハイ県予選（団体戦） 5月13日>

1回戦 高山西 3-0 大垣養老

2回戦 高山西 0-3 恵那

<国体地区予選（ダブルス戦） 7月3日>

畑中・丸山 2回戦敗退

梶井・松林 2回戦敗退

岩井・中屋 1回戦敗退

滑川・今井 ベスト8

<国体県予選（ダブルス戦） 7月8日>

滑川・今井 1回戦敗退

<飛騨地区総合体育大会（団体戦）7月22日>

予選リーグ 高山西 2-0 飛騨高山

高山西 2-0 斐太A

決勝トーナメント 高山西 2-0 斐太B

高山西 2-0 高山工業

決勝戦 高山西 0-2 益田清風

優勝：益田清風 準優勝：高山西

<飛騨地区新人大会（ダブルス戦）9月9日>

滑川・砂原 1回戦敗退

今井・鍋島 ベスト16

和田・山越 1回戦敗退

<岐阜県新人大会（団体戦）10月14日>

高山西 1-2 土岐商

<岐阜県新人大会飛騨地区予選（個人戦）9月10日>

砂原 ベスト8

今井 ベスト16

滑川 ベスト32

鍋島 1回戦敗退

和田 1回戦敗退

山越 1回戦敗退

卓球部

菅沼 孝司

令和5年度卓球部は、3年生2名、2年生4名、1年生5名の合計11名で活動してきました。

少しずつではありますが、様々な大会が開催されるようになりました。大会が通常通り実施されるようになりましたが、なかなか思ったような結果につなげることができませんでした。しかし、生徒たちはこれにくじけることなく、目標に向かい真摯に活動に取り組んでくれております。

今年度は、コロナ禍で何年も実施できなかった夏季合宿を再開することができました。なかなか来校することができなかった卓球部の卒業生が合宿に参加し、現役生を指導してくれたこともあり、とても充実した合宿にすることができました。

今後も、高山西の卓球部を応援して頂いている方々に恩返しができるように、生徒が満足できる結果が出せるよう、日々精進していきたいと思っております。

選手自身が高山西高校卓球部員であるという自覚を持ち、堂々と試合に向う。これまで先輩方が目指し続けてきた目標を今後も達成したいというその気持ちを受け継ぐ。「目標」を掲げ達成するために「課題」を持ち、「課題」を克服するための具体的な「努力」する事によって、「結果」を出すという理論を実践し続け、「目標」を達成できるよう精進していきたいと思っております。

【今年度の主な成績】

女子

岐阜県高校総体飛騨地区予選 女子団体 優勝
飛騨地区新人大会 女子団体 準優勝
中部日本卓球選手権大会

女子一般シングルス 大前 佳也乃 (3A)

女子一般ダブルス

清水 ゆりな (1K) ・ 神田 結 (1L)

東海卓球選手権大会 女子一般シングルス

大前 佳也乃 (3A) 舟崎 悠香 (3A)

女子ジュニアシングルス 山口 連花 (1K)

ディベート部

堀尾 譲

4月より2年G組の生徒を中心として新体制で活動してきたが、早いもので今年の活動も終わりを向かえることとなった。特進Iクラスとして日々の学習と部活動との間に折り合いをつけながら練習を重ねてきたが、今年度から対面形式の大会や練習会が復活したことは本校生徒にとっても大きな変化であった。オンライン形式のメリットは認めつつも、やはり対面によるディベートの方が(生徒が)受けるインパクトは計り知れないものがある。

また今年度も全国の様々な学校とオンライン及び対面による練習試合を通じて交流を深めることができた。これもひとえに多くの関係者や先生方の協力があってこそのものである。以下に今年度お相手していただいた学校を紹介させていただく。竹園(茨城)・宇都宮・宇都宮東・作新学院・真岡女子(栃木)・高崎女子(群馬)翔凛(千葉)・長野・屋代・諏訪青陵・伊那北(長野)・三島北・清水東(静岡)・東海・東海学園(愛知)・聖マリア・岐阜聖徳学園(岐阜)・川越(三重)・膳所・米原・彦根東・近江兄弟社・守山・長浜北・高島(滋賀)・藤島・高志(福井)・富山国際(富山)・神戸大付属・葺合(兵庫)・大安寺中等教育学校(岡山)・鹿児島中央(鹿児島)等、本当に多くの学校との練習試合を通じて本校の生徒達も成長することができた。また彼らとは来年度受験に於いて競い合うことになるであろうが、再び受験会場で相まみえることを楽しみに、今後さらに学習に取り組んでくれることを切に願うばかりである。

【第18回全国高校生英語ディベート大会出場】

【愛知・岐阜県合同英語ディベート大会】優勝(岐阜県1位)

【北陸ブロック英語ディベート大会】第5位

【関西ブロック英語ディベート大会】第6位・8位

【東海ブロック英語ディベート大会】優勝

男子ハンドボール部 ////////////////

山下 祐輝

【今年度の主な成績】

- ◇岐阜県高等学校新人大会(R4 12/25~27) 準優勝
- ◇岐阜県選抜選手権大会(R4 1/7, 14) 準優勝
- ◇東海高等学校選手権大会(R4 2/4~5) 出場
- ◇岐阜県高等学校総合体育大会(R4 5/20~21, 27) 第3位
- ◇東海高等学校総合体育大会(R4 6/24~25) 出場
- ◇飛騨地区高等学校総合体育大会(R4 7/8) 優勝(20年連続)
- ◇堤杯岐阜県選手権大会(R5 8/1~3) 準優勝
- ◇岐阜県高等学校新人大会(R5 12/25~27) 第3位

【今年度を振り返って】

本校ハンドボールは2004年4月に創部し、皆様のご支援により、創部20年目を迎えることができました。

昨夏の新チーム初戦の大会となる堤杯選手権では、市立岐阜商業高校が出場していない中での大会となったが、優勝することができ良いスタートを切ることができた。

迎えた昨年末の県新人戦決勝リーグでは、市立岐阜商業に惜敗するも、岐阜東高校には勝利することができ、県大会2位で東海大会の切符を掴んだ。

2月の東海選手権では三重県2位のいなべ総合高校と対戦した。練習試合の成績も五分五分であり接戦が想定され、予想通りの一進一退の攻防が続いた。試合の中で成長する選手の姿もあったが、大切なときのミスが目立ってしまったのが大きく影響し、1点差での敗退となった。目指していた全国選抜大会の出場権を得ることができず、悔しい大会となった。

そして4月には新入生8名を迎えた。即戦力となる1年生とともに、インターハイ出場権獲得に向けた戦いが始まった。GW毎年恒例の大分合宿では、接戦を勝ち切るゲームもあり、2月の悔しい経験をした大会からの成長を感じる合宿となった。

インターハイ予選では、準決勝で岐阜東と対戦、こちらも全力で試合をしたが、相手エースを最後まで守り切ることができず、この準決勝で目標である北海道インターハイへの道が途絶えた。翌週の3位決定戦では、気持ちを切り替えて試合に臨み、大垣工業に快勝して16回目の東海総体出場の切符を手に入れることができた。

「最後は笑顔で終われるように」と臨んだ東海大会では、1回戦で静岡県富士高校と対戦した。しかし、開始直後に思わぬアクシデントが発生する。高校からハンドボールを始めた3年生のRWの選手が相手選手との接触により、試合離脱してしまった。接戦を勝ち切ったゲームのほとんどが、彼の高いシュート成功率に助けられていたもので、チームとして大きな痛手であった。その怪我により、チームの歯車がかみ合わなくなり、延長戦にもつれたゲームは2点差で惜敗した。なんともやりきれない試合が3年生のラストゲームとなり、指導者としての力量の無さを痛感し、3年生の選手、マネージャー、保護者に申し訳ない気持ちでいっぱいだった。

第19期生は選手4名、マネージャー2名という少ない人数ではあったが、西高ハンド部の歴史を繋いでくれた大切なメンバーである。高校から始めた櫻枝は、こちらの想定以上の大きな成長を遂げ、チームに欠かせない選手になり大活躍してくれた。中川は1年次の後半、一人でゴールキーパーという大切なポジションを守り、佐美は得意なプレーで何度もチームを救い、高島はキャプテンとしてチームをまとめてくれた。西野、橋本の2名のマネージャーも自信のハンドボールの経験を活かしながら、チームにたくさん貢献してくれた。

7月中旬、新チームがスタート。2年生10名、1年生8名の18人体制である。人数が多く活気があり、力のある成長の楽しみな選手が多い。新チーム初戦の堤杯選手権では市立岐阜商業に6点差で負けて県2位スタートとなったが、今秋には、インターハイ上位進出チームした全国の強豪校の胸を借りて何度もトレーニングマッチを実施、チーム力向上を感じることができている。選手それぞれが人間的に成長し、感謝の心を忘れない愛

されるチームになれば、12月と2月の予選を勝ち抜き、3月に実施される地元開催（岐阜市）の全国選抜大会出場権を獲得できるであろう。

今年度も無事に活動することができたのも高山市ハンドボール協会、飛騨学園教職員の皆様、保護者会の皆様、OB会・OB会保護者会の皆様、滝村紀貴氏（高山市ハンドボール協会副会長）並びにご家族の皆様、いつも影で支えて下さる前顧問の三川俊哉先生（高山市ハンドボール協会副会長）のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございます。そして、今後とも宜しく願い申し上げます。

バスケットボール部（女子）

下畑 耕一

令和5年度TALONSは、大きく飛躍したチームとなりました。その一方で、多くの困難も経験した、忘れられない1年間となりました。

今年の3年生は、当初12名の新入部員としてチームに入部してきました。そんな彼女達の中学校3年次は、世界を震撼させた新型コロナウィルスの感染が拡大した年であり、満足に中学バスケットを経験することができない世代でした。公式の大会が全て中止となるなど可哀想な1年間を経て、高校バスケットボールに希望を持っての入部でした。

1つ学年が上の世代で、岐阜県3位という成果を残し引退。その成果を引き継ぎ、より飛躍させることが1つの目標でした。チームの核となるアク（蒲選手）を中心に、前年からアグレッシブにチームを牽引したりオ（下畑選手）を軸に新チーム最初の大会である新人大会に臨みました。

しかし、試合経験が乏しい新チームは、彼女たちが思っていた以上に力が無く、日々の練習でも納得の行く練習ができない…そんな毎日が続きました。練習試合をしても、先輩達のようなパフォーマンスを発揮できず、選手達の表情にも不安の色が見られました。

年明けには、ライ（川原選手）・ハク（河合選手）の成長もチームに勢いをもたらし、新チームの形がハッキリしてきました。そして挑戦した新人大会では、激戦を凌ぎながら岐阜県ベスト4に進出し、先輩達の残してくれた伝統を引き継ぐことができました。選手達の清々しい笑顔が今でも思い出されます。

しかし、次はインターハイ予選…そんな目標を立て動き出したチームでしたが、色々な困難が待ち受けます。新人大会後にエースのアクが重度の捻挫で戦線を離脱、そこから数名が怪我で練習に参加できない状態が続きます。また、3月の中旬からチーム内でインフルエンザが蔓延し、全員が感染してしまい活動ができない…そんな状態にもなりました。そのため3月下旬に計画していた京都遠征は急遽中止、山梨遠征は選手5人のみで参加するなど非常に苦しい状況が続きました。そんな中、チームのバックアップメンバーであるナル（間地選手）や、エル（宇野選手）がチームを引っ張りチームの窮地を救ってくれたことも良い思い出です。

4月に入り6名の新入生を迎えインターハイ予選に臨みました。年度末の状態から少しは調子を上げたものの、なかなかチームに勢いを感じる事ができず不安が過りました。

そんな3年生のインターハイには1つのドラマがありました。1年次にシン（原田選手）が体調不良からやむなく退部し3年次に進級した時には11名の3年生となっていました。シンは、非常に優しい選手で、同級生から慕われており、みんなの人気者でした。彼女と別れの際には、全員が大粒の涙を流し別れを悲しんだものです。そんなシンは、静岡県浜松市に生活拠点を移し心機一転頑張っていました。なかなかモチベーションが上がらない中、3年生だけでミーティングを開き1つの目標を掲げました。東海総体の会場が、静岡県浜松市、メンバーだったシンが現在生活している場所であったこともあり、「友との約束を果たしに浜松へ行こう」というスローガンで気持ちを1つにインターハイ予選に挑戦しました。迎えたブロック決勝では、新人5位的美濃加茂高校と対戦。能力、サイズ共に勝る美濃加茂の前に苦しい試合展開と

なりました。しかも、絶対的エースのアクが序盤のファウルトラブルでベンチに下がることに…。リオの活躍を中心に粘るものの苦しい状況。そんな状況を救ってくれたのはカイ（谷口選手）でした。アグレッシブなディフェンスとタイムリーな3Pシュートでチームに勢いを与えてくれ、激戦を制しベスト4に進出しました。決勝リーグでは、強豪校の前に苦戦を強いられるもTALONSらしく戦いました。しかし、試合前のウォーミングアップで3月にアキレス腱断裂後、順調に回復に向かっていたキョウ（田中選手）が、再度アキレス腱を損傷するアクシデント。チームの元気印であった彼女の存在を欠くこととなりました。

そんな状況の中でしたが、友との再会を、そしてキョウに東海出場をプレゼントする、そんな強い想いを胸に望んだ3位決定戦。対する岐阜農林は新人戦で敗戦しているチーム。やはり序盤より苦しい展開が続きます。しかし、想いが1つになったチームは粘りました。最後の最後までボールに食らい付き、終盤には逆転、そして念願の東海総体出場を決めました。友のため、仲間のため、そんな姿が見られたインハイ予選。それ以上に入学当初の姿から見ても、3年生達の成長が頼もしく、そして素晴らしく感じたことが最高の喜びでした。

その後数名の3年生が残りウィンターカップ予選に向けて再スタートを切りました。夏休みには、過去経験したこともないレベルの戦い（日清食品東海ブロックリーグ）を経験し、主力選手の離脱や故障などでベストなチーム状態を維持することが困難な時期もありました。その1つひとつをチームで乗り越え、何とか10月に行われたウィンターカップ予選まで辿り着きました。そんな険しい道のりでしたが、ソウ（中ノ瀬選手）のサポート、マネージャーであるセイ（高熊選手）が、常に声を出し、仲間を鼓舞し、チームを支えてくれたことは非常に頼もしいものでした。

いよいよ迎えた今シーズン最後の大会となったウィンターカップ予選。ベストとは言えない状態でしたが、チーム一丸戦いました。しかし、準々決勝で富田高校の勢いの前に流れを掴まれ敗退を喫し大会をベスト8で終えました。インハイ後、

チームの成熟、下級生の成長など…、多くの課題を課し強化を図ってきましたが、私の力不足で伸ばしてあげることができず、常に笑顔で大会を締めくくってきた彼女たちの最後を最高の笑顔で飾ってあげることができませんでした。3年生の流した最後の涙を見た時には、申し訳ない気持ちと感謝の思いでいっぱいになったことを覚えています。

多くの功績を残してくれた3年生でしたが、それ以上に人としての成長を感じる事ができた学年でした。そんな成長度合いは、過去最高と言っても良いくらいです。彼女たちの変化と共に、私もたくさんのことを学ぶことができました。

今実感しています。本当に選手に救われていると。多くの思いを抱きながらも、こんな私に付いてきてくれた彼女達、3年生には心感謝しています。また、各選手の保護者の方々には、私の我がままを聞いてくださったこと、細かなところまでサポートしていただいたことに心から感謝いたします。

最後に、影となり見守ってくれた家族の姿は勿論、TALONSを支えてくださった方々に感謝し、それぞれの道の糧にしてもらいたいと思います。

保護者・先生方・松柏会の皆様には、毎年変わらないご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございました。これからも、信念を持って生徒と共に歩いていく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願いいたします。

【 戦 績 】

- ・飛騨地区新人戦 （優勝）
順位決定戦 高山西 87 - 42 斐太
- ・岐阜県新人大会 （ベスト4）
1回戦 高山西 133 - 26 本巣松陽
2回戦 高山西 88 - 51 多治見西
ブロック決勝 高山西 61 - 41 岐阜総合
決勝リーグ 高山西 75 - 100 県岐商
決勝リーグ 高山西 43 - 110 岐阜女子
決勝リーグ 高山西 78 - 83 岐阜農林
- ・岐阜県総合体育大会 （第3位）
1回戦 高山西 107 - 22 加納
2回戦 高山西 108 - 68 多治見西

ブロック決勝 高山西 65-63 美濃加茂
決勝リーグ 高山西 49-66 県岐商
決勝リーグ 高山西 51-116 岐阜女子
決勝リーグ 高山西 57-53 岐阜農林

・東海総合体育大会

1回戦 高山西 37-95 名経大高蔵

・日清食品東海ブロックリーグ(0勝7敗:第7位)

リーグ戦 高山西 49-102 いなべ総合

リーグ戦 高山西 42-107 メリノール

リーグ戦 高山西 38-93 県岐商

リーグ戦 高山西 33-100 浜松開成館

リーグ戦 高山西 33-85 市立沼津

リーグ戦 高山西 30-93 名経大高蔵

リーグ戦 高山西 40-132 星城

・飛騨地区総合体育大会 (優勝)

・岐阜県高等学校選手権大会 (ベスト8)

2回戦 高山西 122-31 武義

3回戦 高山西 100-46 多治見北

準々決勝 高山西 41-66 富田

バスケットボール部(男子) //

打江 勇太郎・江黒 永寿

今年の3年生は、主将の北澤史琉を中心に、大塚晴心・藤井孝貴・鈴木英仁・谷口誠弥・村田遥亮の選手6名と成俊峰のマネージャー1名がチームを引っ張ってくれた。昨年度選手権を3位で終え、その悔しさを基に始動した新チームであったが、1月の県新人大会、2年生は経験を積んでいる上での大会でまさかの5位、現実を突きつけられるどん底からのスタートであった。

4月を迎え、新入生は13名の選手と1名のマネージャーが入部し、総勢33名となった。また新型コロナウイルスの影響により合流が遅れたが、ナイジェリアからの留学生オカブ チネドゥが加わり、新人戦後から今のままでは勝てないと、今まで以上に厳しい練習を自分たちで追い込み、声をかけ合いながら練習に励んだ。

5月に岐阜県高校総体が行われ、今大会は自由観戦者ありの開催となり、コロナ禍前のように

援を含め、活気のある雰囲気の大大会であり、より一層気が引き締まっているのが見て取れた。ベスト4まで順調に勝ち上がり、決勝リーグ1回戦目の相手は美濃加茂高校。今大会1番の勝負所であった。出だしの1Q10分で15点差をつける素晴らしいスタートを切った。後半からは一進一退の攻防が続き、相手の攻撃にも我慢し、最後まで集中して戦い抜くことができ、15点差で勝利。ここで生徒達には優勝の2文字がちらついた。決勝リーグ2回戦目は、新人戦で苦汁を飲んだ大垣工業高校、2度も同じミスはしないと気迫のこもったプレーが見え、23点差をつけ勝利。ここで生徒たちをプレッシャーが襲った。優勝決定戦の相手は富田高校、前半から膠着状態が続き、お互いなかなかリズムがつかめない。重苦しい状態から始まった後半、富田高校に10点離され、最終Q、気持ちが先行し、リズムが最後まで掴めず敗退。あと一步のところまで全国大会出場を逃した。最後は気持ちの部分であったと指導者、選手ともども気づいた実りある大会であったと思う。今大会の結果は準優勝となり、東海総合体育大会の出場を決めた。

今年は夏休みに行われる日清食品東海ブロックリーグに出場することができ、日清食品のバックアップの下、Youtubeなどの映像配信もあり、貴重な体験をさせていただいた。またその中で、総体予選の悔しさを晴らそうと、粘り強く我慢し、チャンスを掴み取るゲームを展開することができ、見事、全勝優勝で終えることができた。これは選手たちの大きな自信に繋がった。夏休み・シルバーウィークと県外の名だたる高校と対戦し経験を重ね、シュートを決めきる力、リバウンド・ルーズボールの意識を大切に練習・試合と取り組んできた。

10月になり選手権大会が始まる。準決勝の相手は富田高校、今年の県総体で唯一黒星をつけられた相手との対戦で、リベンジに燃えていた。夏の悔しさを晴らすかのように、前半から良いリズムでプレーを展開し、1度も主導権を渡すことなく快勝。決勝戦へと駒を進め、相手は美濃加茂高校。今年に入り4度目の対戦となる相手はお互いを知り尽くしており、一進一退の攻防が続いた。後半1つのミスから相手にペースを持っていかれ、点

差が開いた。最終Qには2年生主体のメンバーにバトンを渡し、最後まで立ち上がり前を向いて声をかける3年生の姿を見て、誇らしさを感じた。終了後のミーティングでは、監督の打江謙二先生を含め、全員が悔し涙を見せた。この悔しさを忘れないと全員で誓った日であった。また全国大会出場という目標に向け邁進していきたい。

最後に子どもたちのことを一番に考え、支えてくださった保護者の皆様、そして籠西会の皆様、先生方、いつもご支援、ご協力をいただきありがとうございました。これからも覚悟と信念をもって、選手たちと共に戦っていく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



<戦績>

◎令和4年度 飛騨地区新人大会

決勝 高山西 92 — 53 斐太

最終戦績 優勝

◎令和4年度岐阜県新人大会

1回戦 高山西 143 — 23 東濃実業

2回戦 高山西 133 — 37 加茂

3回戦 高山西 51 — 60 大垣工業

5位決定予備戦

高山西 90 — 52 岐阜総合

5位決定戦

高山西 86 — 56 大垣日大

◎令和5年度 岐阜県高校総合体育大会

1回戦 高山西 67 — 47 岐阜北

2回戦 高山西 124 — 40 中津川工業

3回戦 高山西 95 — 74 岐阜農林

決勝リーグ 高山西 64 — 49 美濃加茂

決勝リーグ 高山西 68 — 45 大垣工業

決勝リーグ 高山西 44 — 63 富田

最終戦績 準優勝 優秀選手賞 北澤 史琉

◎令和5年度 東海高校総合体育大会

1回戦 高山西 81 — 50 津工業 三重

2回戦 高山西 42 — 80 藤枝明誠 静岡

最終戦績 ベスト8

◎令和5年度 飛騨地区総合体育大会

決勝 高山西 114 — 56 斐太

最終戦績 優勝

◎令和5年度 岐阜県高校バスケットボール選手権大会

3回戦 高山西 98 — 52 県岐阜商

4回戦 高山西 129 — 32 加茂農林

準々決勝 高山西 96 — 35 岐阜総合

準決勝 高山西 75 — 60 富田

決勝 高山西 55 — 90 美濃加茂

最終戦績 準優勝 優秀選手賞 大塚 晴心

年間ベスト5 藤井 孝貴

バドミントン部

三川 俊哉

【今年度の主な成績】

◇第71回岐阜県高等学校総合体育大会

飛騨地区予選

(R5.4/15.4/.22 高山工業高校、飛騨高山高校)

<男子個人>

単1位 松田彪雅 単2位 田尻真三

単3位 古谷颯希

複1位 松田・田尻 複2位 古谷・梶井

複3位 今井・成田

<男子団体> 優勝

2回戦 高山西3-1 飛騨高山

決勝 高山西3-0 益田清風

<女子個人>

単1位 桂川茉莉 単3位 古谷桜咲

複1位 桂川・古谷 複2位 小倉・田口

<女子団体> 優勝

2回戦 高山西3-1 飛騨高山

決勝 高山西3-0 斐太

◇岐阜県高等学校総合体育大会

(R5.5/13.14.5/21 岐阜メモリアル、

大垣市総合体育館)

<男子個人>

単 松田彪雅 1回戦敗退

田尻真三 1回戦敗退

古谷颯希 1回戦敗退

複 松田・田尻 1回戦敗退

古谷・梶井 1回戦敗退

今井・成田 1回戦敗退

<女子個人>

単 桂川茉莉 2回戦進出

古谷桜咲 1回戦敗退

複 桂川・古谷 1回戦敗退

小倉・田口 1回戦敗退

<男子団体> ベスト4

1回戦 高山西 3-2 帝京可児

2回戦 高山西 3-1 大垣南

準決勝 高山西 0-3 富田

3位決定戦 高山西 0-3 岐阜高専

<女子団体> 1回戦敗退

1回戦 高山西 0-3 済美

◇第78回国民体育大会バドミントン競技岐阜県

選考会 (R5.6.24 岐阜ファミリーパーク)

<男子>

複 古谷・梶井 1回戦敗退

阿部・成田 1回戦敗退

松田・岡田 2回戦進出

単 阿部 1回戦敗退

成田 1回戦敗退

田尻 2回戦進出

◇飛騨地区高等学校総合体育大会

(7/15 高山工業高校体育館)

<男子団体> 優勝

リーグ戦 5勝0敗

<女子団体> 優勝

リーグ戦 4勝0敗

◇第57回岐阜県バドミントン選手権大会(単2部)

(7/30男子7/31女子プリーニの総合体育館)

<男子個人>

Aの部

阿部恵三 2回戦進出

成田 響 3回戦進出

梶井大喜治 3回戦進出

今井太玖馬 1回戦敗退

畑中優人 2回戦敗退

砂田大和 3回戦進出

<女子個人>

Aの部

古谷桜咲 4回戦進出

谷口紗帆 2回戦進出

小倉麻由奈 1回戦敗退

田口亜美 1回戦敗退

渡邊百葉 2回戦進出

◇第29回高山市中高生バドミントン大会

(R5.8/13飛騨高山ビックアリーナ)

生徒多数出場

◇岐阜県高等学校新人バドミントン大会飛騨地区
予選 (10/14個人戦 飛騨高山高校体育館、
10/21団体戦 斐太高校体育館)

<男子個人>

単 優勝 成田 響 2位 阿部恵三
3位 今井太玖馬
複 優勝 阿部・梶井 2位 成田・今井
4位 畑中・砂田

<男子団体> 県4位シードのため不参加

<女子個人>

単 優勝 田口亜美
2位 古谷桜咲
複 優勝 古谷・田口ペア
2位 谷口・渡邊ペア

<女子団体>

2回戦 高山西3-0 益田清風
決 勝 高山西3-2 飛騨高山

◇岐阜県高等学校新人大会 (11/3, 10/28, 29)
(団体 大垣市総合体育館、個人 やまと総合セ
ンター)

<男子団体> バスト8

1回戦 高山西3-1 飛騨高山
2回戦 高山西0-3 大垣西

<男子個人>

単 成田 響 1回戦敗退
阿部恵三 1回戦敗退
今井太玖馬 1回戦敗退
複 阿部・梶井 1回戦敗退
成田・今井 1回戦敗退

<女子団体> 1回戦敗退

1回戦 高山西1-3 各務原西

<女子個人>

単 古谷桜咲 1回戦敗退
田口亜美 1回戦敗退
複 古谷・田口 1回戦敗退
谷口・渡邊 1回戦敗退

今後の予定

◇第57回岐阜県バドミントン選手権大会複2部
(12/2大垣市総合体育館 大垣城ホール)

◇第68回岐阜県高校生バドミントン大会
(団体) (R6.1/27岐阜市東部体育館 南部ス
ポーツセンター)

◇第68回岐阜県高校生バドミントン大会
(1年生個人) (R6.2/11プリニーの総合体育館)



【今年度を振り返って】

今年度は男子3年生9名 2年生6名 1年生4名、女子3年生2名 2年生2名 1年生3名
合計26名で活動してきた。今年度はすべての
大会が予定通り開催され1年間を通して充実した
時間を過ごすことができた。

大会に向けての県外遠征も例年以上に実施でき、
ようやく本来のあるべき活動ができた。これも一
重に保護者の方のご理解とご協力があったからこそ
の活動であり大変感謝している。また、初めて保護
者総会を5月に開催できたこともバドミントン部
として大きな一歩であった。

今年度も田口正明氏がコーチとして授業部活
(水、木、金の7・8時限目)の指導をしてくだ
さり、私を含め選手も保護者も大変感謝している。
技術的な指導、体力的な指導、そして人間力を高
めてくださる指導、すべてにおいて生徒と正面か
ら向きあってくださり本当に感謝しかありません。
今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致しま
す。

3年生の生徒諸君へ。3年間お疲れ様でした。
色々なことがあった学年です。私も同学年の担任
として、また部顧問として3年間同じ時間を過
すことができた学年です。また、顧問として5年
目を迎え、ようやく部活動としての本来の在り方
が定着できた学年でした。特に3年生のバドミン
トに対する姿勢には本当に感謝している。強くな
りたい、上手くなりたいという向上心が大切であ

ることを改めて感じさせられた学年であった。4月からは新しい環境でスタートするが向上心を忘れずに貪欲に目標に向かって頑張りたいと願っている。

1, 2年生の生徒諸君へ。3年生が創り上げた部活動のあるべき姿・方向性を継承すべくこれからも日々努力を重ねよう。体力・知力・技術力。どれもまだ未熟です。まずはスタミナ（体力）を一番に身に付けましょう。技術力は毎日の練習の取り組み時間で解決できます。ただし意識レベルを上げて。意識をしない練習は技術力の飛躍的な向上はのぞめません。2年半しかない限られた時間の中で技術力を高めるには質を上げることが効果的です。日々の練習に意味を持って取り組もう。

最後にこれまでバドミントン部の活動にご理解・ご協力をいただきました保護者の皆様、OBの皆様、有り難うございました。そしてご尽力いただきました脇田先生、鈴木先生に感謝するとともに今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

バレーボール部（女子）

蟹江 信介

今年度の女子バレーボール部は3年生3名、2年生3名、1年生5名の計11名でスタートでした。カップ戦や大会が開催されるようになりましたが、人数が少なくコンディション作りが難しい時期もありました。部員たちは目標を持ち、毎日の練習や練習試合で力をつけ、思う通りの結果にならない時もありましたが一生懸命頑張ってくれました。また、引退した3年生は後輩の指導にも力を入れてくれました。部員一人一人が技術的に自分には何が足りないかを考えて遅くまで練習やトレーニングをしました。

3年生は西高校での生活、部活動で学んだことを生かしてこれからの新しい生活、夢に向かって頑張りたいと思います。

最後に、このような活動ができるのも保護者の皆様方、学校関係者の皆様方のおかげです。感謝

の心を忘れず今後も生徒と共に頑張っていきたいと思えます。

【大会結果】

- ・スプリングチャレンジカップ(R5. 4. 29)
 - 1回戦 高山西2 - 0 大垣桜
 - 準決勝 高山西2 - 0 各務原
 - 決勝 高山西0 - 2 海津明誠
 - ※2部準優勝
- ・岐阜県高校総体飛騨地区予選(R5. 5. 6)
 - 1回戦 高山西0 - 2 斐太
- ・飛騨地区総体(R5. 7. 17)
 - 1回戦 高山西2 - 0 飛騨神岡
 - 準決勝 高山西2 - 0 斐太
 - 決勝 高山西0 - 2 飛騨高山
- ・全日本高校選手権岐阜県予選(R5. 10. 22)
 - 1回戦 高山西2 - 0 池田
 - 2回戦 高山西1 - 2 多治見北

美術部

脇田 修宏

今年度の美術部の部員は、3年生8名、2年生8名、1年生6名の合計22名（男子5名、女子17名）で活動しています。多くの彫刻作品を発表し、全国規模で活躍、評価されている松本弘司先生の指導のもと、部員全員が和気藹々とした雰囲気の中で、「美術」を楽しみながら、高度な技術や表現力などを学んでいます。

例年の活動は、9月に開催される飛騨市美術展、11月に開催される岐阜県高等学校総合文化祭や高山市美術展、12月に開催される飛騨地区高等学校美術展覧会（高美展）など、たくさんの発表を目標とした制作でしたが、今年度も岐阜県高等学校総合文化祭、高山市美術展、高美展への出品となりました。高山市美術展においては、3年A

組の戸谷公輔君の作品『ギリシャ神話の3兄弟』の市長賞をはじめ、多数の作品が入賞を果たし、岐阜県高等学校総合文化祭においては、1年L組の岩島百音さん、2年J組の武満美月さんが入選しました。

今年度は、今まで以上にコツコツと地道な活動ができ、基本的な技術の習得や表現力など、時間をかけた活動ができたかと思います。そのためか、受賞者の割合は多く、評価される力がついてきたように思われます。来年度は、今年度のような活動はもちろんのこと、発表の場も増えてくると思いますので、高山市美術展や岐阜県高等学校総合文化祭などでの入賞者がさらに増えるよう、様々な角度から芸術に触れ、さらに活動を盛り上げていきたいと考えています。

◎岐阜県高等学校総合文化祭 入選2名

◎高山市美術展 市長賞1名 文化協会賞1名
市展運営委員会賞1名 など

陸上競技部

廣田 孝

5月にコロナの制限が、5類に変更となり、要約4年前のような活動や、大会も行われるようになりました。選手も新たに目標を持って大会に望める様になったと思っています。しかし、飛騨地区はもちろんのこと、岐阜県内の高校生の陸上競技を志す生徒数が減り、インターハイの地区予選が廃止となりました。今年度からはインターハイを目指す予選は、県大会からとなりました。選手は自分の力を試す大会が減ったことで、不安を持っての令和5年度シーズンを迎えることになりました。

そんな中、6名の選手が県予選を突破し、東海予選に出場することができました。しかし、残念ながら東海大会を突破して、インターハイに出場できる選手はだせませんでした。

秋の県高校新人大会では、男子が総合6位に入りました。のべ7名が、東海高校新人大会への出

場を果たし、来シーズンに向けての期待が高まっています。

駅伝では、県高校駅伝大会で女子は今年も、2位となり3年連続3回目の東海高校駅伝を果たしました。また、東海高校駅伝では、西高校女子として過去最高順位の13位となりました。今年は男子も県高校駅伝大会で5位となり、4年振り2回目の東海高校駅伝大会に出場を果たしました。

他校に比べると、部員数は多くはないのですが、選手一人ひとりが高い目標を持って練習に臨むことができるため、着実に力を付けてきていると思います。令和6年度シーズンでは全国高校総体(インターハイ)、国民スポーツ大会(国体)、全国高校駅伝への出場できるように、日々の練習を大切にして、頑張りたいと思っています。

<令和5年度 大会結果>

●岐阜県高校総体 (長良川競技場)

<男子>

5000m	内木 幹基	15'15"82	5位
400mH	若田 理央	56"19	5位
八種競技	鈴木 瑛太	4147点	2位

<女子>

1500m	久保 花月	4'44"62	3位
1500m	長瀬 里菜	4'51"28	8位
3000m	久保 花月	10'13"12	3位
3000m	長瀬 里菜	10'30"58	6位
走幅跳	桂木 風歌	5m13	3位
三段跳	桂木 風歌	10m58	4位
女子総合得点		15点	6位

●東海高校総体 (エコパスタジアム)

<男子>

5000m	内木 幹基		DNS
400mH	若田 理央	57"89	予選敗退
八種競技	鈴木 瑛太	4199点	15位

<女子>

1500m	久保 花月	4'52"04	予選敗退
3000m	久保 花月	10'12"41	16位
	長瀬 里菜	10'35"03	22位
走幅跳	桂木 風歌	10m49	16位

●岐阜県選手権 (長良川競技場)

<男子>

B 110mH 藤本 遥斗 16" 40 3位

<女子>

1500m 久保 花月 4' 43"60 7位

5000m 長瀬 里菜 18' 42"63 10位

5000m 久保 花月 17' 53"35 3位

7種競技 桂木 風歌 3230点 4位

砲丸投 三井 蒼葉 8m91 7位

●飛騨地区高校総体 (中山競技場)

<男子>

400m 若田 理央 50"37 優勝

800m 坂上 颯 2' 02"91 優勝

1500m 白川 遼 4' 14"39 2位

1500m 谷口 諒真 4' 21"92 3位

5000m 白川 遼 16' 18"69 2位

5000m 白川 遼 16' 26"16 3位

110mH 若田 理央 16"49 2位

走幅跳 渡邊 慶二郎 6m50 2位

走幅跳 木本 善仁 6m24 3位

走高跳 鈴木 瑛太 1m70 2位

三段跳 鈴木 瑛太 12m55 3位

砲丸投 足立 聖太 8m93 3位

円盤投 足立 聖太 23m55 2位

円盤投 小笠原 悠太 23m47 3位

4x400mR 足立. 若田. 鈴木. 山下 3' 31"57 優勝

男子総合得点 117点 優勝

<女子>

800m 久保 花月 2' 20"67 優勝

800m 玉田 心羽 2' 27"47 3位

3000m 久保 花月 10' 21"64 優勝

3000m 長瀬 里菜 10' 39"58 2位

3000m 大谷 紗奈 10' 46"80 3位

100mH 桂木 風歌 17"58 2位

走幅跳 桂木 風歌 5m38 優勝

走高跳 桂木 風歌 1m40 優勝

走高跳 櫻野 双葉 1m30 3位

円盤投 三井 蒼葉 25m07 優勝

砲丸投 三井 蒼葉 8m21 優勝

女子総合得点 76点 2位

●岐阜県高校新人陸上大会 (長良川競技場)

<男子>

200m 山下 誓己 22"82 6位

400m 若田 理央 50" 50 4位

800m 坂上 颯 2' 00"94 7位

5000m 白川 遼 15' 59"07 7位

400H 若田 理央 55"11 優勝

3000mSC 森本 欽也 9' 49"60 優勝

三段跳 鈴木 瑛太 13m21 6位

4x100mR 藤本. 渡邊. 大野. 山下 42"66 2位

男子総合得点 24点 6位

<女子>

砲丸投 三井 蒼葉 8m95 6位

円盤投 三井 蒼葉 25m52 5位

●岐阜県高校駅伝競走大会

(高富町四国三香りの森周辺コース)

<男子>

2時間20分04秒 5位

(白川遼・坂上颯・日古見那由他・谷口涼真・内木幹基・山本克己・森本欽也)

<女子>

1時間17分32秒 2位

(久保花月・大谷紗奈・玉田心羽・田口莉子・長瀬里菜)

●東海高校駅伝競走大会

(静岡県エコパ競技場周辺コース)

<男子>

2時間22分22秒 23位

(日古見那由他・坂上颯・谷口涼真・白川遼・河合諒真・山本克己・内木幹基)

<女子>

1時間17分32秒 13位

(久保花月・大谷紗奈・玉田心羽・澤田麻莉乃・長瀬里菜)

4. 国際交流



英語スピーチコンテスト

英語科 ブレイルスフォード 雅

令和5年10月22日（日）に岐阜県総合教育センターにて、岐阜県教育委員会（学校支援課）が主催する「第16回岐阜県高等学校英語スピーチコンテスト」が実施された。今年度は予選となる飛騨地区大会で2年生の中丸いろ葉さんが1位に、そして1年生の牧坂さよさんが2位となり、本大会への出場権を得て参加することとなった。中丸さんは今年3月開催されたWorld Baseball Classicの試合観戦をする中で、野球ファンとしてスポーツを楽しんだだけでなく、これからの自分に必要となる2つの教訓が得られたという経験をスピーチにした。一方、牧坂さんは動物虐待が気付かないうちに日常生活の中で起こっていると知り、虐待をなくし動物たちと共に平和に暮らすことのできる社会をつくるために人々ができることについて考えたことをスピーチにした。

Inspired by the World Baseball Classic

NAKAMARU, Iroha
Takayama Nishi High School

The World Baseball Classic is a baseball championship held once every four years. Each country chooses their strongest players to compete and become the best in the world. It was held this year in March.

I love watching baseball with my family. We watch games together every weekend, and sometimes we go to Nagoya Dome, too. Baseball brings my family together, so we looked forward to watching The World Baseball Classic. This year, it became very meaningful to me and taught me two important lessons.

In the championship, Japan's first opponents were China, South Korea, the Czech Republic, and Australia and we quickly defeated them all to become first within our group. In the quarter finals, we defeated Italy without a problem, too. We had such a strong team! My family and I were so excited.

In the semi-finals our opponent was Mexico. They were strong, and the whole game went back and forth. In the end, we needed two more points to win. Munetaka Murakami stood at bat. He's the youngest player in history to win the triple crown. But he had one of the worst performances on the Japanese team. He had only two hits and eight strikeouts. Against Mexico, he already had 3 strikeouts, and now it was all up to him. He hit a foul ball off the first pitch. From the stands, he could hear fans criticizing him.

How would you feel in this situation? Would you still believe in yourself? Would you quit?

When I'm in a stressful situation or if something is too difficult, I can't stand the pressure and I give up. I could not imagine the kind of pressure Murakami had.

But he believed in himself. He swung the bat and hit the ball in the far center, which became the final hit of the game. Two runners made it home, giving us two points to win. It was amazing! Even with all that pressure, Murakami never gave up.

His performance was so inspiring to me. If he was able to act under so much pressure, I can do the same. I shouldn't give up. This was the first lesson I learned.

The second lesson I learned was from Shohei Otani. Before the final game against USA, he gave a passionate speech to his teammates. "We must aim for the win. Let's stop admiring them, because if you admire them, you cannot surpass them. Let's only think about winning."

His speech was inspiring to me. Many members of the Japanese team must have been in awe at their current situation. For many Japanese players, it's their dream to go to America and play for a Major League team. And now, they face the American team filled with their heroes.

I felt the same way when I started high school. Everyone in my class was so much smarter than me. They got higher scores on tests, and they won many awards from competitions. I wanted to be like them, but I thought it was just a dream. Do you feel that way, too?

Otani's speech taught me that you'll never make your dream come true if you only think of it as a dream. You should always do your best for yourself, and not compare yourself to others.

Taking Otani's words to heart, the Japanese team defeated America and won the World Baseball Classic. They surpassed their limits to become the best in the world.

All of us have many dreams we want to achieve. To achieve these dreams, we must do our best without caring about pressure and without caring about the performance of others. Because of the World Baseball Classic, I no longer think of myself as an extra person in my class. I am inspired to work hard with my classmates to make my dreams come true.

Thank you.

Living in Peace with Animals

MAKISAKA, Sayo
Takayama Nishi High School

My family loves animals. My father is a veterinarian, and he takes care of the cows in Hida. Whenever a cow is in distress, he will rush to the farm, even if it's the middle of the night. He often talks to us about the importance of animal life. He says animal lives are just as important as our lives. So, animals are very close to me.

One day, I was watching TV with my parents, and I saw some shocking news. It was about a festival in Mie called the Horse Jumping Festival. In this festival, young men ride a horse up a very steep slope on horseback. The number of times a rider reaches the top predicts the success of agriculture for that year. This is a very historic and traditional festival that began in the late 1300s, and now, it is designated as an Intangible Cultural Property of Mie Prefecture.

So, what is wrong with this festival?

It is very difficult for the horses to go up the steep hill. If they can't do it, the horses will fall

and break their legs. The horse is in so much pain that we have to kill it. In the last 15 years, four horses have been killed. This year too, a horse fell and broke its left leg. The vet had to kill it. Also, people in the festival are seen hitting the horses with ropes to get them to go faster.

This was the news that shocked me. I feel so sad for those horses. Festivals are traditional events for Japanese people to pray for peace, health, and a bountiful harvest. But I think it's unforgivable to take the lives of animals as a result.

Because of this, I was curious about other kinds of animal abuse. I found animal abuse often happens in our daily lives and we don't realize it.

For example, have you heard of the term catch and release? Catch and Release is a method of fishing where you catch a fish and release it back in the water. People think it's a good way to have fun and still protect nature. But it's not. Fish that are released will have deep cuts in their mouth from the hook. These cuts make it difficult for the fish to eat, and the fish dies in agony after a few days. Even though people release them, they are still killing the fish. I was surprised to learn humans were using the lives of fish for their own entertainment, and that this entertainment led to the abuse and death of fish.

It may be shocking to hear animal abuse like this isn't so far away. It's happening all around us. It can be buying cheap pet food without knowing the ingredients. Or leaving a pet outside without knowing if they're sensitive to extreme heat or cold.

To solve this problem, we need to understand animals have the same right to live as humans. There is no such thing as big or small in the size of life. Humans don't have the right to take lives of animals unreasonably.

Ever since I was a child, my mother always taught me I shouldn't do anything to anyone I wouldn't want done to me. It's important to always think about the other person's point of view, even if it's an animal. This is the meaning of compassion. If each of us has a kind heart and helps each other, we can create a world where everyone can live in peace together.

Thank you

令和5年度国際交流

国際理解教育 井上 正己

○シンガポール留学生受け入れ

シンガポール留学生について

機関：シンガポール教育省語学センター

高校名 Temesek Junior College, Raffles Institution, Hwa Chong Institution,

River Valley High School, National Junior College

令和5年度受け入れ内容

期間：11月27日（月）～12月1日（金）

参加者：男子生徒4名、女子生徒6名、引率教諭2名 計12名

学年：中学4年生・高校1年生（シンガポールは中学校4年制です）

活動内容：異文化交流

対象クラス：1年F・G組

滞在日程 11月27日（月）	授業参加・ウェルカムパーティー
11月28日（火）	授業参加・日本語ディスカッション
11月29日（水）	授業参加・英語ディベート、部活動見学
12月1日（金）	授業参加・部活動見学・フェアウェルパーティー

例年同様、シンガポール留学生の受け入れを行った。今年度は、シンガポールの高校1年生だけでなく、中学4年生を受け入れることとなった、1年F組と1年G組クラスに入り、通常の授業にも参加した。「日本の高校生と生活を共にし、日本の文化や言語の習得に努め、授業の一環として英語ディベートや日本語でのディスカッションを行い、共通のテーマをもとに学習する」を今回の研修のテーマとし交流を図った。研修中は主にシンガポールの生徒に担当生徒が付き添い授業に参加した。彼らは日本語を学習してきているため、日本語習得レベルは非常に高く、読み・書きも素晴らしいものであった。平仮名・カタカナ・漢字を上手に使い、メモを取りながら授業内容を理解していた。

部活動見学では、アーチェリー部と茶華道部、ウィンドアンサンブル部を見学し、体験も行った。茶道では慣れない正座に苦戦しながらも、日本のお茶文化について深く学ぶことができた。非常に和やかに部活動を見学し、文化の違いを楽しみながら学んだ。

1年F・G組と行った調理実習では、ちらしずしを作った。シンガポールでは家庭で作って食事を行うよりも外食が中心であり、家庭で料理を作る機会が少ないようだ。そのため留学生の中には、初めて料理をする生徒もいた。

1年K組と1年L組との交流は、日本語のディスカッションの授業を行った。シンガポールの生徒が「高山の観光」「学校生活」「第2・第3言語習得論」「食文化」「教育のデジタル化」「日本の方言」のテーマに関してそれぞれのグループに分かれて行った。シンガポールと日本との違いを認識し、共に交流を深めた。

英語ディベートでは、”Japanese government should admit gestational surrogacy.”を議論のテーマとして行った。「日本政府は、代理母出産を認可すべきか。」という非常に考えさせられるテーマだったため、様々な視点からの議論がなされた。シンガポールの生徒は、たった1か月程度の準備期間だったにも関わらず、全国大会に出場する2年G組の生徒に対して、互角のディベートを行った。シン

ガポールを代表する生徒たちの凄さを実感することができた。

最終日には、シンガポールの生徒と1年F・G組の生徒たちとフェアウェルパーティーを9時限目に行った。そこでは、マシュマロパスタゲームを行った。どれだけ高い位置でマシュマロをパスタにつけられるかというゲームだ。シンガポールの生徒と日本人生徒が考え、協力しながら積極的に活動していた。ゲームは盛り上がり、大いに楽しんだ様子だった。1週間という短い交流だったが、国が異なるということは関係なくお互いが友人となり、別れを惜しむ声があった。涙があふれる生徒たちもあり、短期間の間であってもこれほど深い関係が築けるのだと気づかされた。

今後も交流の内容をより深め、両国の関係をよくできればと思う。また、この交流がグローバル化の進む現代において大切な役割となってくれたらよいと感じる。



○デンバー高校生の学校訪問

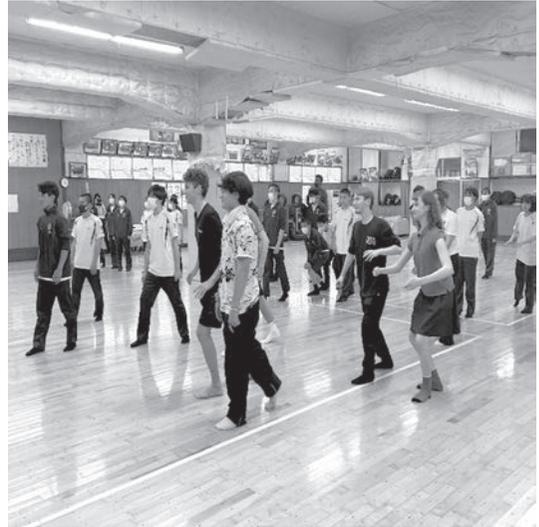
対象クラス：2年J組（バスケ部の留学生のジェシーとネドゥーも参加した）

部活動見学：書道・ウィンドアンサンブル

市役所と連携し、第17次デンバー高校生訪問団受け入れを行った。

6月12日（月）15:10～16:50

デンバーの高校生たちと日本のゲームをしながら、交流した。デンバーの生徒は基本的に英語しか話せない生徒が多かったが、2年J組の生徒たちは英語の単語とジェスチャーを使いながらゲームを盛り上げてくれた。1つ目は、「いっせーの一で」の掛け声で始まる親指ゲームを行った。デンバーの生徒には日本語の数字の読み方を覚えてもらい、協力してもらった。2つ目は、「だるまさんが転んだ」を格技場にて行った。英語ではRed light, Green light（レッドライト・グリーンライト）というものがあり、非常によく似ている遊びがある。文化が異なっても、共通するものがあり、それを共有することが出来たことはお互いにとって有意義なものだった。部活動見学では、ウィンドアンサンブルでの演奏を聞かせていただいた。デンバーの生徒たちは、非常に感銘を受けていた。書道部では、実際に文字を書く経験ができ、楽しみながら自分の書きたい字を自分なりに表現していた。



○ ルーマニアのボランティア発表（英語）について

対象クラス：1年F・G組

10月3日（火）15:00～16:50

内容：ボランティアに参加した理由、経緯、活動報告のほか、シビウ市の魅力など発表し、その後交流する

発表言語：英語

ルーマニアの文化や日本の文化を互いに活発に交流した。何か国語も話すのが当たり前のルーマニアの学生に、「どうやって英語を勉強するのか」や「ルーマニアの教育についての違い」などの質問が飛び交い、良い経験となる交流ができた。



○韓国との交流

対象クラス：2年F組

11月 8日（水）10:30～11:30 online(zoom)

1月の学校訪問があるため、お互いにオンラインにて自己紹介をした。2年F組では、ダンスの披露や韓国語で自己紹介をする生徒もおり、にぎやかな雰囲気での交流することが出来た。1月10日（水）には高山西高校でさらに交流を深めていく。

1月10日（水）：高山西高校来校



○岐阜大学ブラジル・ペルーの留学生との交流

対象クラス：2年G組

12月14日（木）12:55 ～ 14:35

岐阜大学の留学生2名が自国のプレゼンテーションを生徒たちに向けて行った。遠く離れた国の事について考える機会をいただき、生徒たちも異なる文化や食事、知らない動物などに興味を持って傾聴していた。発表後は、生徒たちが英語で質問や感想を述べ、懸命に自分の意見や感想を伝えようとする姿があった。また、グループでのディスカッションは、自国の伝統的なゲームや観光地のことなどについて話し合い、大いに盛り上がっていた。



5. その他

令和5年度 職員一覧

職名	氏名	担当教科
理事長・校長	小林隆徳	理科
副校長	小谷口正彦	理科
教頭	横田匡司	数学
教諭	野村国広	国語
教諭	田邊元	国語
教諭	田口喜恵	国語
非常勤講師	熊崎利光	国語
非常勤講師	井村英行	国語
非常勤講師	芝原靖	国語
非常勤講師	山本茂	国語
非常勤講師	神谷耕一	国語・書道
非常勤講師	熊崎陽一	国語
教諭	山本大輔	地歴公民
教諭	桂川剛士	地歴公民
教諭	蟹江信介	地歴公民
教諭	菅沼孝司	地歴公民
常勤講師	面手啓	地歴公民
常勤講師	脇田修宏	地歴公民
教諭	上西貞幸	数学
教諭	瀬瀬貴洋	数学
教諭	岩坂晋	数学
教諭	橋下大介	数学
教諭	平野由輝	数学
教諭	山下祐晃	数学
常勤講師	松岡慶志郎	数学
非常勤講師	和田英宏	数学
教諭	川上千敏	理科
教諭	三川俊哉	理科
教諭	木伏智仁	理科
教諭	出崎太二郎	理科
教諭	田中夕貴	理科
非常勤講師	役田雅	理科
非常勤講師	柿下純一	理科
教諭	池上正巳	保健体育
教諭	宇都宮宏美	保健体育
教諭	下畑耕一	保健体育
教諭	前川矩英	保健体育
常勤講師	廣田孝	保健体育
常勤講師	打江勇太郎	保健体育

職名	氏名	担当教科
非常勤講師	直井亜矢子	音楽
教諭	江黒永寿	英語
教諭	元田尚美	英語
教諭	堀尾讓	英語
教諭	鈴木慎太郎	英語
教諭	Brailsford 雅	英語
教諭	荒井啓太郎	英語
教諭	井上正己	英語
非常勤講師	宮代和枝	英語
非常勤講師	河渡彩子	英語
A L T	Hendricks James Victor	英語
非常勤講師	西田由紀子	英語
非常勤講師	藤下純子	家庭
教諭	新海亮人	情報
養護教諭	山崎須磨子	
事務局長	内木慎吾	(部活)
事務	永瀬敬至	(部活)
事務	杉浦成利	
事務	森下晃次	
事務	牧野幸恵	
事務	砂田千晶	
事務	北村聡枝	
事務	清水千絵	
事務	倉坪旭	
校務	水上泰宏	
売店	津野美香	
業医	岩堤俊明	
校医	浅野寿夫	
校医	高井秀典	
校医	長瀬裕平	
校医(歯)	藤井琢	
学校薬剤師	伊藤正隆	

令和4年～令和5年 高山西高等学校 略年誌(月間行事予定から)

1 / 4 進学補習(～7日)	3 / 19 進学補習(～24日)	7 / 4 進路の日(全学年)、 職員会議
1 / 5 登校日として補習・部 活動実施(～6日)	3 / 21 併願一日入学	7 / 10 迷惑調査、授業評価ア ンケート、情報モラル 研修会
1 / 11 始業日、課題テスト、 委員会の日、企画委員 会	4 / 3 辞令交付・職員会議	7 / 11 3者懇談期間(～20日)
1 / 12 漢字テスト⑨	4 / 6 企画委員会・職員会議	7 / 12 漢字テスト④
1 / 14 大学入試センター試験 (～15日)	4 / 7 入学式	7 / 21 終業日
1 / 23 3年学年考査(～26日)、 ぎふグローバルの日 (～24日)	4 / 10 始業式、1年生校内研 修(～12日)	7 / 23 進学補習(～29日)
1 / 24 職員会議	4 / 12 育友会役員会	7 / 24 登校日として補習・部 活動実施(～25日)
1 / 28 特推入試	4 / 18 漢字テスト①、委員会 の日、企画委員会	8 / 5 進学補習(～10日)
1 / 31 企画委員会	4 / 21 身体測定	8 / 6 ぎふグローバルの日 (～7日)
2 / 4 一般入試	4 / 24 生徒総会	8 / 17 オープンキャンパス (～18日)
2 / 7 職員会議	4 / 25 職員会議	8 / 19 進学補習(～25日)
2 / 13 学年末考査(～16日)	5 / 8 委員会の日、企画委員 会	8 / 21 登校日として補習・部 活動実施(～22日)
2 / 20 親父ゼミナール	5 / 9 漢字テスト②	8 / 24 育友会模擬面接
2 / 21 ぎふグローバルの日 (～22日)	5 / 11 育友会総会	8 / 28 始業日、課題テスト (数理社)、職員会議
2 / 22 漢字テスト⑩	5 / 15 職員会議	8 / 29 課題テスト(英国)、 委員会の日
2 / 27 3年生を送る会	5 / 17 市内研修(全学年)	
2 / 28 3年終了式、卒業式予 行、同窓会入会式	5 / 22 生徒対象進路ガイダンス	
	5 / 31 企画委員会	
	6 / 2 職員会議	
3 / 1 卒業式	6 / 5 前期中間考査(～8日)	9 / 4 企画委員会
3 / 3 専願一日入学	6 / 8 防犯講話、交通講話	9 / 5 体育祭
3 / 6 企画委員会	6 / 9 生徒会長選挙、東海総 体壮行会	9 / 11 ぎふグローバルの日 (～12日)、職員会議
3 / 7 委員会の日、企画委員 会	6 / 13 漢字テスト③、委員会 の日	9 / 14 漢字テスト⑤
3 / 11 ぎふグローバルの日	6 / 14 保護者対象進路ガイダ ンス	9 / 19 前期期末考査(～22日)
3 / 12 ぎふグローバル研究発 表会	6 / 19 西高祭	9 / 22 創立記念講演会(原田 隆史氏)
3 / 13 職員会議	6 / 26 ぎふグローバルの日 (～27日)	9 / 26 2年生研修旅行(～29日)
3 / 17 修了式、企画委員会 職員会議	6 / 27 企画委員会	

- 10/2 委員会の日
10/3 企画委員会
10/6 前期終業式
10/10 後期始業式、
10/11 中学生個別説明会①
10/12 漢字テスト⑥
10/16 作業体験学習、職員会
議
10/16 公開授業週間
(～11/15)
10/22 中学生体験入学
10/27 創立記念講演会(村尾
信尚氏・茂住菁邨氏)
10/30 委員会の日、企画委員
会
10/31 進路の日(全学年)
- 11/7 職員会議
11/9 漢字テスト⑦、中学生
個別説明会②
11/13 ぎふグローバルの日
(～14日)
11/20 後期中間考査(～24日)
11/27 企画委員会、行事検討
委員会
11/28 中学生個別説明会③
- 12/1 フラワーアレンジメント
12/4 職員会議、租税講座
12/6 漢字テスト⑧
12/11 迷惑調査、入試委員会
12/12 委員会の日
12/13 カリキュラム委員会
12/20 終業日
12/21 進学補習(～26日)
12/21 登校日として補習・部
活動実施(～22日)



高山西高等学校育友会役員

会 長 下畑 了三
副 会 長 堀之上 亮一 和田 靖史
島光 隆
清水 智弘 荒家 正紀
田中 宏 奥田 健二
書 記 岩堤 友紀
会 計 角竹 祥江
監 事 飯山 和義 倉坪 美紀

高山西高等学校学校後援会役員

顧 問 金子 俊平
会 長 打江 信夫
副 会 長 林 誠 下畑 了三
川島 正人
理 事 洲岬 孝雄 松之木 映一
久保田 彰 平 和民
有巢 正洋 新井 裕輔
庶務会計 杉本 敦司
監 事 二木 長右衛門 鈴木 貞夫

高山西高等学校同窓会役員

会 長 新井 裕輔
副 会 長 角川 祐三子 野中 寛之
山本 規雄 平 康裕
榎坂 純一 野澤 竜弥
代表幹事 天木 伴也 鴻巣 庄吾
井辺 義直 鴨林 周平
永倉 健太 鳩谷 剛
谷邊 智之
会 計 加藤 克彦 瀬木 貴子
監 事 谷口 智 松之木 崇夫

編集後記

今年は新型コロナウイルスの5類感染症移行により、学校行事や部活動の大会が以前のように実施できるようになりました。そのため、学校が活発になってきたと実感しています。新型コロナウイルスの影響で私たちの生活環境が大きく変化しました。しかし、慣例化してきた事を見直す機会になったとも思います。少しずつ社会が変化しています。高山西高等学校としても臨機応変に対応して飛騨地区の教育をさらに高められるように努力していきたいと考えています。

今後、より良い高山西高等学校にしていくために、多くの方々のご支援や叱咤激励をよろしくお願い致します。

編集委員

委員長	田邊	元
委員	野村	国広
	田口	喜恵

校誌 見量山 第30号

令和6年3月1日発行

発行所 高山西高等学校

〒506-0059 岐阜県高山市下林町353番地

TEL 0577-32-2590 FAX 0577-33-9911

URL <http://www.takanishi.ed.jp/>

発行者 小林隆徳

印刷所 (有) 高山ビジネスマシン

高山市桐生町8丁目490番地
